

# 第 69 回通常総会 議案書附属資料

1. 理事会・監事会の 2025 年度開催報告	P. 03
2. 理事会委員会等活動報告	P. 10
(1) 全国組織委員会	P. 11
(2) プロジェクト・政策委員会	P. 36
(3) 大学生協奨学制度推進委員会	P. 42
3. ブロック活動報告	P. 44
(1) 各ブロック報告	P. 45
(2) 各ブロック運営委員会・常任運営委員会の 2025 年度開催報告	P. 59
4. 大学生協設立支援金の運用状況報告	P. 75
5. 2026 年度 会費一覧	P. 77
6. 2026 年度 大学生協連への出資金増資要請、および減資	P. 85



2025 年 12 月 20 日～21 日 於／つくば国際会議場  
全国大学生生活協同組合連合会

## 1. 理事会・監事会の 2025 年度開催報告

<2025 年度 理事会開催報告>

■第1回理事会

1. 日時 2024 年 12 月 15 日（日）14：35～14：41
2. 会場 つくば国際会議場 Leo Esaki メインホールおよび Zoom システム（オンライン）
3. 出席者（出席理事）理事総数 42 名中、31 名出席  
（途中出席・途中退席）なし  
（欠席理事） 11 名  
（出席監事） 7 名  
（欠席監事） なし
4. 議長 中森一朗 理事
5. 議事

【議決事項】

- 第1号議案 代表理事選定の件
- 第2号議案 会長理事、副会長理事、専務理事及び常務理事選任の件
- 第3号議案 業務執行理事及び執行役員選定の件
- 第4号議案 2025 年度理事会委員会の設置及び委員長等選任の件
- 第5号議案 常任理事会の構成決定の件
- 第6号議案 顧問選任の件
- 第7号議案 役員報酬決定の件
- 第8号議案 理事以外の学生常勤及び教職員委員会副委員長の手当の額決定の件
- 第9号議案 専務理事・常務理事に事故あるときの職務代行順序決定の件

【報告事項】

- 第1号議案 コープ共済連への役員の派出について
- 第2号議案 コープ共済連大学生協部会運営委員の推薦について
- 第3号議案 理事会議事録の迅速な作成のための「代理押印承諾方式」について
- 第4号議案 2025 年度の諸会議日程について

■第2回理事会

1. 日時 2025 年 2 月 15 日（土）13：00～16：53
2. 会場 大学生協杉並会館会議室および Zoom システム（オンライン）
3. 出席者（出席理事）理事総数 41 名中、36 名出席  
（途中出席・途中退席）3 名  
（欠席理事） 5 名  
（出席監事） 6 名  
（欠席監事） 1 名
4. 議長 柿下 創 理事
5. 議事

【議決事項】

- 第1号議案 会員生協役職員教育研修積立金によるセミナー費用等参加費用補助支給基準設定の件
- 第2号議案 「経営不振生協の再生に向けた支援・指導制度」策定の件
- 第3号議案 全国加入 Web システムの 2026 年度新学期対応における譲渡・開発・固定資産除却等の件
- 第4号議案 経理規則改定及び取引金融機関廃止決定の件

【協議事項】

- 第1号議案 大学生協の全体概況と大学生協「再生」基本方針の具体化について
- 第2号議案 国際協同組合同年（IYC2025）大学生協の取り組み方針具体化状況
- 第3号議案 全国共同仕入事業再構築方針の具体化について

- 第4号議案 第68回通常総会ならびに全国パワーアップ交流会のまとめと今後に向けて
- 第5号議案 2025年度新学期活動の推進と2026年度に向けて
- 第6号議案 「2025年度組合員が参加し協働したいと思える大学生協づくり」の具体化について

【報告事項】

- 第1号議案 大学と生協をめぐる情勢について
- 第2号議案 第68回通常総会開催報告
- 第3号議案 理事会・理事会委員会等報告
- 第4号議案 会員生協・ブロック活動報告
- 第5号議案 全国事務局報告
- 第6号議案 その他

【監事（会）事項】

- 第1号議案 監事（会）報告

■第3回理事会

1. 日時 2025年5月17日（土）9：30～13：13
2. 会場 大学生協杉並会館会議室およびzoomシステム（オンライン）
3. 出席者（出席理事）理事総数41名中、31名出席  
 （途中出席・途中退席）1名  
 （欠席理事） 10名  
 （出席監事） 7名  
 （欠席監事） なし
4. 議長 砂川凜 理事
5. 議事

【議決事項】

- 第1号議案 第69回通常総会開催日程・会場決定の件
- 第2号議案 TK基盤の閉塞及びTK基盤暫定共用システムの終了決定の件
- 第3号議案 大学生協事業センターとの新基本契約締結の件
- 第4号議案 「会員経営支援金制度運用規則」廃止の件
- 第5号議案 職務分掌規則一部改正の件
- 第6号議案 役員報酬等に関する規則一部改正の件
- 第7号議案 役員報酬決定の件
- 第8号議案 幹部人事決定の件

【協議事項】

- 第1号議案 大学生協の全体概況と大学生協「再生」基本方針の具体化について
- 第2号議案 国際協同組合同（IYC2025）大学生協の取り組み方針具体化状況
- 第3号議案 第69回通常総会および付随企画の運営について
- 第4号議案 2025年度新学期活動の推進と2026年度に向けて
- 第5号議案 「2025年度組合員が参加し協働したいと思える大学生協づくり」の具体化について

【報告事項】

- 第1号議案 大学と生協をめぐる情勢について
- 第2号議案 理事会・理事会委員会等報告
- 第3号議案 会員生協・ブロック活動報告
- 第4号議案 全国事務局報告
- 第5号議案 その他

【監事（会）事項】

- 第1号議案 監事（会）報告

#### ■第4回理事会

1. 日時 2025年7月19日(土) 11:00~14:58
2. 会場 大学生協杉並会館会議室およびzoomシステム(オンライン)
3. 出席者(出席理事) 理事総数40名中、34名出席  
(途中出席・途中退席) 1名  
(欠席理事) 6名  
(出席監事) 4名  
(欠席監事) 3名
4. 議長 大西陸斗 理事
5. 議事

##### 【議決事項】

- 第1号議案 全国大学生協連第69回通常総会推進体制及び通常総会議案作成計画決定の件
- 第2号議案 「商品代金等の代払いに関する契約書」終了の件
- 第3号議案 理事会規則一部改正の件

##### 【協議事項】

- 第1号議案 大学生協の全体概況と大学生協「再生」基本方針の具体化について
- 第2号議案 国際協同組合年(IYC2025)大学生協の取り組み方針具体化状況
- 第3号議案 2025年度新学期活動の到達点と2025総括・2026方針について
- 第4号議案 2025年度全国方針の上半期総括と下半期に向けてのポイント
- 第5号議案 第69回通常総会の開催と当日の運営について
- 第6号議案 「2025年度組合員が参加し協同したいと思える大学生協づくり」の具体化について

##### 【報告事項】

- 第1号議案 大学と生協をめぐる情勢について
- 第2号議案 理事会・理事会委員会等報告
- 第3号議案 「2025年度 経営不振生協の再生に向けた支援・指導制度」経営支援対象生協と支援の枠組み報告
- 第4号議案 会員生協・ブロック活動報告
- 第5号議案 全国事務局報告
- 第6号議案 その他

##### 【監事(会)事項】

- 第1号議案 監事(会)報告

#### ■第5回理事会

1. 日時 2025年9月20日(土) 9:30~13:20
2. 会場 大学生協杉並会館会議室およびzoomシステム(オンライン)
3. 出席者(出席理事) 理事総数40名中、35名出席  
(途中出席・途中退席) 3名  
(欠席理事) 5名  
(出席監事) 6名  
(欠席監事) 1名
4. 議長 武島凌我 理事
5. 議事

##### 【議決事項】

- 第1号議案 第69回通常総会運営計画等決定の件
- 第2号議案 子会社の2025年度決算見込みと2026年度事業計画承認の件
- 第3号議案 コープ共済連が保有する株式会社大学生協保険サービスの株式190株の譲受の件
- 第4号議案 大学生協杉並会館 無線ネットワーク機器更新決定の件

- 第5号議案 2025年度決算方針及び2026年度予算案決定の件
- 第6号議案 2026年度理事会委員会「事業と新学期活動推進委員会」設置の件
- 第7号議案 幹部人事決定の件

【協議事項】

- 第1号議案 大学生協の全体概況と大学生協「再生」基本方針の具体化について
- 第2号議案 国際協同組合理年（IYC2025）大学生協の取り組み方針具体化状況
- 第3号議案 第69回通常総会議案第1次案に関する討議
- 第4号議案 議案検討会議・通常総会・全国パワーアップ交流会の開催について
- 第5号議案 「2025年度組合員が参加し協同したいと思える大学生協づくり」の取り組み到達と2026年に向けて

【報告事項】

- 第1号議案 大学と生協をめぐる情勢について
- 第2号議案 理事会・理事会委員会等報告
- 第3号議案 「2025年度 経営不振生協の再生に向けた支援・指導制度」経営支援対象生協と支援の枠組み報告
- 第4号議案 会員生協・ブロック活動報告
- 第5号議案 全国事務局報告
- 第6号議案 その他

【監事（会）事項】

- 第1号議案 監事（会）報告

■第6回理事会 <予定>

- 1. 日時 2025年11月22日（土）9:30～
- 2. 会場 大学生協杉並会館会議室およびzoomシステム（オンライン）

■第7回理事会 <予定>

- 1. 日時 2025年12月19日（金）16:00～
- 2. 会場 つくば国際会議場およびzoomシステム（オンライン）

<2025 年度 監事会開催報告ならびに監査実施報告>

第1回監事会

日時 2024 年 12 月 15 日（土） 14：44～14：47

場所 つくば国際会議場 及び Web 会議システム

出席 7 名（2 名 Web 出席）

議題

協議事項 1. 監事会議長互選の件

協議事項 2. 特定監事互選の件

協議事項 3. 監事報酬の件

報告事項 2025 年度監事（会）監査活動方針と年間計画（案）について

第2回監事会

日時 2025 年 2 月 15 日（土） 17：07～17：52

場所 大学生協杉並会館会議室 及び Web 会議システム

出席 6 名（2 名 Web 出席）

欠席 1 名

議題

協議事項 1. 2024 年度期末監査意見の今後の取り扱いについて

協議事項 2. 2025 年度監事（会）監査活動方針と年間計画について

協議事項 3. 2025 年度期中監査実施計画について

第3回監事会

日時 2025 年 5 月 17 日（土） 13：30～14：10

場所 大学生協杉並会館会議室 及び Web 会議システム

出席 7 名（6 名 Web 出席）

議題

協議事項 1. 2024 年度期末監査意見への回答と今後の取り扱いについて

協議事項 2. 2025 年度期中監査実施計画について

協議事項 3. ブロックの監査計画について

協議確認事項 監事スタッフ人事について

第4回監事会

日時 2025 年 7 月 19 日（土） 15：10～16：10

場所 大学生協杉並会館会議室 及び Web 会議システム

出席 4 名（2 名 Web 出席）

欠席 3 名

議題

協議事項 1. 2025 年度期中監査について

協議事項 2. 今後の監事（会）活動計画について

### 協議事項 3. 2026 年度監事定数と選任について

#### 第 5 回監事会

日時 2025 年 9 月 20 日（土） 13：30～14：32

場所 大学生協杉並会館会議室 及び Web 会議システム

出席 6 名（4 名 Web 出席）

欠席 1 名

##### 議題

協議事項 1. 東北ブロック監査について

協議事項 2. 2025 年度期末監査について

協議事項 3. 意思決定書の閲覧による監査の実施について

協議事項 4. 公認会計士の再任について

確認事項 1. 2026 年度監査費用（監事会）予算について

#### 第 6 回監事会（予定）

日時 2025 年 11 月 18 日（火）

場所 大学生協杉並会館会議室 及び Web 会議システム

##### 議題

協議確認事項 監査報告書について

協議事項 1. 監事候補者の選任を総会に付議することについての協議

協議事項 2. 監事の報酬について

#### 第 7 回監事会（予定）

日時 2025 年 11 月 22 日（土）

場所 大学生協杉並会館会議室 及び Web 会議システム

##### 議題

協議事項 1. 意思決定書の閲覧による監査結果の対応について

協議事項 2. 2025 年度期末監査の振り返りと期末監査意見書について

協議事項 3. 大学生協連総会監査実施計画について

#### 第 8 回監事会（予定）

日時 2025 年 12 月 19 日（金）

場所 つくば国際会議場

##### 議題

協議事項 2026 年度監事(会)監査活動方針と年間計画について（申し送り事項）

#### 2025 年度期中監査及び代表理事と監事との会合

日時 2025 年 6 月 25 日（水） 13：00～17：00

場所 大学生協杉並会館会議室 及び Web 会議システム

出席 7 名（6 名 Web 出席）

#### 主な監査内容

- 1) 2025 年度上期決算概況報告ならびに財務・資金管理状況について
- 2) 2024 年度期末監査意見と回答について
- 3) システムの過去・現在・未来（今後の方向性）について

#### 代表理事と監事との会合

監事監査規則第 25 条（代表理事との定期的会合）にもとづく、代表理事との定期的会合  
協議テーマ

- (1) 大学生協連中期経営構造改善計画について
- (2) 経営不振生協の再生に向けた支援・指導制度について
- (3) 小規模生協の設立について

#### ブロック監査（東北ブロック）

日時 2025 年 8 月 4 日（月）

場所 大学生協仙台会館会議室

#### 主な監査内容

- 1) 業務全般に関する事項
- 2) 会計に関する事項
- 3) ブロック副運営委員長との懇談

#### 2025 年度期末監査及び代表理事と監事との会合（予定）

日時 2025 年 11 月 18 日（火）

場所 大学生協杉並会館会議室 及び Web 会議システム

#### 主な監査内容

- 1) 2025 年度事業報告書・決算関係書類等について
- 2) 経営不振生協の再生に向けた支援・指導制度の進捗状況について
- 3) 意思決定書閲覧監査について
- 4) 子会社（UCOM・大学生協事業センター）の状況と今後の方向性について

#### 代表理事と監事との会合

監事監査規則第 25 条（代表理事との定期的会合）にもとづく、代表理事との定期的会合  
協議テーマ

- (1) 中期経営構造改善計画の進捗状況と今後の展望について

#### 第 68 回通常総会監査（予定）

日時 2025 年 12 月 20 日（土） 21 日（日）

場所 つくば国際会議場

#### 主な監査内容

1. 総会受付・資格審査
2. 総会運営全般

以上

## 2. 理事会委員会等活動報告

### (1) 全国組織委員会

- 1) 全国学生委員会
- 2) 全国教職員委員会
- 3) 全国院生委員会
- 4) 全国留学生委員会

---

---

# 全国組織委員会

---

---

## 【全国学生委員会】

### 全国学生委員会 2025 年度活動方針総括

各ブロック・エリアの学生委員長と学生常勤で構成される全国学生委員会は、第 68 回通常総会で議決した活動テーマ及び活動方針に基づいて活動して参りました。今年度の成果と来年度に向けた検討事項をまとめ、2025 年度の活動のまとめとします。

#### 0. 全国学生委員会の位置づけ

理事会規則第 13 条及び、全国組織委員会に関する規則第 2 条に基づき、学部学生で構成される全国組織委員会である。連合会の目的である、組合員の生活改善・向上および豊かな学園生活の実現のために、理事会で提起された事項を軸に、学部学生等の組織として活動する。

#### 1. 全国学生委員会の役割

全国組織委員会に関する規則に基づき、以下の役割を担う。

第 3 条 各委員会は、総会及び理事会の決定にもとづき、次のことを行う。

- (1) 総会、理事会等が決する政策や、代表理事、業務執行理事、執行役員による会の業務執行に、会員の各階層の組合員や役職員の生活・実態・要望等を反映させる
- (2) 会の政策や決定を、各会員の理事会や階層別の役職員等に伝達するとともに、各委員会及びブロックにおいて具体化する
- (3) 会員の実践や課題等を集約し、各会員に普及すべき事例を紹介する
- (4) その他、各委員会委員長が必要と認めた事項

#### 2. 全国学生委員会の活動軸について

全国学生委員会は、当委員会の目的である「組合員の生活改善・向上及び豊かな学園生活の実現」を達成するために、2025 年度大切にしたいこととして以下の通り設定しました。

##### (ア) 全国理事会で協議・決定された内容を、ブロック・会員生協を通じて実現できるように具体化する委員会

全国大学生協連理事会のもとに設置された階層別委員会として、大学生協グループ全体で議論されている内容を、学生組合員の視点で分析・提案し、組合員の声や生活実態を踏まえた活動を会員生協ができる全国政策を実現していきます。また、ブロックを中心とした会員生協への支援を通じて、会員生協学生委員会が積極的に、組合員活動に取り組めることを目指します。

##### (イ) 学生組合員の視点で、自らの生活を向上・改善できる仲間を増やしていくために実践をする委員会

学部学生で構成される全国組織委員会として、学生の目線で自らの生活を見つめなおし、同じ学生の仲間や上級生・教職員・生協職員など多様な階層の仲間とともに、生活の向上・改善できることを目指します。また、よりよい大学生活の実現を目指す中で、学部学生としての主体的な参加や学びと成長を大切に、委員会として具体的な行動を実践していきます。

##### (ウ) 全国のブロック学生事務局活動の機能向上を実現するために具体化する委員会

各ブロック・エリアの学生委員長と学生常勤で構成される委員会として、ブロックの在り方やブロック運営の視点でブロック学生事務局活動の機能向上やブロック学生委員会等の機関会議について協議します。全国学生委員会間の学びあい・励ましあいを通じてよりよいブロックづくりを目指します。

### 3. 全国学生委員会の活動方針の振り返り

全国学生委員会では、全国の大学生協で取り組む活動方針を学生組合員として実現していくために、全国・ブロックの連帯や事務局機能を最大限発揮し、各会員生協での実践をサポートしていくことを目指し活動して参りました。

2025 年度の全国学生委員会では、「全国学生委員会の活動軸」を具体化する形で 3 つの活動方針を掲げました。

活動軸（ア）を具体化する方針として、全学委方針①「全国理事会で決めたことを階層別（学生）の視点から具体化します」、活動軸（イ）を具体化する方針として、全学委方針②「全国の学生委員会の活動に貢献し、組合員の生活・会員生協の発展につなげます」、活動軸（ウ）を具体化する方針として、全学委方針③「全国のブロック学生事務局活動の会員支援・分野推進をサポートします」を設定し、取り組んできました。

会議体としては、1 月、2 月、4 月、5 月、7 月、9 月、11 月の計 7 回全国学生委員会を実施し、1 月、2 月、7 月は対面で実施しました。

各回の協議内容等はこちらの全国大学生協連 HP に掲載の開催報告をご覧ください。

[https://www.univcoop.or.jp/handbook/handbook\\_573.html](https://www.univcoop.or.jp/handbook/handbook_573.html)

2025 年度全国学生委員会方針に基づいた振り返りを以下に記します。

全学委方針①「全国理事会で決めたことを階層別（学生）の視点から具体化します」

- 全国の大学生協の活動方針の具体化を行います。
  - ✓ 地域報告を通じて、活動方針の達成度合いを測ります。
  - ✓ 「組合員が参加し協同したいと思える大学生協づくり」「これからの学びと成長を支える大学生協づくり」についてチームを設けて、活動方針①③の具体化に向けて行動します。
  - ✓ 各ブロックの機関会議で協議の場を設け、各会員生協で具体化します。
- 組織委員会同士や全国大学生協共済推進委員会、全国社会的課題委員会との連携を強めます。
  - ✓ 積極的に交流の機会を設けるなど、各組織委員会との連携を強めます。
  - ✓ 全国大学生協共済推進委員会、全国社会的課題委員会での協議内容を全国学生委員会でも共有し、全国で取り組むべきことについて適宜協議を行います。活動方針②③の具体化に向けて行動します。

#### 到達状況

- 全国学生委員会が主管で運営している「全国学生事務局合宿」にて、2025 年度の活動方針のまとめと 2026 年度の活動方針について協議、各ブロックの現状や担当会員生協の現状から目指すべき方向性を考えることができました。
  - ✓ 個別会員支援を基本とした学びあいを通じ、これまでの活動を振り返るとともに、大学生協の経営問題や協同組合間協同、ブロック機能などを振り返ったうえで、検討することができました。
  - ✓ 経営不振生協の再生支援・指導制度などについて学習し、大学生協の現状と施策をもとに学生事務局としての支援・方針の具体化を考えました。
- 全国の大学生協で取り組むべきことについて、全国学生委員会の 3 つのチームで協議し推進しました。
  - 〈これからの学びと成長を支える大学生協づくりチーム〉
    - ✓ 学生と職員で大学生協が学びと成長に取り組む意義を確認し、会員生協や組合員に対してどのようなアプローチができるか協議しました。
    - ✓ 読書する意義は何か、まずは自分たちが本を読み実感して、ブロック事務局や会員生協、組合員に対して推進することができました。
  - 〈組合員が参加し協同したいと思える大学生協づくりチーム〉
    - ✓ 全国の大学生協の活動方針①「組合員が参加し協同したいと思える大学生協づくり」の具

<p>体化を理事会・全国学生委員会の場で討議を重ね、全国の会員生協で実践したい取り組みについて確認しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 意欲的に総代活動に取り組む会員生協の実践事例から、会員生協の総代とのつながりのポイントを討議しました。</li> </ul> <p>〈広報チーム〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 元気な学生委員会に取材する学生委員会インタビューを7ブロックで行う計画を立て、実行しました。</li> <li>✓ 著名人インタビューも継続し、大学生協の事業や活動に関連したお話や大学生へのメッセージをいただきました。</li> <li>✓ 大学生協連のHP リニューアルに際し、どんなHP にしたいかを協議しました。</li> </ul> <p>○ <u>新学期方針の達成を目指すために、年間を通じて新学期の取り組み集約や推進に向けて協議し、推進しました。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 25 年度新学期方針に沿った推進の課題や集約についての共有や教訓的な事例を共有しました。また、26 年度新学期方針の具体化のために必要なブロック事務局としての支援は何かなどを全国学生委員会で協議しました。</li> <li>✓ 新学期の早期化に合わせ、「高校生・保護者に対するアプローチ」について議論を行い、オープンキャンパス・高校訪問・保護者セミナー等から、大学生協の存在を早い段階から認知をしてもらうために、どのような取り組みができると良いかを考えました。</li> <li>✓ 「新学期の事業と政策の答申」の具体化の一つとして、新学期プロジェクト(職員・学生委員・学生アドバイザー等での新学期準備会議)の推進を行い、訪問や集約、入学準備説明会・サポートセンターの日程把握、訪問計画立てについて確認し、早期からの支援の強化について考えました。</li> </ul> <p>○ <u>活動方針①「組合員が参加し協働したいと思える大学生協づくり」の具体化に向けて、全国理事会での提案に合わせて、全国学生委員会や各ブロック学生事務局としてどのように推進をするのかを全国学生委員会で協議しました。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 理事会ハンドブックの改定にあたって、会員生協での理事・監事学習会の実施状況やハンドブックの活用状況について協議しました。</li> <li>✓ 総会・総代会の事前事後の取り組み、活発で執行力のある理事会、組合員にとって身近な生協店舗、親しみのある生協づくりなど、全国学生委員会での提案をもとに各ブロックでの提案もされました。</li> </ul>	<p>2026 年度への申送り事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 総(代)会チェックシートは、学生事務局にとっての負担が大きく、完全な回収ができず、全国の会員生協の傾向を見るための資料としてはやや不十分となってしまいました。会員生協にとっても、連帯組織にとっても有意義なものにするために改良していく必要があります。</li> <li>◇ 活動方針①「組合員の参加し協働したいと思える大学生協づくり」の具体化を行う議題は、各会員生協での実践につながるよう、提案方法や推進方法を再整理する必要があります。年間を通じて推進をするために重点を決め、推進をすることも検討し、各ブロックで活発に取り組まが行われるように進めていきます。</li> <li>◇ 引き続き、26 年度新学期方針と、事業と新学期政策の答申の具体化を全国学生委員会内でも行っていきます。</li> </ul>
---	---

全学委方針②「全国の学生委員会の活動に貢献し、組合員の生活・会員生協の発展につなげます」

➤ 全国の学生委員会組織の再建・再生・創造・挑戦に取り組みます。

- ✓ 全会員生協で学生委員の仲間を増やすこと(再建)・大学生協の魅力を活かした活動を増やすこと(再生)に力を入れて取り組みます。
- ✓ 各ブロックで学生委員会再建・再生・創造・挑戦について具体化を図れるよう、2022年度～2024年度の学生委員会再建・再生の教訓事例をもとに、学生事務局の個別会員支援について、全国学生委員会が各ブロックで旗振り役となります。
- ✓ 学生委員会の再生のために、学生委員の引継ぎ時や長期休暇の合宿・集中部会で、学生委員を振り返る時の手法として「学生委員会マッピング」をこれからも広げ、学生委員会マッピングを通して各大学生協の学生委員会の意義や価値を確認することを呼びかけます。

➤ 元気な学生委員会の事例を横展開します。

- ✓ インタビュー活動で学生委員会の元気を社会と全国の大学生協へ広げます。
- ✓ 学生委員が他生協の事例を日常的に参考にできるよう、ブロックニュースの発信と普及を強めるサポートします。
- ✓ スタッフオンリーページや A2 サイトの活用促進に取り組みます。
- ✓ 2024 年度に行った学生委員会インタビューの記事を全国の会員生協に横展開いたします。

#### 到達状況

○ 組合員活動研修セミナー2025 の実施 (2025 年 2 月 10 日～12 日／68 会員 374 名(運営含む)の参加)

※詳細は全国大学生協連 HP に掲載の開催報告をご覧ください。

[https://www.univcoop.or.jp/handbook/handbook\\_845.html](https://www.univcoop.or.jp/handbook/handbook_845.html)

- ✓ 企画内外で学び合い・励まし合い、「よりよい大学生活と平和」を考えることができました。
- ✓ 「一人の組合員として」どのように組合活動をひろげていくのかという視点・意識が全国で広がりました。
- ✓ 企画外では、学び合いスペースを作成し、各ブロックからの情報や私の「BetterWorld」企画、ひとことカード企画を実施し、様々な取り組みの学び合いを行うことができました。

○ 全国学生委員長セミナー2025 の実施 (2025 年 8 月 26 日／65 会員 169 名(運営含む)の参加)

※詳細は全国大学生協連 HP に掲載の開催報告をご覧ください。

[https://www.univcoop.or.jp/handbook/handbook\\_574.html](https://www.univcoop.or.jp/handbook/handbook_574.html)

- ✓ オンラインの一日開催に開催形態を変更し参加のハードルを下げ、多くの方に参加してもらうことができました。
- ✓ 学びの中では、「設立趣意書」を読み、大学生協が設立された当時の願いや現在の組合員の想いと照らして、大学生協が貢献していることやこれからできることを考えました。
- ✓ 分人会を設定し、これまで学生委員会の委員長として活動してきた先輩の話を聞き、これから旗振り役となる参加者が自分の行動をイメージすることができました。
- ✓ 会員生協の正副学生委員長同士の交流の面では各地のブロック学生委員会等を活用し、その接続から全国の場を検討することが求められます。

○ 「学生委員会の再生」に向けて、様々な取り組みを行いました。

- ✓ 全国の学生委員会が仲間を増やせるよう、学生委員募集ポスターの FM を配布しました。
- ✓ 全国学生委員会で定期的にブロック事務局全体としてどのような支援を行うのかを協議し、各ブロックでの進捗状況を共有しました。
- ✓ 各ブロックの春のセミナーで「よりよい生活と平和」について伝えることを提案し、春セミの企画作りについて交流する「春セミ企画局長交流会」を実施しました。
- ✓ 学生委員会インタビューを通じ、元気な学生委員会の取り組みを横展開しました。
- ✓ 全国の学生委員数は 10,224 名になりました。(2025 年 9 月時点)

2026 年度への送り事項
<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 学生委員会の再建・再生・創造・挑戦は 2026 年度も継続課題です。2026 年度はブロック学生委員会とのつながりを強めて、会員生協の学生委員会がお互いの活動を学び合いながら学生委員会の再建・再生・創造・挑戦に取り組んでいきます。</li> <li>◇ 「学生委員会マッピング」の推進を行います。学生委員会マッピングは自大学生協学生委員会の強みや、自分たちの興味関心をもとに展望を考えられるツールです。今後も夏合宿、引継ぎなど様々な場面での活用されるよう、推進していきます。</li> <li>◇ 大学生協らしい取り組みを行うことができる学生委員会を増やすため、学生委員会合宿等の機会を通じ、大学生協・協同組合の学習をより広げていきます。</li> </ul>
<p>全学委方針③「全国のブロック学生事務局活動の会員支援・分野推進をサポートします」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 全国学生事務局合宿でブロック学生事務局同士が学びあい、励ましあう機会をつくります。</li> <li>➤ 分野別ミーティングを開催し、分野推進をサポートします。</li> <li>➤ Teams を活用した学生事務局同士の交流を進めます。</li> </ul>
到達状況
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ <u>1 月・4 月・9 月に全国学生事務局合宿を開催しました。</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 4 月はオンラインで開催、1 月と 9 月は対面で開催しました。オンラインでも学生事務局として必要なことを学ぶ機会、学生事務局同士のつながりをつくる機会を設けることができました。</li> <li>✓ 対面で開催した 1 月と 9 月の全国学生事務局合宿では、引継ぎに向けて学びあうだけでなく、大学生協や学生委員会、学生事務局活動について語り合う時間を設けました。これまでの学生事務局活動から学んだことを言葉にし、交流の中で考えを深めることができました。</li> <li>✓ 全国学生委員会で議論やチャットでの意見集約を通じて、非常勤メンバー(各地の学生委員長・副学生委員長)の意見を取り入れながら組み立てをすることができました。</li> <li>✓ 9 月全国学生事務局では時間外企画の夕食交流会で分野担当ごとに集まって、交流する機会を設けることができました。</li> </ul> </li> <li>○ <u>新学期分野や組合員交流・組織運営分野、学びと成長分野では、各ブロックの分野担当を中心とした学生事務局が集う場として、「しながつきーずミーティング」「くみくみーずミーティング」「学びと成長スイッチラボ」「みんなの！学びと成長ジャーニー」を実施し、開催しました。</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 各地からの取り組みの持ち寄りも行い、学生事務局同士が情報交換・連携することができました。</li> <li>✓ ブロック職員・各事業連合職員とのつながりも強化し、各ミーティングで学生事務局と職員が学び合える場づくりが行えました。</li> </ul> </li> <li>○ <u>分野別の Teams グループを作成し、情報共有を図りました。</u> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 分野によってはブロック事務局員から情報共有や情報交換が行われました。</li> <li>✓ 一方で、多くの分野では常勤学生委員からの一方的な発信で終わってしまい、チャットを活用した情報交換を促進することが求められます。</li> </ul> </li> </ul>
2026 年度への送り事項
<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ オンラインミーティングや Teams・SharePoint などのコミュニケーションツールを活用し、全国の事務局同士が学び合い・励まし合いを行えるように工夫します。</li> <li>◇ 全国の学生事務局が一堂に会し、全国で頑張る仲間がいることを実感できる機会が、学生事務局のモチベーションにもつながります。また、同じ分野や連帯企画を担当する学生事務局同士のつながりを早期からつくることで、日常的な学生事務局同士の学びあい・励ましあいにつなげていきます。</li> <li>◇ 各分野担当を中心とした学生事務局が集まる支援・指導機能向上を目指す分野別ミーティングの日程を年間計画の中に組み込み、曜日を固定することでより参加しやすいような場にします。</li> </ul>

# 【全国教職員委員会】

## 全国教職員委員会 2025 年度活動のまとめ及び 2026 年度活動方針（案） 委員長素案

2025 年 11 月 6 日

全国教職員委員会

委員長 只友景士

### I 2025 年度活動総括（案）

2025 年度メインテーマ

組合員の学びと暮らしのために大学生協の役割と価値を高める  
～平和とより良い社会に向けて～

#### （1）教職員の生活や教育・研究を支援する活動

～教職員の生活や教育・研究の支援をすすめ、大学生協の意義を教職員層に広めていきましょう～

全国教職員委員会は、第 1 回 2 月 16 日（日）（対面）、第 2 回 6 月 8 日（日）（オンライン）、第 3 回 7 月 20 日（日）（対面）、第 4 回 9 月 21 日（日）（オンライン）、第 5 回 11 月 23 日（日）（オンライン）と全国教職員委員会を実施しました。

大学をめぐる状況としては、日本学術会議を国の特別機関から特殊法人へ移行させる法律が成立し、2026 年 10 月に特殊法人に移行します。学術会議側が独立性の保障を求めていましたが、政府は特殊法人化により独立性と自律性を高めるとして修正に応じませんでした。日本学術会議の在り方は学問の自由に大いに関わるとして、第 2 回全国教職員委員会では学習会を企画しました。

2023 年 11 月 3 日、国連総会は、2025 年を、2012 年に続き 2 回目の「国際協同組合年」とすることを宣言しました。2025 国際協同組合年に相応しい取組を広げていきました。第 3 回全国教職員委員会では、「協同組合についての学びを広げるための JCA との協議」の場を持ちました。また、この協議を踏まえて、9 月 6 日開催の全国理事長セミナーにおいて、「1. 全国教職員委員会からの問題提起 2. 日本協同組合連携機構（JCA） 比嘉正浩専務理事 協同組合について学びを広げる」を企画しました。教職員層に大学生協の意義を伝え、更に、全国の大学における協同組合について学ぶ機会の創出を提起しました。

ChatGPT に代表される生成 AI の急速な進歩と普及が、大学教育の現場に大きな影響を与えています。アター／ウイズ・コロナの時代の新たな変化に加えて、生成 AI の発達と普及にも対応して、教職員同士の交流や講義方法の学び合いを積極的に進めていくことが求められています。

#### （2）ブロック教職員委員会の活性化と組合員加入推進

～ブロック教職員委員会活動の活性化を支援してゆきます～

下記の 3 つの目標を達成するために、全国教職員委員会とブロック教職員委員会の連携を深め、ブロック教職員委員会活動の活性化を支援して行きました。

- ① 新歓パンフレットなどを用いた教職員の生協加入促進
- ② 教職員ニーズの把握と交流活動
- ③ 教職員委員の発掘と次世代の担い手づくり

各ブロックにおいて教職員や理事長を対象とした会議・交流会などを対面もしくはオンラインで開催しました。新歓パンフなどを用いた教職員の生協加入促進や教職員委員の発

掘は限られた会員生協にとどまりました。教職員の生協加入の促進の取り組みは、不十分であり、今後は全国・ブロック・会員の各階層の連携により、生協加入促進の取り組みを進める必要があります。

教職員の交流を目的とした活動を、各会員生協・ブロックなどで取り組み、大学生協の意義を広めました。各ブロックにおいて、理事長・教職員を対象としたセミナー・交流会などを企画開催しました。

最終版には、各ブロックの報告が入ります。

### (3) 学生の生活や学びを支援する活動

～大学生協らしい学生支援の活動を推進してゆきましょう～

大学生協において、学生支援の活動をすすめる意義について、理解を広めるとともに、学生支援活動の実践例のさらなる掘り起こしを行い、共有することで、活動のさらなる広がりを目指しました。特にコロナ禍で大きく変化した学生の学びや生活の実態を把握し、実態にあった支援を考えました。学生が大学の成果以外での学びも保障できるよう呼びかけました。

大学生協奨学財団についても周知をすすめ、教職員組合員などに対する個人賛助会員への呼びかけを財団と協力しながらすすめました。

### (4) プロジェクト活動の目指す方向とセミナーへの取り組み

～教職員の専門性を発揮してプロジェクトの活動をすすめます～

(プロジェクトの設定)

2025 年度に引き続き、「学びと成長、読書+α」「食と安全」「平和と民主主義」「協同組合」「環境と防災」の五つのプロジェクトの活動を推進しました。「平和と民主主義」と「協同組合」は、ほぼ合同でプロジェクトの活動を進めてきました。2026 全国セミナーの開催準備の議論の中で、効果的なプロジェクト運営のためにプロジェクトの再編については引き続き議論が必要です。

(プロジェクト活動)

プロジェクトでは、それぞれのプロジェクトの実情やメンバーの専門性に応じて、工夫を凝らした活動をすすめました。協同組合 PJ と平和と民主主義 PJ から全国理事長セミナーに「全国教職員委員会からの問題提起 「戦後 80 年と協同組合の役割」を企画し、提供しました。具体的な内容としては、芳島昭一氏（国連 UNHCR 協会）による「難民問題の現状とわたしたちにできること」と題した講演、林薫平副委員長の問題提起に始まり、比嘉正浩専務理事（日本協同組合連携機構（JCA））からの「協同組合について学びを広げる」の呼びかけを行いました。

環境と防災 PJ は、「大学生協の環境活動への新型コロナ禍の影響の実態把握に関するアンケート調査とその分析」に取り組みました。学びと成長、読書+αPJ では、第 1 回全国教職員委員会において、「読書マラソンエントリー者」「読書に関する意識調査」報告と今後に向けて」を議題として取り上げました。

また、こうしたプロジェクト活動を全国に発信するために、広報委員会が情報の取り纏めをおこない、連合会ホームページ、SNS を通じて発信に取り組みました。

各プロジェクト単位で、全国教職員委員会で取り上げるべきテーマ・課題などについても議論しました。プロジェクトごとに、活動目標を定め、2026 全国セミナーを見据えて、理事会設置の他の委員会、各ブロック主催のセミナー等と連動した取り組みを進め、教職員委員会の活動を広め、活性化する方策を議論してきました。

全国教職員委員会のプロジェクト活動が、全国のネットワークの結節点となるような活動は意義深いので、全国教職員委員会のプロジェクトが先頭に立ち全国の関連する活動のネットワークの結節点となるために、今後も活動の輪を広げていく必要があります。

### (5) 2026 全国教職員セミナーの成功に向けた取り組み

～大学生協らしい学生支援の活動をすすめ、2026 年全国教職員セミナーの成功に向けて準備を進めましょう～

2026 全国セミナーの開催に向けて、全国教職員委員会はブロック教職員委員会と連携しながら準備をおこないました。全国教職員委員会としては、全国委員会の各プロジェクト単位、全国委員が所属するブロック教職員委員会単位の 2 つの局面から準備を進め、全国委員会とブロック委員会の連携を深めました。

#### (6) 広報委員会を通じた HP の整備と教職員活動の活性化

広報委員会を通じて全国教職員委員会のホームページの充実に取り組みました。全国教職員委員会のプロジェクト活動、ブロック教職員委員会の活動、全国の優れた取り組みなどを紹介し、教職員活動の活性化を図りました。

★2025 年度紹介記事を掲載します。

#### (7) 委嘱委員の活動

社会的課題委員会に只友委員長、横畑副委員長、朴委員を派遣しました。

#### 1. 全国教職員委員会

##### 【2025 年度】

第 1 回全国教職員委員会	02 月 16 日 (日)	杉並会館
第 2 回全国教職員委員会	06 月 08 日 (日)	オンライン開催
第 3 回全国教職員委員会	07 月 20 日 (日)	杉並会館
第 4 回全国教職員委員会	09 月 21 日 (日)	オンライン開催
第 5 回全国教職員委員会	11 月 23 日 (日)	オンライン開催

#### 2. 広報委員会 (略)

#### 3. 各ブロック (略)

## II 2026 年度活動方針 (案)

### 2026 年度メインテーマ

2025 年度メインテーマを踏まえて、全国教職員委員会で審議を行い、2026 年 2 月 22 日 (日) 開催の委員会で決定します。

2025 年度メインテーマ (参考)

組合員の学びと暮らしのために大学生協の役割と価値を高める～  
平和とより良い社会に向けて～

2023 年 11 月 3 日、国連総会は、2025 年を、2012 年に続き 2 回目の「国際協同組合年」とすることを宣言しました。2025 国際協同組合年に相応しい取組を広げていきました。2026 年度も協同組合の意義を拡げる取り組みを続けていしましょう。2025 年度全国理事長セミナーでは、比嘉正浩専務理事 (日本協同組合連携機構 (JCA)) から「協同組合について学びを広げる」の呼びかけを行いました。この呼びかけを具体化する取り組みを進めましょう。

2020 年から始まったコロナ禍で、大学生協は組織存続の危機に瀕しました。一時期の大学生協そのものの存続の危機は脱しつつあるものの、今なお経営の苦しい会員も多数あり、大学生協全体で経営の再建と組織活動の再建が求められています。2023 年 5 月に新型コロナウイルス感染症は 2 類から 5 類に移行しました。アフター／ウイズ・コロナの状況は続いており、コロナで変わった教職員と学生のキャンパスライフの充実のために、私たち教職員にできることを考えていき

ましょう。教職員の組織活動が活発になることで、大学生協のガバナンスを高め、協同組合としての意義と本質を見失わない大学生協づくりをすすめましょう。

2022年2月24日に、ロシアがウクライナに侵攻を開始し、国際秩序は大きな転換期に入っています。ロシアのプーチン大統領は核兵器の使用もちらつかせるなど核戦争の危機も現実のものとなりかねない状況にあります。こうしたロシアからの脅威を前にして、ウクライナ、エストニア、ラトビア、リトアニアのバルト3国とポーランド、フィンランドの6ヵ国が、対人地雷禁止条約からの離脱を決めています。地雷は戦闘が終結した後も何十年にもわたって被害を及ぼす非人道的な兵器で、犠牲者は戦闘員より民間人のほうがはるかに多いとも言われています。「地雷なき世界」の実現に向けて国際社会が重ねてきた努力が試されています。

2023年10月から始まったイスラエル・ハマス紛争は、パレスチナのガザ地区に人道上の危機を引き起こしました。2025年1月からイスラエルとハマスの停戦が始まり、人質の解放などがおこなわれましたが、その後も戦闘は激化。ガザ地区では飢饉も発生しました。2025年10月10日から発効した停戦は、生存していた人質の解放がなされるなどしました。しかし、なお、食料、医薬品は不足しており、飢餓も深刻であり、人道上の危機的な状況が続いています。恒久的な和平が実現することを願ってやみません。イスラエルは中東の周辺国との武力紛争を拡大させており、核開発疑惑が持たれているイランとも緊張が高まっています。平和の実現と人道上の危機の重い課題が、人類に突きつけられています。

日米の金融政策の違いから日米の金利差が開き、高金利の米国に資金が流れることで、円安が進んでいます。ウクライナ侵攻による資源価格の高騰に加えて、円安の進行など様々な要因から、2022年から始まった値上げラッシュは、2025年まで続いています。2025年の米価の高騰は、政府備蓄米の古古古米の放出を行うまでになりました。2023年の不作の影響から始まり、2024年夏頃からの米不足と米価の上昇が続き、その後も価格が高い状態が続いています。2025年秋の収穫後も依然として高値が続いています。高騰する米価対策として、石破政権下では米増産方針を打ち出しましたが、高市政権に代わると一転減産に舵を切るなど政府の方針転換に生産現場も困惑しています。消費者物価の上昇が続き、消費者に大きな影響を与えています。私たち大学生協も原材料価格の上昇、物流費の上昇、人件費の上昇から値上げせざるを得ない状況に追い込まれています。物価上昇の傾向は当分続くと考えられ、不況とインフレーションの同時進行のスタグフレーションに突入する虞もあります。今、キャンパスを基盤とする消費生活協同組合である大学生協への期待は高まっています。

2024年元日に令和6年能登半島地震が起きました。2011年東日本大震災以降、日本国内では、多くの地震災害が起きています。また、毎年、台風や線状降水帯による大雨の被害が全国各地で発生しています。私たちが災害に巻き込まれるリスクがあることを自覚せねばならない時代にあるとも言えるでしょう。

日本私立大学連盟が、国立大学と私立大学の公財政支援における格差を是正するための具体的方策として、国立大学の授業料の上限規制撤廃、「教育国債」の創設などを盛り込んだ提言を取り纏めたり、東京大学が2025年度入学生から授業料を国立大学の授業料標準額を年53万5800円から20%分（10万7160円）引き上げることを決定したりするなど国立大学の授業料のあり方も大きな転換期を迎えています。「朽ちる国立大 進まぬ改修（朝日新聞2025年11月2日付け1面）」の報道にあるように、国立大学の運営費交付金制度の 名古屋工業大学・埼玉大学・山口大学・電気通信大学の4大学が、2026年度入学生から授業料を標準額の1.2倍まで引き上げることを決めています。国立大学85大学中10大学（東京藝術大学、東京工業大学（現・東京科学大）、東京医科歯科大学（現・東京科学大）、千葉大学、一橋大学、東京農工大学、東京大学、名古屋工業大学・埼玉大学・山口大学・電気通信大学）が標準額の上限までの引き上げを行っています。朝日新聞の報道（2025年11月3日付け）によると国立大学の学長の6割が授業料の標準額の引き上げを求めていると報じています。高等教育財政の在り方を考え、学生の学ぶ権

利の保障と高等教育の発展のためには、公的な支援は不可欠です。

日本の高等教育への財政支出は、対 GDP 比 0.5%にとどまり、OECD 諸国の平均 1.1%と比べても低位にあります。私大連の提言が出されたのも、国の高等教育政策の貧困がその根本原因ですが、こうした議論から国公立大学の設立母体の違いによる利害対立にならないように注視する必要があります。

こうした情勢の中で、学生の学びと成長を支え、全ての組合員の暮らしを守り、平和の問題を考え、大学生協の経営再建と組織活動の再生の先頭に立つべく、全国教職員委員会の 2026 年度の年間活動テーマを「(2025 年度メインテーマを仮置き) 組合員の学びと暮らしのために大学生協の役割と価値を高める～平和とより良い社会に向けて～」と定めます。

#### (1) 教職員の生活や教育・研究を支援する活動

～教職員の生活や教育・研究の支援をすすめ、大学生協の意義を教職員層に広めていきましょう～

私たち教職員もコロナ禍により、オンライン授業対応やコロナ流行下での学生指導など、教育・研究において大きな変化が求められました。新型コロナウイルス感染症が、感染法上の区分が 2 類から 5 類に移行し、キャンパスも大きく変化しています。ウィズ・コロナの時代の新たな変化に加え、ChatGPT に代表される生成 AI の技術が急速に発達・普及しています。こうした社会の変化に対応して、教職員同士の交流や講義方法の学び合いを積極的にすすめます。

全国大学生協連が 2023 年度から開始した「これからの教育と研究～大学生協教員調査(以降、「教員調査」)の調査結果を全国で共有し、教員の実態を的確に把握するとともに、教職員の暮らしの向上と教職員参加による大学生協のガバナンスの向上を図り、大学生協の存在価値を高めていきましょう。具体的には、全国教職員委員会での共有、全国総会企画セッションでの議論、各ブロックの会員代表者会議及び教職員委員会での議論、会員理事会での議論などを深めましょう。「教員調査」を素材にした議論から、教職員に関わる課題を中心としながら、大学内にある大学生協としての会員レベルの政策課題、ブロックレベルの政策課題、全国レベルの政策課題に関する議論を積み上げていきましょう。

#### (2) ブロック教職員委員会の活性化と組合員加入推進

～ブロック教職員委員会活動の活性化を支援してゆきます～

下記の 3 つの目標を達成するために、全国教職員委員会とブロック教職員委員会の連携を深め、ブロック教職員委員会活動の活性化を支援してゆきます。

- 1) 新歓パンフレットなどを用いた教職員の生協加入促進
- 2) 教職員ニーズの把握と交流活動
- 3) 教職員委員の発掘と次世代の担い手づくり

教職員の交流を目的とした活動を、各会員生協・ブロックなどで取り組み、大学生協の意義を広めます。とりわけ、ブロックにおいて、理事長・教職員を対象としたセミナー・交流会などを企画開催します。ブロックの教職員向け各種企画の広がりから、全国セミナーへの参加につながります。

大学生協の再生・発展には教職員の積極的な参加が不可欠です。会員生協における総代・理事における教職員の比率を高めます。「第 65 回総会呼びかけ」の内容について、会員生協の理事長・教職員理事に継続的に呼びかけるとともに、再生の具体化の議論に加わります。

#### (3) 学生の生活や学びを支援する活動

～大学生協らしい学生支援の活動を推進してゆきましょう～

大学生協において、学生支援の活動をすすめる意義について、理解を広めるとともに、学生支援活動の実践例のさらなる掘り起こしを行い、共有することで、活動のさらなる広がりを目指し

ます。特にコロナ禍で大きく変化した学生の学びや生活の実態を把握し、実態にあった支援を考えていきます。学生が大学の正課以外での学びも保障できるよう呼びかけます。

読書マラソンの取組を全国教職員委員会、ブロック教職員委員会、ブロック事務局、会員理事会の連携のもとで進めていきましょう。こうした取組のためにも連合会・事業連合・中国四国事業連合の緊密な連携のもとで、事業部門との連携も深めていきます。

大学生協奨学財団についても周知をすすめ、教職員組合員などに対する個人賛助会員への呼びかけを財団と協力しながらすすめます。

#### （４）プロジェクト活動の目指す方向とセミナーへの取り組み

～教職員の専門性を発揮してプロジェクトの活動をすすめます～

（プロジェクトの設定）

2025年度に引き続き、「学びと成長、読書+α」「食と安全」「平和と民主主義」「協同組合」「環境と防災」の五つのプロジェクトの活動を推進します。次回の2026全国セミナーの開催準備の議論の中で、効果的なプロジェクト運営のためにプロジェクトの再編を行うことがあります。

（プロジェクト活動）

プロジェクトでは、それぞれのプロジェクトの実情やメンバーの専門性に応じて、工夫を凝らした活動をすすめます。定例の委員会以外にもオンライン開催などでプロジェクト活動を活性化させます。全国委員以外のメンバーにもオブザーバー参加を呼びかけます。また、理事会設置の他の委員会などとも緊密な連携を進めます。プロジェクト活動を全国に発信するために、広報委員会が情報の取り纏めをおこない、連合会ホームページ、SNSを通じて発信します。

各プロジェクト単位で、全国委員会で取り上げるべきテーマ・課題などについても議論します。プロジェクトごとに、活動目標を定め、2026全国セミナー、理事会設置の他の委員会、各ブロック主催のセミナー等と連動した取り組みを進め、教職員委員会の活動を広め、活性化する方策を議論します。全国教職員委員会のプロジェクトが先頭に立ち、全国の関連する活動のネットワークの結節点となるよう努めます。

#### （５）2026全国教職員セミナーの成功に向けた取り組み

～大学生協らしい学生支援の活動をすすめ、2026年全国教職員セミナーの成功に向けて準備を進めましょう～

全国教職員委員会では、2年に一度全国教職員セミナーを開催してきました。この2年に一度開催する全国セミナーを大学生協の教職員活動活性化のハブとして位置づけ、大学生協運動の推進力にしましょう。2026年度は、2026全国セミナーの開催とその成功に向けて委員会全体で取り組みます。

全国教職員委員会は、2026全国セミナーの全体テーマの早期設定と開催ブロックである東海ブロックにて2026年8月下旬から9月上旬に名城大学を会場に開催する方向で準備を進めます。

原点に立ち返るために、2024全国セミナーを機に全国の会員生協の設立趣意書等の資料を集める大学生協資料アーカイブ活動の取り組みを行いました。集約した資料は、2024全国セミナーでは資料集として配布するとともに、全国大学生協連合会ホームページで公開するなど共有を図りました。会員においても設立趣意書を素材に、大学生協の原点に立ち返る取り組みを進めましょう。富山大学生協の事例のように、総会議案書に設立趣意書を毎回掲載されています。また、名城大学生協では、店舗のバックヤードに設立趣意書を掲出されています。このような取り組みを広げ、原点に立ち返った大学生協づくりを進めましょう。

## 2026 全国教職員セミナー

全体テーマ：未定

開催時期：2026 年 8 月下旬から 9 月上旬

開催ブロック：東海ブロック

開催校：名城大学

2026 全国教職員セミナーに全国教職員委員会のプロジェクト活動とブロック教職員委員会の活動の成果など全国の優れた取り組みを結集して成功させなければなりません。

2026 全国セミナーの開催に向けて、全国教職員委員会はブロック教職員委員会と連携しながらセミナー成功に向けた取り組みを行います。

また、ブロック内で大学生協設立準備の動きがある場合は、2026 全国教職員セミナーに設立準備校の関係教職員を招待して協同組合の設立が、大学の福利厚生に留まらない意義があることを実感してもらいましょう。

2026 全国教職員セミナーは、全国委員会のプロジェクト活動とブロック教職員委員会の活動の成果など全国の優れた取り組みを結集して、成功させましょう。

(6) 広報委員会を通じた HP の整備と教職員活動の活性化

広報委員会を通じて全国教職員委員会のホームページの充実を図ります。全国教職員委員会のプロジェクト活動、ブロック教職員委員会の活動、全国の優れた取り組みなどを紹介し、教職員活動の活性化を図ります。ブロック輪番の活動報告、プロジェクト輪番の活動報告を継続します。

## 2026 年度主要会議予定

### 会議日程

#### 【2026 年度】

第 1 回全国教職員委員会	2026 年 02 月 22 日 (日)	杉並会館
第 2 回全国教職員委員会	2026 年 05 月〇日 (日)	
第 3 回全国教職員委員会	2026 年 07 月〇日 (日)	杉並会館
第 4 回全国教職員委員会	2026 年 09 月〇日 (日)	
第 5 回全国教職員委員会	2025 年 11 月〇日 (日)	

#### 【2027 年度】

※予定

第 1 回全国教職員委員会	2027 年 02 月〇日 (日)	対面	杉並会館
---------------	-------------------	----	------

(参考資料)

第 65 回全国大学生生活協同組合連合会・通常総会に際し、

大学生協の再生に向けて会員大学生協の理事長・教職員理事に呼びかけます

2021 年 12 月 18 日

全国教職員委員会

現在、多くの大学生協はコロナ禍の影響により、苦しい経営状況にあります。全国大学生生活協同組合連合会も、全国の会員生協の経営再建に向けて活発な議論を組織しています。2022 年度の方針を決める第 65 回全国大学生生活協同組合連合会・通常総会の総会議案の策定に向けて、2030Goals、大学生協共済連譲渡問題、会員再生計画の策定などを旺盛に議論してきました。こうした議論は、コロナ禍で経営難に陥っている個々の会員生協の経営再建、大学生協グループ全体の再生を目指すものです。

これからの会員生協の経営再建、大学生協グループの再生に取り組むにあたって、全国教職員委員会として、会員大学生協の理事長・教職員理事・監事に下記の項目を呼びかけます。そして、会員とブロック、連合会が歩調を合わせて具体的にに取り組むことを呼びかけます。

## 記

(基本原則)

1. 大学生協の再生・経営再建の取組は、組合員（学生・教職員）の暮らしの向上、暮らしを支える視点から進めましょう。

(教職員の加入と参加の促進)

2. 教職員の教育・研究活動の支援や日々の暮らしの向上のために、教職員の加入促進を進めましょう。教職員総代を選出し、教職員理事・監事を選出しましょう。教職員組合員の参加とガバナンスを強め、教職員の教育・研究活動の支援や日々の暮らしの向上を図る教職員委員会の取組を広げましょう。教職員組合員の参加によるガバナンスの強化は、大学生協の再生のための地固めともなるでしょう。

(組織委員会と事業経営の連携)

3. 教職員委員会、学生委員会などの組織委員会活動と事業活動の連携を進めましょう。教職員、組織委員会活動を通じて、学生の生活実態を的確に把握し、事業活動に反映できる組織文化を創りましょう。学生委員会の活動が大学生協の強みです。教職員委員会と学生委員会との連携を進めていきましょう。

(学生生活ブースター)

4. 多くの学生が、学生としての実感が希薄化しており、コロナ禍で学生生活を充実したものだと思えることができていません。学生の皆さんが、学生生活を充実していると感じられるような「学生生活ブースター」となる取組を大学とも連携し取組を進めましょう。五感に訴える経験から大学・大学生協への愛着を育む経験を創造しましょう。大学での経験を強烈なものにする気風を育てましょう。

#### (学生のための教職員の連携)

5. 会員再生計画には、会員の教職員理事・監事・総代を核とする教職員のつながりをつくみましょう。そして、その教職員のつながりの中から学生の暮らしの向上、暮らしを支えることなど、学生のためにも教職員が連携していきましょう。具体的な活動が難しくても、まずは、教職員理事・監事・総代と集い、今の学生のために何ができるのか話し合い、考えることから始めましょう。

#### (大学をめぐる環境変化への対応)

6. コロナ禍により大学をめぐる環境は激変しました。教職員の教育・研究活動も学生生活も未曾有の変化に直面しています。そして、大学自体も大きく変化しようとしています。この変化によって、私たち組合員の日常生活も大きく変化しました。その結果として、大学生協は経営危機にあります。しかし、この危機を乗り越えていかねばなりません。

それでは、どのようにしたら乗り越えられるでしょうか？大学生協は、学生の暮らしの向上、学生の生活を支える事業をしてきました。学生に寄り添う仕事を愚直に取り組んできました。大変動期の危機の時代の渦中で、大学生協の経営再建を行うことは並大抵のことではありません。しかし、大学生協の経営再建は、学生の生活の変化にしっかりと対応しながら、事業を進めていく愚直な正攻法しかないでしょう。組合員の生活の変容をしっかりつかみ、対応できる生協をつくりましょう。そして、今までと同じではなく、もっと良い方法はないだろうかと謙虚に考え、大胆に行動する大学生協をつくりましょう。

#### (新領域・新規事業への挑戦)

7. 従来、教学は大学、生活は大学生協という大きな役割分担がなされてきました。しかしながら、教学と生活の間には双方にまたがる「境界領域」が広がっています。大学生協が行う学び支援事業もありましたが、公務員講座や就活支援など出口に特化した取組でした。この教学と生活の「境界領域」にどのように対応するのかという課題は大学にとっても重要な課題だと考えられます。実際に、「障がい学生支援」の仕事は、学修サポートであり、大学の専門部署が担当するようになってきました。パソコンの操作が苦手の学生に対して、大学が講義やヘルプデスクなどで支援する場合もあれば、大学生協が販売事業の延長線上で行うこともありました。こうした教学と生活の「境界領域」に、学生の生活の向上や学生生活の変容の実態から大学生協の新たな挑戦の領域があると考えられます。そうした領域への果敢な挑戦のためにも、教職員の組織化と連携協力関係のネットワークの構築を行い、大学生の「暮らし」の向上、キャンパスライフの再生、そして、大学生協の経営再建につなげましょう。

#### (大学生協の価値を高める総合的なマネジメント)

8. 大学生協再生に向けて、組合員と生協職員がとともに対話し、ともに考え、組合員の暮らしの向上を図り、学生の成長の場であり続け、教職員の教育・研究活動を支える大学生協の価値を高める総合的なマネジメントを進めましょう。これまで取り組まれてこなかったが、未来に繋がる新しい活動や事業を提案し、ともに実現して新しいキャンパスライフを創造しましょう。

以上

## 【全国院生委員会】

### 全国院生委員会 2025 年度活動総括・2026 年度活動方針

2025 年度全国院生委員長 野呂香綸

#### 【1】 2025 年度全国院生委員会の位置づけ

全国院生委員会では、全国理事会のもとに設置され意思決定や推進を行う「理事会委員会」としての性質と、大学院生を代表して取り組むべきことを検討する「階層別組織委員会」としての性質を鑑み、全国の大学生協の活動方針を大学院生の目線で具体化することに重きを置いて活動しています。2025 年度の全国院生委員会では、院生の生活実態や日常生活で感じる課題や問題意識を全国から持ち寄り、より良い院生生活を目指して、全国・地域・各会員生協で院生に対し事業・活動を広げるための方向性を院生の目線で検討・協議・発信していくことを第 1 回委員会で確認しました。

#### ●全国院生委員会の機能

##### 1. 院生組合員のつながりを通じて、院生の生活向上を目指す。

2022 年に実施した第 12 回全国院生生活実態調査によると、悩みやストレスが「ある」大学院生は 63.4% となり、研究活動や進路についておよそ「3 人に 2 人」の院生が悩みを抱えている状況にあります。そうした状況下で、大学院生の生活拠点は研究室やゼミなど限られた人間関係に留まることが多く、相談できる相手が少ないことや自身の生活をより良くするための方法に気付く機会が少ないといった課題が挙げられます。

また、研究活動で多忙な院生にとって、一人で生活をよくするために行動することは負担が大きく、他者との協同を通じて生活向上を目指すためにも、院生同士のつながりを生み出していくことが必要となります。

##### 2. 階層を超えたつながりを生み出し、大学コミュニティと大学生協の活動の活性化を目指す。

大学院生は、大学生活を熟知した存在として上級生の視点から大学生協の活動を元気にする力を持っています。長年のキャンパスライフを通じて、大学生活をより良くしていくための視点を持つと同時に、学部生としての経験をもとにしたアドバイスを後輩に伝えることもできる存在です。また、大学院生は日常的に教員からの指導を受け、学部生以上に教員と近い距離で研究生活を行う存在でもあります。幅広い世代・階層とつながり、大学生協の活動を活性化させていくポテンシャルを秘めた存在であると考えます。

##### 3. 院生の存在を社会に広げ、社会と院生をつなぐ。

日本における大学卒業後の大学院進学率は 12.6%（文部科学省 令和 6 年度学校基本調査より）であり、直近 4 年間はわずかに増加傾向にあります。しかし、他の先進国と比較すると、依然として大学院進学率が著しく低い状態が続いています。「大学院」という言葉にイメージが湧く人も決して多いとは言えない中で、大学院や院生に対する認知を社会に広げていくことは重要です。

その中でも、大学進学を目指す受験生に向けて大学院の存在も認識した上で進路選択をしてもらうことや、その保護者に大学院の位置づけについて認識してもらうことは特に重要です。大学院に対する不安やネガティブな認識を払拭し、正確な情報を社会に届けることが、大学院の価値を高め、ひいては学術界に貢献することにもつなが

ると考えます。さらには、大学院生の実態について社会に認識を広げることで、進路選択の幅が広がる可能性や、社会全体で大学院生を支える制度拡充も期待できると考えます。

## 【2】 2025 年度の活動方針

2025 年度の全国院生委員会では、「2025 年度全国の大学生協の活動方針(全国総会第 1 議案)」に基づいた全国院生委員会の機能と活動方針を設定し、各グループに分かれて活動しました。



### ●全国院生委員会の活動方針

#### 活動方針 1:大学院生が参加し協同したいと思える大学生協づくり

大学院生が利用・参画し、自分たちの生活にとって必要であると実感できる大学生協づくりを進めます。

大学院生は、大学生よりも大学生協を利用している期間が長く、人によっては滞在している時間も長い、大学生協のお得意様に成り得る組合員であるといえます。大学院生の意見を集約することは、大学生協に新たなニーズを見出すことにつながります。院生理事や院生総代を選出し、対話できる環境を構築します。

#### 活動方針 2:大学院生の健康で安全な生活を支える大学生協づくり

院生組合員どうしでたすけあい、大学生協全体で組合員の健康で安全な大学生活を支えます。

授業やサークル活動が大学生活の中心となる学部生と違い、大学院生の生活では研究が大部分を占めます。研究活動中のケガはもちろん、研究室での狭い人間関係によるメンタル不調など、大学院生ならではの給付事例が数多く報告されています。大学院進学時の加入継続の呼びかけや給付忘れをなくす取り組みを行い、大学院生が学部生と変わらず安心して大学生活を送れるようにします。

#### 活動方針 3:大学院生の学びと成長を支える大学生協づくり

大学院生の学び方や大学の学修支援について把握し、仲間とともに自己実現・成長する機会をつくります。

大学院は、国民の数%だけが進学する高等教育機関です。その学習意欲の高さを活かし、大学院生だからこそできる、学びについての取り組みをします。また、大学院生活について発信し、これから大学院進学を考える学部生に、大学院の魅力を伝えます。

## 活動方針 4:これからの社会に生きる大学院生になろう

SDGs 達成に向けて、大学院生の興味・関心を出発点に、「知り・知らせ・考え・話し合い・行動する」きっかけをつくります。

SDGs は、2015 年に国連総会で採択された「持続可能な世界」を実現するための具体的な目標です。社会の一員として大学院生も SDGs や国際協同組合年や終戦 80 年について考え、話し合います。SDGs 達成のための行動のひとつとして、社会への発信を中心に取り組みます。

### ●3つの重点課題 — 全国院生委員会で目指すこと

全国大学生協連に設置された理事会委員会としての役割を果たすために重点課題を設定します。

#### 重点課題① 大学院生の実態把握

大学院生の生活実態を定量的・定性的に把握する取り組みを展開し、大学生協内外に情報を発信します。

(例：全国院生生活実態調査 (Web アンケート))

#### 重点課題② 大学院生のつながりづくり・ネットワークづくり

大学院生のつながりづくり・ネットワークづくり 大学生協で活躍する大学院生同士のつながりを構築し、全国レベルでの活動強化を目指します。

(例：第 29 回全国院生セミナー「研究室を飛び出して／話そっか、院生活。」)

#### 重点課題③ 大学院生について社会に発信

大学院生について社会に発信 大学院生の存在や生活実態を社会に発信し、院生の地位向上や認識拡大を目指します。

(例：大学生協連ホームページの活用、SNS を通じた情報発信、ブロック・全国レベルでの広報誌等)

## 【3】 2025 年度の活動振り返り

### ●全国の院生活動の振り返り (総論)

25 年度の成果	<ul style="list-style-type: none"><li>24 年度に解体した分野&amp;タスクを再編成し、各活動のリーダーが主体的に活動を推進することにより、23 年度までに行っていた取り組みを中心に多くの活動を実施した。</li><li>24 年度に中止した院生生活実態調査を委員の負担が少ない形で再開し、重点課題である院生の生活実態把握を達成した。</li><li>全国 7 つのブロック全てから委員を選出し、委員数を 9 名→13 名に増やすことで、多種多様な院生の意見を反映させた議論・活動を行うことができた。</li><li>全国学生委員会と密に連携をとり、協力して活動を進めることができた。</li></ul>
25 年度の課題	<ul style="list-style-type: none"><li>会員生協で委員会活動に取り組んでいない委員も多く在籍しており、活動の学び合い・励まし合いの場としての機能が失われつつある。</li><li>上級生委員会という一部に院生を含む学部上級生が中心の組織委員会が全国の会員生協で増えてきたが、全国院生委員会としての対応は決めておらず、現在は所属している組織委員会にかかわらず院生を委員として受け入れている。</li><li>全国教職員委員会、全国留学生委員会など、他の組織委員会との協力には至らなかった。</li></ul>

26年度の展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>全国組織の本来の目的である学び合い・励まし合いを強化していくことで、各会員・各ブロックでの院生活動の強化を目指す。同時に院生が力を入れるべき活動に特化していくことで、より実態に即した活動を模索していく。</li> <li>院生理事・院生総代を増やすとともに、日常的な関り方をブラッシュアップしていくことで大学生協の運営の中に院生の声が反映されるようにしていく。</li> <li>学生委員会、生協職員などと連携することで、今ある大学生協の取り組みの中に院生の視点を取り入れられるようにしていく。留学生委員会や教職員委員会とも連携し、活動の可能性を広げる。</li> <li>引き続き院生の実態を発信し、院生の存在について広く社会に認知されるようにしていく。</li> <li>ブロック事務局長とも連携し、各ブロック・各会員生協の院生の現状について広く集約、横展開ができるようにする。</li> </ul>
---------	---

## ●方針・課題別での院生活動の振り返り（各論）

各方針・各重点課題に関して、全国院生委員会・地域・各会員生協の取り組みと現状について振り返りました。

方針① 大学院生が参加し協同したいと思える大学生協づくり	
25年度の成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>総代会や理事会について定量的な分析を行うための指標を定める方法について議論し、調査の実施を検討した。</li> <li>総代会前の委員会で院生の理事・監事・総代の選出状況について共有し、委員が所属する大学生協の課題について議論した。</li> <li>大学生協の組合員として少なくない構成員数を占める院生を活用するため、院生の自発的な組織委員会活動を待つのではなく、院生理事や院生総代を増やしてほしい旨を全国総会にて訴えた。</li> </ul>
25年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>大学生協と院生の接点はまだ少なく、日常的に院生の声を届けることが難しい。</li> <li>委員がいない会員生協での院生総代・院生理事の選出数の把握には至っていない。</li> </ul>
26年度の展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>院生と大学生協の接点を増やし、院生理事・院生総代の選出を進める。</li> <li>長年大学生協を利用してきた視点や院生というマイノリティな立場の声を伝えられる存在として、大学生協の運営において院生の存在感を強めていく。</li> <li>全国で院生・上級生委員として活躍する大学院生との相互的なつながりを強化し、活動状況の把握をするとともに、より充実した活動づくりを支える取り組みを進める。</li> </ul>

方針② 大学院生の健康で安全な生活を支える大学生協づくり	
25年度の成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>24年度に作成した院生用の共済ボードを改良し、さらにカスタム可能なテンプレートを作成・発信した。</li> <li>委員が全国共済セミナーや地域の共済セミナーに参加し、作成した共済ボードをアピールするだけでなく、共済活動歴の長い先輩として活躍した。</li> <li>SNS（X）において健康と安全に関する活動の発信を行った。</li> </ul>
25年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>院生用の共済ボードの周知に課題が残る。</li> <li>今後は毎年新しい共済ボードを作成するのではなく、共済ボードの活用や他の活動に注力すべきである。</li> </ul>
26年度の展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>全国院生委員会内で給付事例学習会を継続して行い、院生特有の健康問題を知る機会を作る。</li> <li>SNSでの発信は始動段階であり、これからもっと旺盛に発信したい。</li> <li>学部で卒業して新社会人になった同期がいる院生だからこそ伝えられる、新社会人コースの魅力や必要性を広げる取り組みを行う。</li> </ul>

方針③ 大学院生の学びと成長を支える大学生協づくり	
25年度の成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>全国院生委員会内や院生セミナーにおいて、研究や進路選択について交流することで、考えを深めることができた。</li> <li>24年度までの活動を継続し、「院生の1日」および「院生到達記」を作成し、最新の院生生活を発信することができた（発信は準備中）。</li> </ul>
25年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>今までの活動の継続のみになってしまい、学びと成長分野における最新のニーズを活動に反映させられなかった。</li> <li>せっかく執筆している「院生の1日」および「院生到達記」の広報が足りていない。</li> <li>24年度に行った東京ブロック院生ミーティングとの交流の機会（24年度は6月委員会と同日程に開催されていた就活イベントに参加）が得られず、就活について考える機会が減少した。</li> </ul>
26年度の展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後も「院生の1日」および「院生到達記」を執筆し、最先端の院生の実態を発信する。</li> <li>院生自身の学びと成長や進路選択に注目した取り組みを行っていくことも検討する。</li> </ul>

方針④ これからの社会に生きる大学院生になろう	
25年度の成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>全国院生委員会でフードロスについての学習会を開催し、委員が社会的課題について調べ、考え、交流する機会を設けた。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>24年度までに引き続き「社会的課題通信」の執筆に取り組み、25年度で注目すべき点として、内容が多岐にわたるものになるように調整を行った。</li> <li>#OnigiriAction や#未来へのバトンなど、全国学生委員会が推進しているSNS 企画に参加し、発信を行った。</li> </ul>
25年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>委員会で行った学習会について、内容を発信できるとより良かった。</li> <li>社会的課題通信の作成・発信のスケジュール管理に改善の余地がある。</li> </ul>
26年度の展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>全国院生委員会で取り組んでいる社会的課題の取り組みをブロックや会員生協にも広げる。</li> <li>「社会的課題通信」をもっと活用できる仕組みを作る。</li> </ul>

重点課題① 院生の生活実態把握	
25年度の成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>24年度に中断した院生生活実態調査について、質問項目を大幅に減らすことで負担の少ない形で再開し、再び院生の生活実態を集約できる環境を構築した。</li> <li>院生生活実態調査では356件の回答が集まり、解析を行うのには十分な回答数、さらには多様なブロック・会員生協からの回答を収集することができた。</li> </ul>
25年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>院生生活実態調査の回答数は目標（1000件）に達しておらず、より多くの院生から回答を収集するため、調査・広報の期間・方法に改善の余地がある。</li> <li>院生生活実態調査の解析・活用方法について、十分な議論がされていない状態で調査を行ったため、調査後の活動が難航している。</li> </ul>
26年度の展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>院生生活実態調査の活用方法を明確にし、調査・広報に協力してくれる会員生協の生協職員・組織委員と活用までのビジョンを共有できるようにする。</li> <li>より多くの会員生協において精力的に院生生活実態調査の広報をしてもらえるように働きかけ、回答数を増やすことでより正確な院生の生活を把握する。</li> <li>院生生活実態調査をより良いものにするため、再度質問項目を精査する。</li> </ul>
重点課題② 院生同士のつながり・ネットワークづくり	
25年度の成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>24年度までに引き続き、院生セミナーを開催し、参加者は少数（2名）であったものの、参加者および運営した委員の満足度は高かった。</li> <li>24年度まで委員選出が途絶えていた東京ブロックから全国院生委員を選出した。</li> </ul>

25年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>院生セミナーの参加者数が著しく低下してしまったことを考慮し、多くの院生が参加しやすい開催日程について十分に検討する必要がある。また、資料作成に労力を割きすぎており、そのエネルギーを広報に向けるべきである。</li> </ul>
26年度の展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>院生が自らの生活をよりよくするために他の院生との接点を作る動きが各会員生協で行われるようにする。</li> <li>全国院生セミナーの在り方について検討を進め、より院生同士がつながりをもち、より良い院生生活を目指せる場所を作る。</li> <li>東京ブロック院生ミーティングをはじめとして院生委員会とは異なる院生組織・集団との交流を通して、院生同士のつながり・ネットワークを広げる。</li> <li>院生の多い東京・関西ブロックで複数のエリアから委員選出することで、委員会活動をより豊かなものにしたい。</li> </ul>

### 重点課題③ 大学院生について社会に発信

25年度の成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>比較的迅速に委員会報告を作成し、全国院生委員会が何をしている委員会なのか、SNSで広報することができた。</li> <li>「院生の1日」および「院生到達記」を執筆し、院生生活の一例を社会に発信した。</li> </ul>
25年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>当初の目標よりもSNSを活用できず、院生について社会に発信する機会があまりなかった。</li> </ul>
26年度の展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>委員会活動だけでなく、院生について知ってもらうような発信もしたい。</li> <li>院生生活実態調査は再開したばかりであり、今後は調査を活用して院生の生活実態を社会に発信することにも注力したい。</li> </ul>

## 【4】 2026年度の活動方針(案)

2025年度の活動方針を踏襲し、以下の5つの方針と4つの重点課題を設定します。



## ●5つの活動方針 ― 全国の大学生協で目指すこと

### 活動方針 1:大学院生が参加し協同する場づくり

大学院生が利用・参画し、自分たちの生活向上を実感できる大学生協づくりを進めましょう。

### 活動方針 2:大学院生の健康安全

院生組合員の生活実態を把握し、大学生協全体で組合員の健康で安全な大学生活を支えましょう。

### 活動方針 3:大学院生の学びと成長

大学院生の学び方や大学の学修支援について把握し、仲間とともに自己実現・成長する機会をつくりましょう。

### 活動方針 4:社会をつくる

SDGs 達成に向けて、大学院生の興味・関心を出発点に、知り・知らせ・考え・話し合い・行動するきっかけをつくりましょう。

### 活動方針 5:大学院生としての大学や社会への貢献

大学院生の専門的な経験や知識を活かし、大学院生が大学や社会に必要とされる存在であると実感できる・してもらえる機会づくりを進めましょう。

## ●全国院生委員会が大切にしたい「4つのつながり」

### 1. 院生組合員同士の「つながり」

院生組合員同士のつながりを通じて、自分たちの生活向上を目指す。

### 2. 大学コミュニティ内の「つながり」

階層を超えたつながりを生み出し、大学コミュニティと大学生協の活動の活性化を目指す。

### 3. 社会と大学院生の「つながり」

社会に大学院生の実態を伝え、社会と院生をつなぐことで、大学院生の地位と生活の向上を目指す。

### 4. 院生・上級生委員同士の「つながり」

積極的に大学生協の活動へ参加する大学院生同士のつながりを強め、大学院生の活動の活性化を目指す。

## ●4つの重点課題 ― 全国院生委員会で目指すこと

### 重点課題① 大学院生の実態把握

大学院生の生活実態を定量的・定性的に把握する取り組みを展開し、大学生協内外に情報を発信します。

### 重点課題② 大学院生のつながりづくり・ネットワークづくり

大学生協で活躍する大学院生同士のつながりを構築し、全国レベルでの活動強化を目指します。

### 重点課題③ 大学院生について社会に発信

大学院生の存在や生活実態を社会に発信し、大学院生の地位向上や認識拡大を目指します。

### 重点課題④ 大学生協で活躍する大学院生の支援

院生・上級生委員会として活動する大学院生の連帯の場をつくり、大学院生の大学生協での活動を豊かにすることを目指します。

## 【全国留学生委員会】

### 全国留学生委員会 2025 年度活動の振り返り及び 2026 年度活動方針

全国留学生副委員長 Steki Chung

次期全国留学生委員会委員長（候補）宮下 真子

次期全国留学生委員会副委員長（候補）森迫 太陽

次期全国留学生委員会副委員長（候補）Alejandra González Cosío Terán

## 【2025 年度振り返り】

### （１）各地報告

2025 年 3 月に策定された活動方針に基づき、2025 年度の全国留学生委員会 (AJISC) は、各留学生委員会 (ISC) 間における情報共有（各地報告）を最も重要な活動の一つと位置づけ、その内容の充実を図った。

本年度は、各例会における各地報告の時間を拡充し、活発な意見交換を促進した。3 月の初回を除き、報告内容を「前回以降の更新」「今後の予定」「課題・問題点」「他 ISC への質問」に絞り、重複を減らして議論の時間を確保した。

これにより、ISC 運営やイベント企画・広報活動に関する具体的な議論が活発化し、各 ISC の強みや特色を互いに学び合う機会が増えた。他 ISC の取り組みを参考に自らの活動を改善しようとする動きも見られ、委員会全体の成長と連携の強化につながった。

さらに、各地報告とディスカッションの内容を文書として整理し、日本語に翻訳したうえで共有を行った。これは、①AJISC 未参加のメンバーが例会で得られた知見にアクセスできるようにすること、②全国大学生協連学生委員会への共有を通じ、留学生サポートに関する情報やノウハウを共有し、ISC が未設置の大学においても留学生向け活動の質的向上に資することを目的として実施したものである。

この取り組みにより、AJISC 各地報告および各 ISC の活動の可視化と全国大学生協連学生委員会との連携強化が進んだ一方、翻訳・要約作業の負担増により、会議時間の圧迫や会議外での対応が必要となるなどの課題も生じた。また、バイリンガルメンバーへの負担が相対的に大きくなる傾向も見られた。

また、年度初回以降の会議では効率化のため、各地報告内容を「進捗」や「課題」に限定して実施している。このため、年度途中の包括的なまとめは難しく、本年度は初回（2025 年 3 月）に包括的報告書、5 月に更新版を作成し、最終回（2026 年 3 月）に最終報告書を作成する予定である。

今後は、AJISC 内部での各地報告の質・量の向上と、成果の外部発信とのバランスをどのように取るかが課題であり、継続的な検討が求められる。

### （２）日本語・英語による会議の進行

留学生委員会は留学生が主軸となって活動しており、日本語が不自由な委員も多いため、主な使用言語は英語である。一方、大学生協および事務局との調整には日本語での対応が必要である。従来は日英両言語を併用し、バイリンガル委員が逐次通訳を行っていたが、通訳による進行の停滞や意思決定の遅れが課題となっていた。

そこで 2025 年度は、会議運営の効率化を図り、会議本体を英語で一貫して実施する方針に改めた。幹部メンバーが事前に日本語で作成したアジェンダを事務局に提出、会議後には議論内容を日本語で整理して報告する体制を整えた。会議中に事務局から日本語での説明や連絡がある場合は、バイリンガルの委員が随時通訳を担当した。さ

らに、幹部メンバーが事前に事務局と論点や懸念事項をすり合わせることで、会議当日の不明点を減らし、全体の進行を円滑化することができた。

これにより、議論の速度と生産性が向上した一方、事前準備や翻訳対応の負担は増加し、実務が主にバイリンガルの幹部メンバーに集中する傾向が見られた。理想的には、幹部全員が日本語・英語の両方に堪能であることが望ましいが、現実的には難しい。今後は、AI 同時通訳などの技術的ツールの活用を含め、二言語運営を持続可能な形で支える仕組みの検討する必要がある。

### （３）国際交流ワークショップ 2025

今年度の国際交流ワークショップでは、「Explore, plan, pitch! Event Design Challenge（アイデアを形に！イベントづくりに挑戦！）」というテーマで、参加者が全国の留学生委員会の活動について理解を深め、そのノウハウを実践的に学ぶ機会を提供する。東京でのフィールドワークを通じて留学生向けイベントの企画を体験的に学び、各大学の取り組みの違いを学び合いながら、留学生委員会の活動の拡張に役立つ新たなアイデアを得る場となることが期待されている。

### （４）地方での委員会開催

本年度は、現地の留学生委員会との直接交流と相互学習の機会を拡充するため、9月27～28日には広島大学にて委員会を開催した。会期中は、広島平和記念資料館の見学、広島大学キャンパスのツアー、広島大学生協留学生委員会（HUCISC）と連携した「Onigiri Action」ワークショップ、各地報告など、充実したプログラムを実施した。数か月前から HUCISC との計画・調整の結果、多くの現地留学生委員がオブザーバーとして参加し、活発な意見交換の場が実現した。

AJISC 側は、広島大学のキャンパス環境や HUCISC の活動拠点を直接視察することで、運営上の工夫や課題を具体的に把握し、自 ISC との比較を通じて理解を深めた。これにより、各地報告での議論を現地の実態に即して再考する契機となり、より実践的な学びを得ることができた。一方、HUCISC 側からは、AJISC と他 ISC の活動に触れることで新たな刺激を受けたとの声も寄せられ、双方にとって有意義な交流となった。地方開催は、現地組織との関係強化と実践知の共有、相互理解の深化に大きく寄与し、委員会全体の連携が一層強まり、各地域の現状や課題をより立体的に共有する貴重な機会となった。

### （５）SNS 広報・発信

本年度は、AJISC の活動を広く紹介することを目的として、SNS を活用した情報発信を強化した。AJISC 公式 Instagram アカウントでは、4月に各地の ISC の花見の様子をまとめた動画や、各 ISC を紹介するインタビュー動画など、活動内容や特色を楽しく伝えるコンテンツを制作・投稿した。今後も、年度内に複数の投稿を予定している。これらの取り組みにより、動画への参加を通じて AJISC 未参加メンバーにも AJISC の活動を知ってもらう機会が生まれたほか、閲覧数やフォロワー数も増加した。SNS を通じた発信は、AJISC の活動をより多くの学生や関係者に届ける有効な手段であることが確認され、今後の活動拡大や認知向上に向けた新たな可能性を示した。

## 【2026 年度活動方針】

来年度は、全国留学生委員会の活動を九州や東北地方の大学にも広げ、より多くの大学が参加できる体制づくりを進めていく。また、会議における言語問題についても引き続き検討を行い、円滑かつ活発な議論が行える環境の整備を目指す。さらに、各

大学の留学生委員会が抱える課題に対し、互いのノウハウを共有しながら協力的に解決を図っていく。そのためにも、地方での対面会議を積極的に実施し、実践的な情報共有と交流の機会を充実させていく。

2024 年度および 2025 年度の二年間の活動を踏まえて、2026 年度の活動方針を定めた

#### （１）全国委員会の活動の展開

現在、全国留学生委員会は京都大学、東京学芸大学、名古屋大学、広島大学の４つの大学の留学生員会から構成されている。2024 年度の全国留学生委員会資料によれば、上記の４大学の他に、北海道大学区及び立命館アジア太平洋大学からの留学生委員会が、全国委員会に参加する見込みがあった。残念ながらこれら２大学の 2025 年度の全国委員会への参加はなかった。全国留学生員会へ参加することで、留学生の大学生活向上・支援における各地の留学生委員会と意見を交換し新たな視点を得ることが期待できる。そこで、2026 年度は全国留学生委員会の活動を他大学にも広めていくと同時により多くの大学が参加できる体制づくりを進めていく。

#### （２）会議における使用言語

円滑かつ活発な議論が行える環境を実現するために、二言語での委員会運営を基本的な方針とする。しかし、2025 年度の活動において日英両言語に精通した委員へ翻訳対応の負担が集中したことは、先に述べられているとおりである。2026 年度の委員がどの程度日本語、英語の能力があるかは未知であるため、2026 年度３月に予定されている 2026 年度委員の顔合わせ以降、会議中や書類作成における翻訳対応の負担について決定する見込みである。委員会として、2026 年度の活動中にも柔軟に新しい解決案を試行的に取り入れ、効果的な二言語運営体制を目指す。委員会を構成する各大学の委員会のなかには、二言語で運営している委員会もあるため、全国委員からの提案というトップダウン式に限らず、各大学からのボトムアップ的な提案も取り入れていくなど柔軟に対応していきたい。

#### （３）委員会間の知見の交流の活発化

各大学の留学生委員会が抱える課題に対し、互いのノウハウを共有しながら協力的に解決を図っていく。2024 年度は全国委員会において、ワークショップ形式で各委員の課題解決を模索していた。また、2025 年度では各委員からの報告という形の情報共有に専念した。2026 年度は過去二年間の活動を踏まえ、課題解決のためのワークショップと情報共有を主な目的とする報告会の両方をバランスよく実施していく。

#### （４）各地での委員会開催

2025 年度に開催した広島大学での委員会が有意義なものであったことを踏まえ、2026 年度に引き続き、東京に限らず地方での委員会開催も検討する。地方での委員会開催には二つの目的がある。まず、委員会同士の知見の交流をさらに活発化させること。各委員会が活動に使用する施設を見学することで、より具体的な知見が得られるだろう。もう一つは各委員会の構成員との交流を通じた全国委員会の紹介である。ただし、地方での開催においては、開催地の大学側の人員や施設の手配などの負担が発生する。2026 年度はこの負担をどう軽減するかをふくめて地方での委員会開催を検討していく。

## (2) プロジェクト・政策委員会

- 1) 全国社会的課題委員会
- 2) 事業と新学期活動推進委員会
- 3) 国際活動委員会
- 4) 内部統制課題推進委員会
- 5) 大学生協 2030Goals 推進委員会（新設）

---

---

## プロジェクト・政策委員会

---

---

### 全国社会的課題委員会

＜2025 年度理事会委員会活動の自己評価＞

社会的課題の統合的解決を目指すとともに、SDGs の達成を大学生協として目指すための委員会として「全国社会的課題委員会」を設置した。2025 年度は、「社会的課題に取り組む意義を考えること」「『社会的課題』を知り・知らせ・考え・話し合い、『解決』に向けて行動していくこと」の 2 点をテーマとして掲げた。

【政策討議】大学生協としての社会的課題に対する向き合い方・姿勢を検討し、社会へ発信します。

- 大学生協の社会的課題に関する取り組みの振り返り・価値の共有をし合い、本委員会としてどう動いていくべきか協議できた。
- 一方で理事会設置委員会として、特にどのような課題を重点に取り組み、発信していくのかポイントを絞った討議を行うことは難しく、考えの発散に終始している。

【政策施行】社会的課題の取り組みを一層広げるため、全国の大学生協に向けた行動提案について検討します。

- 全国規模で社会的課題のセミナーを開催し、社会的課題の取り組みをより広げられた。
- 一方で各会員生協の社会的課題の取り組み状況に差があり、行動提案と行動につなげたいと思える発信を継続する必要がある。

＜2026 年度設置目的＞

【設置目的】

- 組合員が社会に目を向け知り・知らせ・考え・話し合い・行動できる機会を考える。
- 組合員の生活を取り巻く社会的課題の事例や知恵を集め、よりよくする手段を考える。
- 社会的課題の活動が各大学生協で一層行われるよう行動提案・活動推進を検討する。

【主要テーマ(成果目標・ゴールイメージ)】

2026 年度全国の大学生協の活動方針・大学生協 2030Goals から具体化を行う。

【政策討議】大学生協としての社会的課題に対する向き合い方・姿勢を検討し、会員生協の取り組みへのつなげ方を討議する。

【政策執行】委員を中心に、具体的な行動提案と発信を会員生協に向けて実施する。

＜分野・テーマ＞ 東日本大震災 15 年、熊本地震 10 年、大学生協 2030Goals

環境、平和・国際貢献、激甚災害支援・防災、消費者、SDGs 等

### 事業と新学期活動推進委員会

＜2025 年度理事会委員会活動の自己評価＞

推進委員会本体（6 回開催）

- ・ 早期（11 月）に会員生協の 26 目標集約を行い目標達成に向けた議論を実施した。  
加入共済／学修環境支援事業／食生活事業各々において、先進事例（単協／地区）のリード報告とワークショップを実施し学生と共に推進する進め方の共有と議論。
- ・ 今後の生成 A I 活用や学生の学び方について、同志社の宿久先生のご講演を委員会の後全国交流会分科会でも実施。各単協や地区で大学や附属高校へのアクションにつながる。
- ・ 「しんがっきーず MT」を含む学生常勤の取組と提起を毎回実施し、「事業と活動をごっちゃに」した議論を継続。
- ・ 人口減に伴う受験生の動向や進行する入学手続きの大学 D X 化対応（大学提案と相談）につ

いて、会員専務へのアンケート発信と結果を元にした提起、委員会内および全国交流会分科会での先進事例共有を行った。

- ・4月23日に連帯職員を中心とした「中間総括会議」を実施。「事業と新学期政策」に沿った内容で各事業の到達点確認と課題を深め合う事を目的に123名の委員専務と連帯職員が参加。
  - ・委員会および交流会タスクでの議論内容は、「新学期提案事業の取り組み方」として「執行役員会議」において適宜提起を行った。
  - ・全国広報全体像の共有と調査結果、およびその活用（各地・単協）についての議論を行った。
- 総じて、政策の視点は少しずつ浸透し、全国方針と地区方針の連携は取れ始めている。

「新学期＝通常期」「事業と活動ごっちゃに」「〇〇大生の生活×生協にしかできない事（生協オール）」「組合員の生活をどう向上したいのか（光輝く先輩）」

「大学コミュニティーの一員として（待ちではなく学生のための積極的提案）」「持続的経営」等

## 2) 学び合いの場「第8回事業と新学期活動全国交流会」

- ・6回のタスクを実施し、OLでも単に「聞く」だけではない、参加型で学び多い会となるよう構築。午前オプションでの「食の講演会」／「生協全体と新歓の意義を改めて考える」／「住生活の様々を生協全体で考える」など、事業の前に「組合員の生活」を見つめ、「半歩先や先手」「生協オールで何ができるか」を考える分科会も設定。
- ・6月14日に交流会実施。37生協の報告／外部講師3本。960名の学生と職員が参加。

## 3) 早期で広範囲な広報

- ・6回のタスクを実施し、全国や各地の広報活動の共有／全国保護者セミナーの企画運営を行った。
- ・4回目となる「保護者のための大学生生活入門セミナー」を7/27に開催した。  
参加申込は2,303名でほぼ前年並（初年度からは1.8倍）も保護者は60名増。満足度はさらに向上し、全体平均で97.6%。
- ・参加者増のために、受験産業との協業やWeb広告等も手掛けてはいるが、高校営業を中心として全国・各地区・単協での、広報全体としての連携強化がさらに必要。

## 4) 三位一体の学修環境支援事業の次のステップの模索 ～研究会

- ・当該委員会のタスクとして「総合的学修環境支援事業研究会」を8回実施。大学との関係を「待ち」から「提案」にする具体的提案物の報告と議論／CIEC生協職員部会と協力してPCC3日目のセミナーへの発表等を実施した。

## <2026年度の主要なテーマ>

- 新学期に提案している事業について、本論である年間の事業そのものを深め合う。  
「組合員の暮らしの向上に貢献」×「経営に貢献」できるものとして。
  - 同時にそれをどのように大学／学生委員会／AD・SP等の学生組織／一般組合員と協力しあいながら、全ての在学生／新入生に伝え利用してもらうかの活動を深め合う。
- 1、事業そのものを中心に据え、「事業と新学期政策」で提起した視点と目標指標が、会員生協（単協）において達成できるための支援を行う。
- ①全ての前提である加入共済110番について、原点に立ち返った活動を**全生協**で推進する。  
幅広い参加者の給付事例等学習会／大学への報告や提案の原点を全生協で。  
推進委員会での取組目標を設定し、毎回のテーマとする。
  - ②26年度においては、「食生活支援」「学修環境支援」に加えて「学びと体験支援」事業についても委員会でも取り扱う。
  - ③大学コミュニティーの一員として、「学生のための」大学への積極的な提案相談活動を前進させる。
  - ④どのように「事業と活動をごっちゃに」し支持拡大していくかを深める。

- 2、新学期を基軸とした大学生協全体としての早期で広範囲な広報と調査結果活用を強化推進する。
  - ・「第5回保護者のための大学生生活入門セミナー」の企画宣伝運営
  - ・全国／各地連帯と単協協働での、高校訪問含む総合的な広報の強化推進を行う。
  - ・「保護者に聞く新入生調査」の具体化と、それを含む各種調査結果の活用を強化する。
- 3、全国新学期交流会をはじめ、各地各分野の交流会や意思決定時期との連携をさらに図る。
  - ・「第9回事業と新学期活動全国交流会」のレベルアップした開催
  - ・学生委員会活動と事業の総合化の深化を目指し、学生常勤企画との連携をさらに強める。
  - ・全体と各分野における年間スケジュールの見える化を行い、単協計画の後押しを図る。

## 国際活動委員会

<2025 年度の到達>

- (1) 本年度は委員会を3回(2月・5月・9月)開催しました。
- (2) コロナ禍以前のように対面での交流が主流になり、多くの海外団体との交流が広がりました。
  - ・2024年10月9日、香港の嶺南大学の教職員および学生約30名が来日し、東京大学および大学生協連を訪問しました。大学生協および東大生協の概要紹介や施設見学、学生委員会との意見交換を通じて、大学生協の活動に対する理解を深める有意義な交流となりました。
  - ・ドイツ学生支援協会(DSW)およびその加盟組織である各STW(学生支援団体)の関係者を迎え、2024年9月30日から10月3日にかけて、日本の大学における食堂事業に関する専門知識の交換を目的とした研修を京都で実施しました。研修発表や施設視察など多様なプログラムを通じて、活発な意見交換が行われました。
  - ・2024年11月3日、台湾主婦連盟生協(HUCC)は「大学生協：幸福への取り組み」プロジェクトの一環として、中森専務を招き、日本の大学生協の歴史・現状・未来についてのオンライン講演を開催しました。約50名が参加し、大学生協の事業や学生委員会の役割、持続可能な運営への取り組みなどについて活発な質疑応答が行われました。
  - ・2024年11月25日から30日、インド・ニューデリーで国際協同組合同盟(ICA)世界協同組合会議・総会が開催されました。2025年国連国際協同組合同年(IYC2025)の開始を記念して実施され、世界100カ国以上から協同組合関係者が参加しました。大学生協連も本会議に参加し、国際的な協同組合ネットワークとの連携を深めました。
  - ・2024年11月26日、インド・ベンガルルールにあるチャーナキヤ大学を訪問し、大学生協および学生委員会の活動について紹介するプレゼンテーションを行い、学生との意見交換を行いました。チャーナキヤ大学では大学生協の設立を計画しており、大学生協連としてその取り組みを支援していきたいと考えています。
  - ・2024年11月28日、インド・ニューデリーで開催された国際協同組合同盟(ICA)世界協同組合会議・総会の一環として、ICAアジア・太平洋地域教育機関協同組合委員会(ICEI)年次会議が行われ、選挙の結果、武川会長が議長に選出されました。本会議では、来年度に向けたプログラム案についても協議・検討が行われました。
  - ・2025年6月17日、「大学生協におけるリーダーシップの在り方」をテーマとするウェビナーがオンラインで開催され、武川先生が基調講演を行いました。続いて、高須学生委員長が日本の大学生協における学生委員会の取り組みについて報告しました。
  - ・2025年6月29日(日)から7月2日(水)にかけて、ソウルにおいて日韓学生交流セミナーを開催しました。両国の学生が参加し、複数の大学生協を訪問して学生に提供されて

いる事業やサービスの一端をうかがうとともに、大学生協や学生委員会の活動に関する学びを共有し、文化交流を通じて相互理解を深めました。

- ・2025 年 9 月 26 日、日本協同組合連携機構（JCA）とイタリア・レーガコープの共催によるワークショップ「イタリアと日本の協同：課題と解決策を共有する」が東京で開催されました。大学生協連も参加し、「若者とデジタル化」および「高齢化と人口減少」をテーマに、両国の協同組合の実践事例や課題について意見交換を行いました。

（３） 会員生協の取り組みを世界に向けて発信しました。

- ・アジア太平洋地域の協同組合の経験や取り組みを紹介する「CO-OP Dialogue Vol.8」（テーマ：「協同組合住まい：都市の格差を埋める」）において、大学生協連として日本の大学生協による学生住まい支援の取り組みを紹介する記事および YouTube 動画を投稿しました。
- ・「COOP Dialogue Vol.9」には、東大生協や北海道札幌地区の大学生協の子ども食堂の取り組みを「協同組合がより良い世界をつくる ～アクションの物語～」として紹介しました。

＜2026 年度の主要なテーマ＞

（１） ICA、ICA-AP および ICA-AP 教育機関協同組合委員会（ICEI）を軸としたアジアの協同組合との交流・研修

- ・ICA-AP 地域総会・ICEI 年次会議が 2025 年 11 月 24 日～11 月 28 日にスリランカのコロンボで開催予定。ICA-AP 研究会議で武川会長が報告予定。
- ・ICEI 年次会議議長を武川会長が務める予定。

（２） 日韓大学生協連関係

- ・2026 年の日韓交流事業は日本での開催予定です。日本からは連帯の学生が主な参加者になりますが、訪問地の大学生協や学生委員会との交流を通じて、相互理解と協同の学びをさらに深める機会とする予定です。

（３） アジア地域以外の協同組合・学生支援機関との交流

- ・ドイツ学生支援協会（DSW）との交流を継続します。2026 年度はドイツ側が日本に訪問予定。
- ・国際学生支援機構（IASAS）とは継続的な交流を予定していますが、詳細は今後の課題です。

（４） その他

- ・会員生協の取り組みを海外に向けて発信します。
- ・英語版ホームページの改修・更新を継続的に進めます。

## 内部統制課題推進委員会

＜2025 年度の到達＞

- ・2023 年 7 月に「大学生協連理事会」から【全国の会員生協で、「内部統制の整備」に関する取り組みを開始または継続強化しましょう】と呼びかけをおこない、2023 年～2025 年の動きについて提起しました。2022 年から休止していた内部統制推進委員会を 2024 年度から再開しました。
- ・各ブロックから委員が参加し、ブロック内で会員の内部統制の呼びかけをおこないました。
- ・「内部統制の整備に関する方針」を理事会決議した会員が、2022 年度までに 48.6%でしたが、2025 年 6 月までに 89.5%（前年 85.2%）となりました。また、「内部統制の整備に関する方針」を事業報告書に掲載した会員は、78.1%（前年 74.8%）になりました。
- ・全国の会員生協で「全国内部牽制チェック・リスト」を活用した点検実施を呼びかけました。

＜2026 年度の主要なテーマ＞

会員の内部統制の整備に関する基本方針の決議が進むこと、また、会員の具体的重点課題の決定内部統制を「ジブンゴト」とする専務理事を増やすこと、会員の内部統制の整備に関

する基本方針の決議が進むこと、また、会員の具体的重点課題を決定し、その取り組みが推進できるように、各ブロックから委員が参加する内部統制推進委員会を継続設置します。

(1) 主要なテーマ

- 1) 「内部統制整備」を会員において推進・実現させることを支援する。
- 2) 会員の内部統制に関して必要となる事項の検討をおこないます。
- 3) 会員専務がブロック単位でより身近に「内部統制」について話題にできるようにテーマを提供します。
- 4) 法律の改正に伴う会員への情報の点検をおこないます。

## 大学生協 2030Goals 推進委員会（新設）

### <2026 年度の設置目的と主要なテーマ>

・2021 年の第 65 回総会で確認された大学生協 2030Goals（以下、2030Goals）が 2026 年に折り返しを迎えます。

・2030Goals は、コロナ禍を乗り越え、大学生協の再生と未来志向の発展を目指す指針として策定されました。しかし、コロナ禍の影響は長期化し、大学生協の事業・活動に深刻な影響を及ぼしました。このため、策定以降「大学生協の再生」そのものが中心的なテーマとなり、大学生協連の重点課題としても大学生協「再生」計画が大きな柱となってきました。この再生は、単なる経営の立て直しにとどまらず、大学生協のミッション・ビジョンに基づくものであるからこそ、組合員や大学コミュニティからの継続的な支持を得ることが可能です。

・策定後の経緯も踏まえながら、2026 年度の理事会委員会として、2030Goals の到達点を整理しながら、その実現を推進する「2030Goals 推進委員会」を新たに設置し、2030 年に向けた各生協の Goals の執行・推進に取り組みます。

・委員会では、以下の取り組みを進めます。

- ✓ 2030Goals のこれまでの到達点と現状の評価
- ✓ 目標とのギャップ分析
- ✓ 大学生協を取り巻く環境変化の整理
- ✓ 重点的に取り組むべき領域や波及効果の高いテーマの抽出
- ✓ 優先課題の再設定と実現に向けたロードマップの再構築
- ✓ 全国・地域レベルでの事例の交流・研究を通じた学び合い・その情報発信

・上記の取り組みを通じて、2030Goals の現状の到達点を取りまとめつつ、情勢変化を踏まえた課題やさらに検討すべきテーマ等を整理し、2030 年に向けた具体的な指標（KPI）を具体化し 70 回総会で全国の大学生協の共通の目標として確認できることを目指します。

### (3) 大学生協奨学制度推進委員会

---

---

## 大学生協奨学制度推進委員会

---

---

＜2025 年度の取り組み概括＞

1. 2025 年度(2024 年 10 月～2025 年 9 月)のたすけあい奨学制度の実績数値は、次の通りとなりました。( )は前年

●応募者 499 名(468 名) ●給付数 398 名(393 名)  
●給付率 79.0%(84.0%) ●給付金額 4,735 万円(4,397 万円)

応募・給付数は共に増加しました。給付率は微減ですが増額したことで給付金は増えています。

●寄付金額 2,623 万円(2,636 万円) ●賛助会費 2,533 万円(2,387 万円)

●賛助会員数 大学生協 207 会員(191 会員)、特別団体賛助会員 8 会員(5 会員)、一般団体賛助会員 13 会員(0 会員)、個人賛助会員 209 会員(149 会員)

本年度は、コープ共済連からの寄付額は増加しましたが、会員等からの寄付が減少したことで合計の寄付額はほぼ横ばいでした。

2. 2025 年度の奨学制度推進委員会

2020 年度から設置された本委員会は、6 年目を迎え「たすけあい奨学制度」推進の委員会として理解を深めるとともに、会員生協や組合員にいかにかこの制度を広めていくか、特に各ブロック、会員の取り組みを持ち寄り、交流することで活動促進を図る計画とし 4 回開催しました。多くの委員に重任して頂いたことで、協議や活動の継続性が保たれました。

また、委員や財団役員の方々の尽力により、団体賛助会員が増加しました。

＜2026年度の主要なテーマ＞

大学生協で進めてきた勉学援助制度の役割と精神、取り組みを、大学生協奨学財団でのたすけあい奨学制度として一層強化・発展させていくためには、大学生協連とその会員生協が制度を推進し支えていくことが重要です。そのために、大学生協連では、引き続き理事会委員会として「大学生協奨学制度推進委員会」を設置することとします。

### 【テーマ】

- (1) 今年も「たすけあい奨学制度のつどい」を開催し多くの方に制度を知っていただき、制度の発展につなげます。
- (2) 大学生協奨学財団での奨学事業に関し、組合員や大学への紹介活動を進めます。
- (3) 会員生協での取り組みを促進するため、各生協での取り組み事例の集約と普及を進めます。
- (4) そのために各ブロックでの大学生協奨学制度推進の検討や学習、取り組み交流を強めます。
- (5) たすけあいでの財源の充実促進。特に卒業生への寄付呼びかけの取り組みを一層強めます。
- (6) 大学生協奨学財団に、推進情報や意見・要望を伝え、制度発展のために連携を図っていきます。
- (7) コープ共済連合会（中でも大学部会）との協力関係を一層強化し、同じく「たすけあい」制度である、学生総合共済事業と共に発展することを目指します。

### 3. ブロック活動報告

○北海道ブロック

○東北ブロック

○東京ブロック

○東海ブロック

○関西北陸ブロック

○中国・四国ブロック

○九州ブロック

○各ブロック運営委員会・常任運営委員会の  
2025 年度開催報告

---

---

## 北海道ブロック

---

---

### 2025 年度北海道ブロック活動の前進点

#### ●全体テーマ

大学生協の事業と活動を軸に、「組合員の元気」を全道で上げよう

#### ●活動方針

- ・ 組合員の運営参加ができる場を設けましょう
- ・ 大学生協の価値を見出し、上げていきましょう
- ・ ブロック内でのつながりを強化していきましょう

今年度は 2024 年度に引き続き、「組合員の元気」を各生協やブロックに拡げることがテーマに、様々な活動に取り組んでまいりました。

#### 【組合員の主体的な参加の進展】

各会員生協では、総代会におけるグループ討議や、組合員の声を集約した企画などを積極的に実施しました。その結果、組合員の中に「自分たちの生協」だという認識が芽生え始め、主体的な運営への参加が着実に始まっています。

また、連帯によってつながる学生委員や生協職員の間で、「組合員間のたすけあい」の動きが生まれ、組合員の「元気」を広げていこうという機運が高まったことは、大きな進展です。

2026 年度の新学期活動に向けては、北海道全会員生協にて「在校生まるごとアンケート」を実施し、その結果を新学期活動に活かすことができたのも、大きな成果となりました。

#### 【連帯の学びと事業活動への展開】

連帯での学びを活かし、共済ボードや自転車点検会、共済給付事例交流会など、昨年以上に積極的にチャレンジする生協が増加しました。また、後期開始時には「おかえりなさいキャンペーン」を実施する会員生協も増え、「4 本柱を中心としたたすけあいの輪の広がり」を強く実感することができました。

#### 【「大学生協の原点」の再確認】

2025 年が国際協同組合年という機運を捉え、「大学生協とはそもそもどのような組織なのか」という原点に立ち返るためのグループ交流を実施しました。「事業と活動の両輪こそが大学生協」という再認識を行い、日々の事業活動を含め、全ての取り組みに目的をもって推進していけるよう、改めて提起を行いました。

#### ●2026 年度北海道ブロック活動計画（案）

事業と活動の両輪こそが大学生協であるという原点の理解を深めることができる年度にしてまいります。ポイントは以下の通り。

- ・ ブロック運営委員会にて大学生協とは何なのかの理解が深まる討議を行います。
- ・ 全道の学生委員長と副委員長の教育に力を入れることが、全道組織活動活性化の近道とし北海道ブロック学生委員会の開催を現在年間 4 回から少しでも多く開催できるよう計画を行います。
- ・ 会員支援に力をいれます。専務理事・学生委員長との定期打合せを月一回は必ず開催してまいります。
- ・ 全道教職員委員会にて教職員の生協加入率増の取組の提起を行い実践にうつしてまいります。教職員委員会への参加促進を各生協教職員理事から選出できないか打診を行います。
- ・ 学びと成長・社会的活動などの活動を各生協にて行えるよう発信を行い、大学生協がある学生（組合員）の経験値が増え、心豊かな社会人に一人でも多くの方がなれるようにいたします。

---

---

## 東北ブロック

---

---

2025 年度 東北ブロック活動報告（総括）

**全体テーマ：組合員がさらに魅力を実感する大学生協を創ろう**

**活動方針 1：**

「わたしたちの大学生協」という実感を広げるために、組合員が関心を寄せ参画したいと思える大学生協を創りましょう

**【成果と課題】**

○2025 年度、東北ブロック全体で生協加入数や共済加入率が増加したほか、学生委員会の獲得数や総代の選出数が大幅に増加した大学生協があるなど、新学期の時期から組合員に対して生協の仕組みや魅力を伝えることができた大学生協が多くありました。また、組合員参画の起点となる総代活動においても、今年から新たに総代会で総代と対話を行い、生協への要望について話し合ったり、年間を通して総代と関わる場を新たに設けたりした大学生協がありました。

●組合員に対する取り組みの広がりには大学生協ごとに差があり、取り組みを検討できていない、あるいは「行いたい又何から手をつけたらよいのかわからない」といった大学生協もありました。取り組みを行っている大学生協から、行っていない大学生協へ魅力やモチベーション、ノウハウを伝えることなどを通して、組合員に対する取り組みをブロック全体に広げていくことが課題です。

**活動方針 2：**

**組合員が自身を取り巻く環境に目を向けるきっかけを創りましょう。**

**【成果と課題】**

○自身を取り巻く環境に目を向けるための取り組みとして、健康・安全、社会的課題、学びと成長の3分野について推進委員会を設け、学生と生協職員が協働して組合員の成長について考える機会をつくりました。学びと成長分野においては、夏の連帯企画をオンラインで設け、組合員に対して学びと成長を推進することの大切さを推進委員に伝える取り組みが行われました。また、店舗・食堂分野では「食育」をテーマに掲げ、大学生協の店舗・食堂の利用によって組合員の食生活が豊かになることを、ブロック学生委員会の場でともに考えました。

●学生委員内にとどまり、組合員に対する活動まで広げられていない大学生協もありました。各大学生協から組合員へと活動を広げていくために、ブロックとしてもサポートしながら、東北全体で取り組みを強めていくことが必要です。

**活動方針 3：**

**各大学生協と大学とのパートナーシップを強化しましょう。**

**【成果と課題】**

○春の共済セミナーや新学期戦略会議では、職員・学生委員・アドバイザーがそれぞれの立場で、新学期や共済の推進といった共通の目標について考えることで、大学生協内の各組織間での関係性や連携、さらには大学とどのように関わっていく必要があるかを考える場が設けられました。また、オープンキャンパスや入学試験などの学事の際に、学生委員が大学と協力して活動を行ったり、大学に貢献する活動に取り組んだりした大学生協もありました。

●大学との連携が取れなかったことにより、共済の加入率が減少してしまった大学生協がありました。また、大学に対して大学生協や学生委員会の取り組みを伝えたり、協力して活動を行ったりできている大学生協はまだ限られていることが課題と言えます。

## 2026 年度東北ブロック方針（案）

1. 組合員の生活実態と実感に基づいた議論を行い、組合員との協同を拡げます。
  - ・組合員の生活実態の分析と要望把握に取り組み、生協事業の利用拡大につなげます。
  - ・ブロックと事業連合が協力し、組合員の店舗利用促進に取り組みます。
  - ・組合員の願う将来像を源泉として経営ができるよう、ビジョンとアクションプランを構築するための学習の場を設けます。
  - ・各生協は、経営的に自立した生協であり続けられるよう努めます。
2. 組合員同士がたすけあい、励まし合える場をコミュニティのつながりで実現します。
  - ・学生組織委員・職員が総合力を発揮し、生協加入者・共済加入者の増加に取り組みます。
  - ・学生総合共済の4本柱を意識した取り組みを行い、その中でも「給付」「予防」を重視して、私たちの共済であることを認識できるようにします。
  - ・教職員や院生への生協加入促進に取り組みます。
3. 組合員の大学での学び方や学習状況を把握し、仲間と共に自己実現・成長できる機会を創ります。
  - ・入り口支援を学びと成長の場と位置づけ、生協一丸となって取り組みます。
  - ・SEQを活用し、組合員が自身の成長実感をつかめるようにします。経験を積んだ上級生の姿を間近で感じ、「自分のありたい姿・なりたい姿」を見つめられる場を設けます。
  - ・ブロックと事業連合が一体となって、学びと成長事業に取り組みます。
4. 持続可能な社会の実現に向けて、組合員の興味・関心を出発点に、知る・知らせる・考える・行動するきっかけづくりを行います。
  - ・平和について知り、考える取り組みをブロック主催で開催します。市民団体との協同も行います。
  - ・行政庁と協同し、消費者課題に取り組みます。
  - ・全国環境セミナーや会津高原「森林の楽校」への参加を促進し、間伐材割り箸の普及に努めます。
  - ・防災・減災を他人事ではなく自分事として捉え、自分と自分の大切な人を守る取り組みを行います。

---

---

## 東京ブロック

---

---

### 【1】東京ブロック 2025 年度の振り返り

#### ■ブロックテーマ：つながる仲間、ひろがる活動、つむぐ未来

2025 年のとりくみは「組合員参加分野のとりくみ」が最も多く、特に総武と北甲において活発に行われており、組合員参加型のとりくみが推進されていることが分かります。「学びと成長分野のとりくみ」も各地域でバランスよく実施され、組合員の学びと成長に貢献できるようになってきました。一方で、昨年度よりも活動は増えたものの「社会をつくる分野のとりくみ」は他の分野に比べて実施数が少なく、今後の強化やとりくみへのハードルを下げる必要があります。全体として、組合員の参加を基盤に、学びや健康に関する活動が充実した年度となりました。

1. 組合員が大学生協の「運営」に参加し大学生協を「身近」に感じてもらい、全生協の加入率過去最高を目指す。（生協・共済・ミール等）

【新入学生委員獲得数：1646 名(南:241 名 総武:322 名 武蔵野:586 名 北甲:497 名)】

【昨年比：1078名(南:163名 総武:174名 武蔵野:297名 北甲:444名)】

【24年度よりも総代実出席数が向上した会員：36会員】

25年度の総(代)会は実出席率向上に向け、試食会や分科会など総代が参加したくなるような工夫が多く見られました。

【成果】

- ・新学期活動を通じて「〇〇大生のリアル」を知り、組合員に大学生協を「身近」に感じてもらうことができました。
- ・季節×店舗を活用したとりくみが多く、生協で行われ、組合員に生協の「運営」に参加してもらうことができました。

【課題】

- ・日常期の活動を通して、〇〇大生の日常や学業の実態を集約し、それらを生かして「〇〇大学・〇〇大学生協 ALL」で新入生を温かく迎え入れましょう。
- ・年間を通して「日常期活動(総代活動も含む)」と「新学期活動」のサイクルを確立させましょう。

2. 「継続的」に「寄り添った」サポートを行い、組合員の健康で安全な大学生活を実現する。

【成果】

- ・健康フェスタや自転車点検会をただ実施するのではなく共済ボードを掲示するなど「+1」のとりくみとして共済活動の4本柱の要素を盛り込むことができる会員が増えました。

【課題】

- ・26年度新学期に向け、各会員で学習会等の準備を行い職員と学生で「たすけあいの輪」を上げる意識を持ちましょう。
- ・通常期の活動においても時期に応じて、組合員に寄り添った共済活動を行いましょう。

3. 階層を超えた組合員どうしが学びあい、「大学の特色に適した学び」や「組合員の願い」を実現する。

【成果】

- ・新学期提案では先輩学生の体験を活かした学びのツール提案や使い方講座、履修相談会を実施することで新入生の学びのスタートを後押しすることができました。
- ・通常期の活動では、書籍部でのポップ作成や本のリユース企画など様々な方法で組合員が本を手取るような工夫をすることができていました。

【課題】

- ・新学期時期に向け先輩学生の学びの様子について集約・分析し、より組合員に寄り添った提案ができるような準備を始めましょう。
- ・職員・学生で協同し、幅広い分野での学びと成長の支援にとりくみましょう。
- ・就活やキャリア形成に向け準備を始めている学生に対して、先輩学生の就活体験などを基に支援をしましょう。また、就活が終わった学生から情報収集を行い、支援につなげましょう。

4. 組合員が継続的に社会に目を向けることができるようきっかけを作り、幅広く広める。

【成果】

- ・新入生冊子に防災や消費者リスクについて掲載する会員生協が増えました。消費者リスクについての記事には、103万の壁や奨学金など大学生だからこそ考えたい内容について書くことができていました。
- ・終戦80年という節目の年であることをきっかけとしたとりくみを行う会員がありました。書籍の販売やPOPの作成だけでなく組合員がそれぞれの平和を考える機会もありました。

### 【課題】

- ・「PeaceNow!」「ふくしまスタディツアー」「ヨコタ東北視察見学」に参加し、全国の大学生協で活動する仲間と平和について考え、その学びを持ち帰り、行動に移しましょう。
- ・SDGs の達成に向けて身近なところからできることを行いましょう。
- ・セミナーに参加し、大学生協が社会的課題に取り組む意義を理解し、学びの持ち帰りを行いましょう。
- ・新学期の準備段階から社会をつくる分野の視点を取り入れることを意識しましょう。

## 【2】2026 年度 東京ブロック目標(10/31 現在)

### 1. 東京ブロック目標の位置づけ

- ①2025 年東京ブロックに所属する大学生協全体で、「学生と生協職員、教職員など階層を越えて目指していきたいこと」を文章にしたものです。
- ②全国大学生協連通常総会で確認される 2026 年度全国の大学生協の活動方針を踏まえて、現状をもとに東京ブロックとしてとりわけ強調して目指していきたいことを文章にします。
- ③それぞれの目標は「2026 年度に目指すこと」「2026 年度に目指す数値目標」「行動提案」で構成されており、「行動提案」の項には、ブロック目標をより具体化し、各大学生協に実際に行ってほしい活動を示しています。
- ④東京ブロック事務局では、この目標をもとに、各大学生協のとりくみを集約し、各大学生協どうしの学び合いやとりくみの強化に繋げていきます。

### 2. 東京ブロック 2026 年度の活動テーマ ～とりくみを行う上で重要にしたい視点～

2026 年度は「“つながり”を未来へ」を活動テーマとします。

今年度は、SDGs に準えた大学生協が 2030 年までに達成したい目標「大学生協 2030Goals」を基に全国方針が策定されました。コロナ禍から経営数値の回復が見られる大学生協がある一方で、入学者数の減少などの影響を受け、経営難が続く大学生協も見受けられます。大学生協らしい魅力と価値をアピールすることができなければ、存続自体が危ぶまれる状況になりつつあります。しかし、大学の福利厚生施設としての大学生協がなくなると、大学生の生活には金銭的負担をはじめとする多くのダメージが強えられる可能性があります。加えて、大学生協が持つ“つながり”が失われることにもなります。この“つながり”は大学生協の大きな魅力の一つです。組合員どうし、大学生協どうし、大学と大学生協、さらには社会とのつながりまで、どこまでもつながることのできる可能性が大学生協にあります。”つながり”が”つながり”を呼び、持続する大学生協へ、東京ブロック A11 でよりよい組合員の生活と平和の実現を追求していきましょう。

### 3. 2026 年度東京ブロック目標 ～具体的な行動指針～

- ①すべての組合員が大学生協の「運営」に参加し「自分たち」の大学生協という意識を持つ。
  - ②事業や活動を通して「大学の特色に適した学び」や「個々の組合員のなりたい姿」の実現を支援する。
  - ③「たすけあい」の想いに則ったサポートを行うことで、組合員の健康で安全な大学生活を実現する。
  - ④大学生協がさまざまな組織と協同し、組合員が継続的に社会に目を向けることができるようきっかけを作る。
  - ⑤組合員にとって身近な大学生協になることで、大学に頼りにされるパートナーとなる。
- 以上の①～⑤の事柄を東京ブロックが一丸となって意識して行動に移し、組合員に大学生協がより身近で必要不可欠な存在であることを実感してもらえるようにしましょう。

以下略

---

---

## 東海ブロック

---

---

### ■ 2025 年度ブロック方針に基づく総括

#### 推進分野 1 組合員が参画する場づくり(組織運営)

##### 【活動方針】

- ① 昨年に引き続き、よりよい大学生活を目指して積極的に活動する仲間を増やしていきましょう。
- ② 組合員が声をあげやすい店舗運営にすることで、「組合員のお店」となることを目指しましょう。
- ③ 総代が年間を通して生協と関わり続けることができることを目指しましょう。
- ④ 理事全員で生協について考え、発言ができる理事会を目指しましょう。
- ⑤ 他大学、他団体、地域とつながり、組合員のよりよい生活を目指していきましょう。

##### 〈成果〉

- ・ 新入生歓迎会や履修相談会などが多数行われ、新入学生委員が約500人加入し、学生の参画が広がりました。
- ・ 購買総選挙やリ・リパック投票、店舗装飾など、店舗を基点とした参加が進みました。
- ・ 総代制度紹介や総代meeting開催が増え、交流が進みました。
- ・ 理事・監事学習会の実施や、理事会での議論活性化が進みました。
- ・ 他大学や地域生協、教員との連携が見られました。

##### 〈課題〉

- ・ 学生委員募集や生協紹介にばらつきがあり、理解をそろえていく必要があります。
- ・ 集めた声が改善につながりにくく、活用の工夫が求められます。
- ・ 総代meetingへの参加促進や交流の拡大が課題です。
- ・ 企画の振り返り・成果共有を仕組み化し、次につなげる体制が求められます。

#### 推進分野 2 健康安全

##### 【活動方針】

- ① 学生委員会と職員で一緒に共済・たすけあい奨学制度を学びあい、組合員に広げていきましょう。
- ② 共済の4本柱を意識した取組を進めて、共済のたすけあいの輪を広げましょう。
- ③ 共済の日常活動から新学期活動へとつなげて、多くの新入生に共済の良さを伝えよう。

##### 〈成果〉

- ・ 共済基礎学習会や地域推進委員会で、学生と職員が共済制度について学ぶ機会がありました。
- ・ 共済マイページ登録や啓発資料の配布などにより、認知が広がりました。
- ・ 入学準備説明会での事例紹介や、ベジチェックなど、共済に関心を持つきっかけづくりが進みました。
- ・ 通常期に給付事例学習会や共済ボードの作成に取り組む会員が増えました。

##### 〈課題〉

- ・ 給付事例を学ぶ機会が不足し、共済班以外の理解が進みにくい状況があります。
- ・ たすけあい奨学制度や寄付の認知が十分ではありません。
- ・ 「予防」以外（給付・加入・報告）への取り組みを強める必要があります。

### 推進分野 3 学びと成長

#### 【活動方針】

- ① 上級生から新入生へ、学びのサイクルを作りましょう
- ② 組合員の学修スタイルや生活背景を把握したうえで学びの場やツールを提供しましょう
- ③ 読書推進活動を通して、組合員が学び、考え、成長できるサポートをしましょう。

#### 〈成果〉

- ・ 履修相談会や冊子作成など、先輩から新入生へ学びをつなぐ取り組みが多く行われました。
- ・ PC・タブレット活用など、学修スタイルに応じた支援が進みました。
- ・ 読書マラソンや本屋トーク、SNS発信など、読書推進の取り組みが広がりました。

#### 〈課題〉

- ・ 大学事情で講座が難しい会員もあり、支援の場づくりを工夫する必要があります。
- ・ ICT支援は進む一方、語学教材提案は十分とはいえません。
- ・ 上級生向けの取り組みが少ない状況です。
- ・ 読書の意義が学生の実感につながりにくく、価値を伝える工夫が求められます。

### 推進分野 4 社会をつくる

#### 【活動方針】

- ① 様々な社会的課題に対して、大学生協で取り組む意義を考えていきましょう
- ② 学生と職員が一緒になって取り組みを上げていきましょう
- ③ 社会的課題に対し、学生委員・職員自らが知り・考え・行動しましょう
- ④ 組合員を巻き込んだ活動を意識しましょう

#### 〈成果〉

- ・ 「みぎあしFest. 春の陣」や委員会参加を通して、大学生協としての意義を考える機会が生まれました。
- ・ 愛知県立大学などで学生と職員が協働し、店舗活用や講座を通じた企画が行われました。
- ・ 名古屋大学では「知る・考える」機会、愛知教育大学では防災SNS企画など「行動」につながる取り組みが進みました。
- ・ 一部会員では、新学期活動と結びつけて情報発信を行うことができました。

#### 〈課題〉

- ・ 会員生協としての意義づけが十分とはいえません。
- ・ 「何をすればよいか分からない」など、取り組みの開始にハードルを感じる場面があります。
- ・ 「知る・考える」から「行動」への展開が難しく、学生・職員が共に進める体制づくりが必要です。
- ・ 組合員を巻き込む企画や継続的な取り組みが少ない状況です。

### 推進分野 5 新学期

#### 【活動方針】

- ① 組合員をど真ん中に、「新たな仲間を温かく迎え、支える気持ち」を持って新学期活動に取り組みましょう。
- ② 目標の生協・共済の加入率を達成し、一人でも多くの人を迎え入れられるような新学期活動にしましょう

- ③ 受験生やその保護者と早期から接点を持ち、入学したら大学生協で安心と思ってもらえるように早期から活動しましょう。

〈成果〉

- ・ 新学期活動やセミナーを通して、「学生と職員の協力」「通常期との接続」が大切であることを確認できました。
- ・ 共済班がSNS発信や事例紹介を行い、一部会員で加入率維持につながりました。
- ・ オープンキャンパスでのキャンパスツアーや、SNSによる道案内など、新入生・受験生との接点づくりが進みました。

〈課題〉

- ・ 東海全体で共済加入率が低下しています。
- ・ 制度説明にとどまり、経験に基づく自分ごとの提案が難しい場面があります。
- ・ サポーターやアドバイザーなど、学生委員以外との連携が十分ではありません。

## ■ 2026 年度ブロック方針（案）

2026年度東海ブロック方針では、分野推進課題に以下の内容を盛り込みながら、2030Goalsを目指します。

### 推進分野 1 組織運営

- ・ 総代活動、理事会の活発化
- ・ 店舗の利用
- ・ 声カードの推進
- ・ 地域との連携

### 推進分野 2 健康安全

- ・ 共済ボードを全ての大学で行う
- ・ たすけあい奨学制度の推進
- ・ 通常期とつながった共済提案

### 推進分野 3 学びと成長

- ・ 知識・体験をつけるサポート
- ・ 組合員視点に合わせた講座
- ・ アンケートの活用をして、ニーズを知る
- ・ 見学をして学びにつなげる
- ・ 読書推進

### 推進分野 4 社会をつくる

- ・ 組合員が減災の意識を高め行動に移せる活動をしよう！
- ・ 職員さんとの協力も大切に！
- ・ 環境の活動として樹恩割り箸の意義を伝えよう！
- ・ 組合員が平和を考えるきっかけを作ろう！
- ・ 組合員が消費者問題に目を向けるきっかけを作ろう！
- ・ 気軽にできる国際貢献活動を広げよう！ Ex. おにぎりアクション

### 推進分野 5 新学期

- ・ 職員と学生と一緒にいる新学期
- ・ 通常期と新学期のつながりを意識する
- ・ ○○大学生協ALLでの取り組み
- ・ 他大学の学生委員との協力体制
- ・ 早期からの新学期活動
- ・ 学生の声を届ける

---

---

## 関西北陸ブロック

---

---

### ■2025 年度関西北陸ブロック活動報告

#### 1. 組合員が利用・参加し、自分や自分たちの生活向上を実感できる大学生協づくりを進めました

- (1) 大学（関係部署）との懇談会や報告など、生協と大学との関係構築を図る取り組みも増えてきました。
- (2) 総代会では、総代が学生・教職員・生協職員の立場に関わらず自大学生協についての意見交流が行われたり、事前の総代会企画で総代同士の交流を通して、生協について活発に意見交流が行われるなど、生協の運営に参加する意義や大切さを実感できる機会を提供する会員が増えました。
- (3) 総会・総代会学習会 2025 を開催することができました。総会・総代会の役割や理想を知る機会を提供することができ、大学生協の総会・総代会を運営にするにあたって、イメージを膨らませるきっかけにすることができました。
- (4) 大学（関係部署）との懇談会や報告など、生協と大学との関係構築を図る取り組みも増えてきました。
- (5) 各会員生協においては、季節や行事などに合わせ、店舗に関する取り組みの実施数が多く、学生委員会と職員の間で連携して、組合員を巻き込んだ取り組んだ事例も多数見られました。
- (6) 理事会学習会を行うことができました。学習会を行うことで、学生理事・監事の役割や学生に求められていることとは何かを伝え、これから理事会にどう参画するのか、考えるきっかけになりました。
- (7) ひとことカードなど、日常の組合員の意見を聞き、店舗運営につなげる取り組みは会員生協では行われていますが、より活動を活発に推進するための好事例の横展開などの提案は不十分でした。
- (8) ブロック主催による交流企画や学びあいを通して、「まねると学ぶ（まねび合い）」が進み、良い事例や企画の教訓・ポイントが自会員生協の企画に取り組みられるようになっていきます。
- (9) 東海ブロックの内容を参考にしながら、関西北陸ブロックで卒業生アンケートを今年度から実施しました。回答数は関西北陸全体の卒業予定者からすると少ない状況で次年度に向けて課題となりましたが、生協への評価や一言コメント、各大学の先輩の知恵や経験、また卒業前後の実態など生協事業・活動の様々な場面で活用できる貴重なデータを得ることができました。
- (10) 連合会の経営支援制度が本格的にスタートし、関西北陸ブロックは支援タイプ A が 1 生協、支援タイプ B が 2 生協となり、各会員との経営対策会議を軸に伴走型支援を実施しています。

#### 2. 組合員の生活実態を把握し、大学生協全体で組合員の健康で安全な学生生活を支える活動が増えました

- (1) 給付事例や受給者の声、また大学生活で起こりうるリスクの交流など「〇〇大学のリアル」を交えながら共済の必要性を入学準備説明会やサポートセンターなどで提案する会員が増えたことで、関西北陸地区としては、25 年度の共済加入率は前年を伸長することができました。
- (2) しかし、他地区比べるとまだ低い水準の加入率のため、25 年度の取り組みの教訓をもとに 26 年度の推進につなげていく必要があります。

- (3) 日常活動の取り組みも進んでいます。長期休暇明けの「おかえりなさいキャンペーン」などを実施し給付申請忘れ防止の取り組みができている会員生協が増えています。
- (4) 共済ボードや共済加入カード、SNS の活用など、組合員自身が加入している意識づけや共済の理解を深める取り組みを行う会員生協もありました。
- (5) ブロック学生委員会で給付事例学習会を行い、会員生協でもたすけあいアンケートを読んで効果的な取り組みを考えようと参加した学生委員が考えるきっかけとなりました。
- (6) 対面の健康安全企画はさらに増えてきました。自転車点検会・食生活相談会（ベジチェック）・健康フェスタなどに取り組む会員も増え、組合員の健康・安全な学生生活を支える機会が広まりました。
- (7) 共済推進委員会を設置し、大学の枠をこえた、関西北陸ブロック全体でのコミュニティを形成できました。また、推進委員には多くの会員から選出したことで取り組みを広げることができました。
- (8) 全国共済セミナーや地域版共済セミナーを通して、新学期に向けてセミナー報告会や共済学習会・給付事例学習会を職員・学生と実施し、「〇〇大生にとってのおすすめの加入プラン」をみんなで決める会員生協も見られました。
- (9) 新社会人コースや「お金にまつわるセミナー」の実施も関西北陸地区内で広がっています。また個別会員生協と地域生協が連携をし、卒業生向け企画を行う事例も増えていきました。

### **3. 組合員の学び方や大学の学習支援について把握し、組合員が仲間とともに自己実現・成長する機会をつくりました**

- (1) より学生と職員が想いを共有し「一緒に」取り組む会員が増えました。アンケート分析などによる大学・学部・学科の特徴（リアル）と学生組合員の利用実感を重視した教材 PC や PC 講座などの学び提案を行う取り組みや、開催形態を工夫し、組合員の多様な不安の解消に努める会員が増えました。
- (2) 新入生だけでなく受験生相談会やオープンキャンパスでの取り組みも進み、受験生（将来の組合員）に対しての受験や入学への不安の解消や、早期からの生協とのつながりづくりを進める会員が増えました。
- (3) 「新学期スタートダッシュセミナー2026」では、大学生協にとっての新学期事業の方向性を示した「新学期 MVV」や、2026 年度に向けて重視すべき観点を示す「新学期テーマ」に込めた意味や意図を会員生協に伝え、全体共有することができました。また、各会員生協の実践事例を学び合うことで、新学期活動の質的な向上に寄与しました。
- (4) 関西北陸ブロックの保護者セミナーを通して、新入生・保護者が入学時に抱える課題を払拭するための提案を行うことができました。一方、関西北陸地区の大学数を考えると参加者数は少ないと思われ、各大学生協や大学・高校などの動きに合わせた情報宣伝の実施や、内容も全国セミナーとの連携も視野に「関西北陸版」の位置づけを再検討する必要があります。また、セミナーでできた保護者とのつながりを各会員生協へのつながりにすぐに結び付く仕掛けづくりも必要です。

### **4. SDGs 達成に向けて、組合員の興味・関心を出発点に、知り・知らせ・考え・話し合い・行動するきっかけをつくりました**

- (1) 「阪神淡路大震災から 30 年」「能登半島地震から 1 年」という節目の年に、防災減災に関する出前講座などの実施の準備を整え、今後、会員生協への周知・実施にこだわります。
- (2) 3.11 バトンリレーや環境の日に関する投稿といった、SNS 発信によって社会的課題に関する啓蒙を組合員にアプローチした会員生協の事例もありました。

- (3) 能登半島地震・能登半島豪雨対応についても前年度に実施した現地視察以降、関西北陸ブロックとしては行えていません。まだ復興半ばの能登において、地域生協とも連携・協議しながら「大学生協ができること」を考えていく必要があります。
- (4) リ・リパックについては、前年からの課題であって継続して回収していく取り組みの推進が行えませんでした。改めて学生・職員の問題認識を共有することが必要です。

## ■2026 年度関西北陸ブロック活動方針（案）

【2026年度 関西北陸ブロックで大切にしたいポイント】

- ① 組合員同士のつながり・交流
- ② 学生・教職員・生協職員の枠を超えた連携・交流
- ③ 生協（店舗・食堂含む）の運営に参加する・継続的な利用につなげる
- ④ 組合員（学生・教職員）の声を聴く・参画する（総代会や店舗活動への組合員参加）
- ⑤ ささえあい、たすけあう
- ⑥ 大学や地域と連携する
- ⑦ 学生・教職員への事業や活動の意義の再認識

➤ これらのポイントを支えていくため、ブロックとしても会員支援をさらに重視し、各会員の取り組みの意義づけや会員間のつながり・学びあいの場を積極的に意識して取り組みます。

---

---

## 中国・四国ブロック

---

---

### ■中四国ブロックのスローガンと目指すこと

スローガン「自立した個性輝く連帯」「楽しくなければ続かない。まじめでなければ広がらない」

2025 年度目指すこと（重点方針）

大学生協の想いや存在意義を実感し、よりよい大学生活の実現に向けて考動しましょう。

### ■ 2025 年度活動報告 （活動方針をもとに）

- ① 組合員が参画し協同する場づくり  
組合員が利用・参画し自分たちの生活にとって必要であると実感できる大学生協づくりを進めましょう。
- ◆ 全国学生事務局会議等で総会・総代会に関する支援において何を大切にするのかを学び、そのことを基に総代会チェックシートを用いた集約・総代会訪問を行いました。今年は全会員で総代会を対面形式で開催でき、意見交流などで参加者が発言しやすい雰囲気作りを行っており、総代との新しいつながりづくりが行われていました。
- ◆ 12月の学生委員長会議で「組織運営とは何か」を説明し、よりよい総会・総代会とは何か、理事会とは何か考えることができました。
- ◆ 2月の組合員活動研修セミナーで学んだことを持ち帰り、未参加者まで学びを届ける工夫を行うことができたことにより、多くの学生委員に大学生協の価値や組合員活動の進め方について理解を深めることができました。

- ◆ 4月のブロック運営委員会・学生委員長会議において総会・総代会の位置づけや役割を理解し、総代と年間を通してつながり続けるという意識を高め、そこから東京ブロック学生事務局組織運営(主に総会・総代会、理事会など)担当の種田さんより大東文化大学よりよい総代会について考えを深める機会をつくることができました。
- ◆ 6月に開催した春のセミナー2025では、学生委員会の役割や組合員活動の視点や、大学生協の想いについて伝えることができ、学生委員会活動のスタートや再スタートを切るためのきっかけとなった。また事前に各大学生協からひとことカードや各大学生協の情報を集め会員マップを作成し他大学生協と多くの大学生協が交流し情報交換を行い学生委員会活動の更なる盛りあがりに繋がっていました。

## ② 健康安全

組合員の生活実態や社会状況を把握し、つながりづくりや組合員同士がたすけあう取り組みを通じて健康で安全な大学生活を実現しましょう。

- ◆ 4月学生委員長会議や春のセミナー2025、パワーアップ交流会で、貸し出し備品を各会員で活用できるように周知や共済ブースの設置、たすけあい奨学制度のポスター掲示など行い、知らせました。その結果、各会員でベジチェックを使った組合員向けの健康促進企画を実施したり、学生委員会の中で運動をして身体づくりをする時間を作ったりなど『予防』や『報告』の活動が推進できました。
- ◆ 会員の多くで新入生・保護者の集合型説明会やサポートセンター、新入生歓迎企画などで共済加入の説明が行われ、大学生にとって生活に必要でかつ重要な共済であることを伝えることができました。
- ◆ ブロックでも運営委員会で給付事例学習会を実施することで、会員の皆様に共済のたすけあいの想いを実感していただき、共済の魅力や必要性を互いに再確認しました。想いを伝えることを大切にしたら結果、多くの会員で給付ボードやSNSを用いた継続的な発信・報告ができていました。

## ③ これからの学びと成長

組合員の学び方や大学の学修支援について把握し、組合員が仲間とともに自己実現・成長するための機会をつくりましょう。

- ◆ 履修相談会や新入生向けの大学生協紹介プログラムなどで、上級生から下級生への学びのサイクルの形成ができていました。また、多くの会員生協で、先輩学生がPC講座や、まなたび講座のスタッフとして学びの計画を立て教えることで、下級生の学びを支えるとともに、自分自身の成長の機会にしていました。このように、学生自らが大学生協の提供している学修事業に携わり、組合員の学修の質の向上に努められていました。
- ◆ 4月・6月開催のブロック運営委員会や学生委員長会議で、学生生活実態調査について扱い、調査結果から大学生協や組合員の現状について考えました。組合員の生活実態をもとに今後大学生協としてどのような学修・成長支援を行っていくかを職員・学生ともに考えました。
- ◆ 学生委員同士の「交流LINE」や春のセミナーの企画物として行った「中国・四国ブロック会員紹介マップ」など、会員が中国・四国ブロックの大学生協や学生委員会について知り、交流する機会を設けたことで、セミナー以外での会員間連帯が促進され、会員同士の学びあう様子が活発に見られました。
- ◆ 多くの会員生協で職員・学生ともにブロックや全国連帯への参加が広がりました。また、

セミナーでの学びに留まらず、合宿や学習会(共済学習会など)を自大学生協で開催し、セミナーの内容を持ち帰り、自大学で大学生協や学生委員会についての学びを深め、組織委員の育成を行う会員が多く見られました。

#### ④ 社会をつくる

SDGsの達成に向けて、組合員の興味・関心を出発点に、知り・知らせ・考え・話し合い・行動するきっかけづくりを行いましょう。

- ◆ 多くの会員生協でリリパックや樹恩割り箸の説明をした情報発信や、実際に体験してもらうことで新入生も含めた組合員に、大学生協の環境配慮や想いを周知することができました。また新入生向けの取り組みの際に、新生活で直面するゴミ分別の問題を投げかけたり、防災に関する注意喚起を行ったりしました。また、全国環境セミナーを通じて、参加された会員学生委員に大学生協における環境活動について考えてもらうことができた。
- ◆ ブロック学生事務局会議にて「社会を覗く時間」を行い、メンバー内で大学や大学生協と社会的課題の繋がりについて考えることができました。そしてブロック運営委員会でもおこなったことで、参加された教職員、専務、学生のすべての階層から社会的課題を話し合うことの大切を学んでいただきました。また、SNSでも月に一度「ちょこっと社会を覗く時間」を発信し、定期的に社会的課題に目を向ける機会を提供しました。
- ◆ 実行委員会会議やセミナー開催時に、避難経路の確認や災害時の対応の確認をして、防災への意識向上を伝え続けたことで、会員の新生歓迎企画の始めに、新入生へ災害時の安全確保について呼びかけるなど防災意識を高めることができました。またユニセフ募金やミャンマー地震の募金活動に取り組むとともにSNSでの防災に関する情報発信に努めました。
- ◆ 「国際協同組合同年」を意識し、ブロックの枠組みを超えた連帯を実現するために、東京ブロックと協同したオリジナルのセミナーを作りました。SDGsの達成に向け、各ブロックの地域の特色や得意を活かしながら、お互いに刺激を得られる企画作りに励みました。またPeace Now! Hiroshimaなどの準備、実施を通して、平和の大切さ、現在世界の現状など多くの学びができました。

## ■ 2026 年度計画

中四ブロックにおける 2026 年度活動テーマは「みんなで一緒に新たな一步を踏み出そう！」～原点に立ち返り、学生と職員が紡ぐワクワクの未来へ～と掲げました。2026 年度は、学生委員・アドバイザー/サポーター職員といった立場を超え、〇〇大学生協 ALL で新入生と保護者を温かく迎え入れ、価値ある大学生活のスタートをともに創っていく年にしたいと考えます。受験環境の早期化に対応し、大学や他大学生協とも協同しながら活動を進める中で、全ての関係者が大学生協の魅力や意義に改めて気づき、〇〇大学生協にしか出せない価値を創造してほしいという想いの下でテーマを設定しました。

引き続き、日々の利用や活動、取り組みの中で組合員との対話を忘れないようにしましょう。また、実際の店舗や購入された商品の利用状況の分析/組合員アンケート/先進的な学習方法の学び合いなどを通して、変化する〇〇大生の生活をとらえ、さらに「よりよい大学生協」を組合員とともに思い描きたいと考えます。そして学生委員、アドバイザー/サポーター、職員(パート職員を含む)みんなで対話を通して〇〇大生の生活を深化させていきます。受験生、新入生やその保護者が必要としている情報を時期ごとに考え行うイベントや提案を、〇〇大学生協 ALL で考え進めていきます。

下記3つの重点ポイントを軸に中四ブロックらしい活動を進めていきます。

## 2026 年度新学期の 重点ポイント

- ① どうして大学生協が新学期活動をおこなうのか？をみんなで話し合い、〇〇大学生協 ALL で新入生を大学生協の仲間の輪に加えましょう。
- ② 事業と活動を「ごっちゃに」をさらに深化して、組合員の「よりよい大学生活」を実現させましょう。
- ③ 大学との連携も強化し受験生や新入生とその保護者との早期のつながりづくりを〇〇大学生協 ALL で行いましょう。

---

---

## 九州ブロック

---

---

### I 2025 年度活動報告

#### 2025 年度目標

「ひらいて！つないで！ごいっしょに！育てよう！自分たちの居場所」

#### 1. 組織運営・組合員交流分野

- (1) 九州ブロック会員の学生委員数は、前年度とくらべ 100 人以上増加しました。
- (2) 九州ブロック主催の各種セミナーには、これまで連帯活動に積極的ではなかった会員から多くの参加がありました。
- (3) 九州ブロック会員の経営再建を目的に、東北ブロックの取り組みについて学ぶ場を設定しました。
- (4) 九州ブロック主催の理事長セミナーでは、国際協同組合年を契機に大学生協の価値、存在意義と九州ブロック会員の経営課題について、教職員、学生、職員の三者が意見交換する場を設定しました。
- (5) 販売系店長会議では、より身近で利用したくなる店舗づくりについて、学生と職員が意見交換する場を設定し、これを契機に学生と職員がごいっしょに取り組む商品企画を造成しました。
- (6) 経営支援制度のもと、重点会員の経営再建に寄与できるよう努めました。

#### 2. 学びと成長分野

キャリア支援事業や学修支援企画に新たに取り組む会員がありました。

#### 3. 健康安全分野

- (1) 九州ブロック全会員がたすけあい奨学制度賛助会員に加入しました。
- (2) 「健康鑑定団」を活用した予防提案活動がひろがりました。

#### 4. 社会的課題分野

九州ブロック運営委員会では、ノーベル平和賞を受賞した日本被団協をテーマに平和について考える場を設定しました。

#### 5. 新学期分野

- (1) 入学準備説明会に新たに取り組む会員がありました。
- (2) 学生の実体験にもとづいた提案がひろがりました。
- (3) 九州ブロック主催の新学期パワーアップ大会には、18 会員 95 人の参加がありました。

### II 2026 年度活動方針

1. 組合員が利用、参画し、自分たちの生活向上を実感できる大学生協づくりを進めます。
2. 組合員の生活実態を把握し、組合員の健康で安全な大学生活を支えます。
3. 組合員の学び方や大学の学修支援について把握し、組合員が仲間とともに自己実現、成長する機会をつくれます。
4. SDGs 達成に向けて、組合員の興味、関心を出発点に、知り、知らせ、考え、話し合い、行動するきっかけをつくれます。

---

---

# 各ブロック運営委員会・常任運営委員会の2025年度開催報告

---

---

## 【北海道ブロック】

### ■ブロック運営委員会

#### 第5回運営委員会

日 時 2024年10月26日（土） 10:00～13:00

会 場 Web 会議（Zoom 開催） 出席 21 名

主な議題 ・24 年度決算・25 年度予算の件  
・全国総会、パワーアップ交流会の件  
・25 年度ブロック区分役員推薦検討の件  
・ブロック大会 2025 運営計画の件  
・報告事項：各組織委員会/全国会議関連報告/共済・保険分野活動報告/  
北海道大学生協 連合経営支援金の件  
・グループ討論  
24 年度総括&25 方針作成に向けて

#### 第1回運営委員会

日 時 2024年11月30日（土） 12:40～12:50

会 場 北海道大学 北大生協北部食堂1階（札幌市北区北17条西8丁目） 出席 30 名

主な議題 ・2025 年度ブロック学生事務局任免の件  
・運営委員交代の件  
・2025 年度ブロック常任運営員互選の件  
・2025 年度全国組織委員推薦の件  
・報告事項：ブロック企画研修／主要会議日程の件

#### 第2回運営委員会

日 時 2025年2月1日（土） 10:00～13:00

会 場 Web 会議（Zoom 開催） 出席 19 名

主な議題 ・ブロック運営委員交代の件  
・2025 年度 全国共済委員選出者変更の件  
・2025 年度ブロック方針の件  
・2025 年度 年間予定・執行体制の件  
・2025 年度 北海道共済推進委員、運営計画の件  
・連帯で利用する写真使用の許可の件  
・報告事項：会員報告 各生協総代会準備状況、総代会企画検討状況について  
ブロック共済保険分野活動報告/各組織委員会報告/全国・全道関連報告/その他

#### 第3回運営委員会

日 時 2025年4月19日（土） 10:00～12:40

会 場 Web 会議（Zoom 開催） 出席 19 名

主な議題 ・ブロック運営委員交代の件  
・25 年度ブロック方針 具体化の件  
・3～7 月実施セミナー運営体制、内容承認の件

- ・生協スクール 2025 開催要項 確認の件
- ・25 年度ブロック常任運営委員の改選、事務局 人事報告の件
- ・ブロック教職員委員会 委員長交代の件
- ・報告事項：学生委員会報告/教職員委員会報告/院生委員会報告/分野別活動報告/  
社会的課題/ブロック共済・保険分野活動報告
- ・グループ討論  
25 年度新学期総括、26 年度方針 進め方について  
総代との総代会後の関わりについて

#### 第 4 回運営委員会

日 時 2025 年 7 月 5 日（土）10：00～13：00

会 場 Web 会議（Zoom 開催） 出席 22 名

- 主な議題
- ・ブロック運営員交代の件
  - ・25 年度 PeaceNow! 代表派遣の件
  - ・25 年度新学期総括（案）・26 年度新学期方針（案）決定の件
  - ・北海道ブロック上半期総括（案）の件
  - ・総代に代わる名称の件
  - ・サマーセミナー2025 予算、参加枠の件
  - ・8 月-12 月実施セミナー運営体制、内容承認の件
  - ・全道学生委員会 10 月開催の日程変更の件
  - ・報告事項：学生事務局交代の件/全国学生委員会参加報告/全国教職員委員会参加報告/  
ブロック共済保険分野活動
  - ・グループ討議  
上半期の振り返り活動交流  
北海道ブロックの年間活動について意見、要望交流

#### 第 5 回運営委員会

日 時 2025 年 10 月 25 日（土）10：00～13：00

会 場 Web 会議（Zoom 開催） 出席 20 名

- 主な議題
- ・ブロック運営委員交代の件
  - ・25 年度決算、26 予算の件
  - ・25 年度総括、26 年度方針の件
  - ・26 年度ピースナウ北海道代表派遣の件
  - ・全国総会（関連）・パワーアップ交流会の件
  - ・26 年度ブロック招集対面時費用戻し、按分額の件
  - ・26 年度ブロック区分役員推薦検討の件ブロック大会 2025 運営計画の件
  - ・総代に代わる名称の件
  - ・報告事項：ブロック活動報告/学生委員会報告/院生委員会報告/教職員委員会参加報告/  
分野別活動報告/共済。保険分野活動報告
  - ・グループ討議  
国際協同組合年（IYC） 大学生協として、私たちができることを考えよう

#### ■ブロック常任運営委員会

##### 第 4 回常任運営委員会

日 時 2025 年 10 月 11 日（金）

会 場 Web 会議（Zoom 開催） 出席 7 名

主な協議 ・ 第 6 回ブロック運営委員会運営計画 確認の件

- ・ 24 年度決算、25 年度予算計画の件
- ・ 24 年度総括、25 年度方針の件
  - ・ 全国総会、議案検討委員会、パワーアップ交流会について
  - ・ ブロック大会 2025 運営計画の件
- ・ 25 年度ブロック区分役員推薦検討、推薦者の選定確認の件
  - ・ 報告事項：各組織委員会報告（学生・院生・教職員）／ブロック共済・保険分野活動報告／全国会議報告／その他

### 第 1 回常任運営委員会

日 時 2025 年 1 月 21 日（火） 17：00～18：30

会 場 Web 会議（Zoom 開催） 出席 8 名

主な協議 ・ 全国共済委員選出変更の件

- ・ 2025 年度北海道ブロック方針の件
- ・ 2025 年度年間予定、セミナー執行体制の件
- ・ 2025 年度北海道共済推進委員会運営計画の件
- ・ 第 2 回北海道ブロック運営委員会開催計画の件
- ・ 感想交流 2025 年度北海道ブロック振り返りの件
- ・ 報告事項：各組織委員報告/ブロック共済・保険分野活動報告/全国報告/その他

### 第 2 回常任運営委員会

日 時 2025 年 4 月 1 日（火） 17：00～18：20

会 場 Web 会議（Zoom 開催） 出席 9 名

主な協議 ・ 25 年度ブロック方針 具体化の件

- ・ 3～7 月実施セミナー運営体制、内容 承認の件
- ・ 生協スクール 2025 開催要項 確認の件
- ・ 25 年度新学期総括、26 年度方針 進め方の件
- ・ 第 3 回 ブロック運営委員会 運営確認の件
- ・ 25 年度ブロック常任運営委員会の改選、ブロック事務局長人事報告
- ・ 旭川市立大学生協 支援の件
- ・ 報告事項：全国の活動/ブロックの活動/ブロック共済、保険分野活動報告/

### 第 3 回常任運営委員会

日 時 2024 年 6 月 24 日（火） 17：00～18：30

会 場 Web 会議（Zoom 開催） 出席 9 名

主な協議 ・ 25 年度 新学期総括（案）、26 年度新学期方針（案）の件

- ・ 25 年度 PeaceNow 北海道代表派遣の件
- ・ 総代に代わる名称の件
- ・ サマーセミナー2025 予算、参加枠の件
- ・ 8 月 - 12 月 実施セミナー運営体制、内容承認の件
- ・ 全道学生委員会 10 月開催の日程変更の件
- ・ 第 4 回 ブロック運営委員会、開催の件
- ・ 報告事項：全国の活動 /ブロックの活動/ブロック共済保険分野活動報告

#### 第4回常任運営委員会

日 時 2025 年 10 月 11 日（金）18：00～19：30

会 場 Web 会議（Zoom 開催） 出席 7 名

主な協議 ・10/25 第5回ブロック運営委員会運営計画の件

・26 年度予算計画の件

・25 年度総括、26 年度方針の件

・26 年度 PeacNow 代表派遣について

・全国総会・議案検討委員会・パワーアップ交流会について

・ブロック大会 および セミナー運営計画の件

・26 年度ブロック区分役員推薦検討・推薦者選出の件

・次期ブロック運営について

・報告事項：

## 【東北ブロック】

### ■ ブロック運営委員会

第4回 2024 年 10 月 12 日（土）15:30～17：00 仙台会館、Zoom 開催 出席 26 名/38 名  
Summer Up Seminar 2024 総括について / 2025 年度新学期分野推進計画について /  
2025 年度東北ブロック事務局選出の件 / 階層別委員会・推進課題・全国会議報告

第5回 2024 年 12 月 7 日（土）10:00～13：00 仙台会館、Zoom 開催 出席 20 名/38 名  
2024 年度東北ブロック全体方針及び分野推進計画の年間総括について / 総代に関する取  
組について / 2025 年度東北ブロック運営スケジュールについて / 階層別委員会・推進  
課題・全国会議報告

第1回 2025 年 2 月 8 日（土）10:00～13：15 仙台会館、zoom 開催 WEB 出席 32 名/37 名  
2025 年度東北ブロック方針および推進分野計画について / 新入学生委員獲得の件につい  
て / 各大学生協で検討している獲得目標や方針の共有 / 階層別委員会・推進課題・全  
国会議報告

第2回 2025 年 4 月 26 日（土）13:00～17:00 対面開催 出席 27 名/37 名  
2025 年度以降の会員支援・指導体制 / ブロック事務局退任の件について / Summer  
Up Seminar 2025 の方向性について / 階層別委員会・推進課題・全国会議報告

第3回 2025 年 8 月 2 日（土）9:30～12:00 仙台会館、zoom 開催 WEB 出席 25 名/36 名  
2025 年度東北ブロック上半期総括について / 東北ブロック中期ビジョン 2028 の策定につ  
いて / Summer Up Seminar 2025 について / 階層別委員会・推進課題・全国会議報告

### ■ ブロック常任運営委員会

第5回 2024 年 11 月 15 日（金）18:00～19:30 仙台会館、zoom 開催 出席 9 名  
・第5回ブロック運営委員会議題について

第1回 2025 年 1 月 17 日（金）18:00～20:00 仙台会館、zoom 開催 出席 10 名  
・第1回ブロック運営委員会議題について

第2回 2025 年 4 月 4 日（金）18:00～20:10 仙台会館、zoom 開催 出席 10 名  
・第2回ブロック運営委員会議題について

第3回 2025年7月23日(水) 18:00~20:00 ・第3回ブロック運営委員会議題について	仙台会館、zoom 開催	出席 11 名
第4回 2025年9月25日(木) 18:00~20:00 ・第4回ブロック運営委員会議題について	仙台会館、zoom 開催	出席 9 名

## 【東京ブロック】

### ■ ブロック運営委員会

<2024年度 第4回運営委員会> 杉並会館 Web 開催

開催日時：10月26日(土) 13:00~16:29

議題：<協議事項>

2025年新学期に向けて

組合員とともに大学をつくるために

<議決事項>

2025年東京ブロック予算

25年度学生事務局・ブロック運営委員就任の件

24年度共済推進委員総括・25年度共済推進委員選出の件

インターカレッジコープとの業務委託契約更新

<2025年度 第1回運営委員会> 杉並会館 Web 開催

開催日時：1月25日(土) 13:00~16:33

議題：<協議事項>

新学期準備状況

2025年度東京ブロック運営委員会の計画

<議決事項>

24年度ブロック運営委員の承認の件

ブロック推進計画承認の件

東京ブロック学生委員会開催計画承認の件

共済推進委員会開催計画承認の件

生協スクール 2025 回債の件

<2025年度 第2回運営委員会> 杉並会館 Web 開催

開催日時：4月26日(土) 13:00~16:54

議題：<協議事項>

新学期準備状況

総(代)会準備状況

<議決事項>

5月以降のセミナーについて

25年度ブロック連帯企画の開催形態について

<2025年度 第3回 運営委員会> 一橋大学 Web 開催

開催日時：7月5日(土) 10:30~11:56

議題：<協議事項>

学生の時間(夏合宿・集中部会)

上半期の振り返り

サマースクールについて

議案検討会議について

<議決事項>

7月以降のセミナー・連帯企画開催について

## ■ ブロック経営（常任）運営委員会

### <10月常任運営委員会> 杉並会館 Web 開催

開催日時：10月28日（月）

議題：エリア報告、事務局報告、トップマネジメントミニ講座  
東京ブロック2024年度決算ならびに2025年度予算  
2025年度 東京ブロック特別会費  
2024年度総括・見込み、2025年度計画・予算編成の進め方  
2025年度ブロック区分役員推薦者の件

### <11月常任運営委員会> 杉並会館 Web 開催

開催日時：11月25日（月）

議題：エリア報告、事務局報告、トップマネジメントミニ講座

### <12月常任運営委員会> 杉並会館 Web 併用

開催日時：12月20日（金）

議題：エリア報告、事務局報告、トップマネジメントミニ講座

### <1月常任運営委員会> 杉並会館 Web 併用

開催日時：1月28日（火）

議題：エリア報告、事務局報告、トップマネジメントミニ講座  
施設課題、会員24年度見込・25年度予算報告

### <2月常任運営委員会> 杉並会館 Web 併用

開催日時：2月27日（木）

議題：エリア報告、事務局報告、2025年度教育研修互助規定について  
トップマネジメントミニ講座、小規模支援のパッケージ化について  
幹部人事決定の件

### <4月常任運営委員会> 杉並会館 Web 併用

開催日時：4月25日（金）

議題：エリア報告、事務局報告  
トップマネジメントミニ講座、小規模支援のパッケージ化について

### <5月常任運営委員会> 杉並会館 Web 併用

開催日時：5月23日（金）

議題：エリア報告、事務局報告  
トップマネジメントミニ講座、新学期入学準備説明会視察解説

### <6月常任運営委員会> 杉並会館 Web 併用

開催日時：6月27日（金）

議題：エリア報告、事務局報告、トップマネジメントミニ講座  
新学期関連提案「提案づくりを変えよう」

### <7月常任運営委員会> 杉並会館 Web 併用

開催日時：7月28日（金）

議題：エリア報告、事務局報告、トップマネジメントミニ講座  
新学期教訓事例報告「福井大学生協報告」  
新学期関連提案「説明会を変えよう」

<9月常任運営委員会> 杉並会館 Web 併用

開催日時：9月26日（金）

議題：エリア報告、事務局報告

25 総括・見込、26 計画・予算編成の進め方 提案

新学期関連提案「提案を変えよう」

## 【東海ブロック】

### ■ ブロック運営委員会

第4回ブロック運営委員会（全国総会議案検討会を含む）

日時 24年10月19日（土） 10：00－12：00

場所 東海会館地下会議室

成立 40名中36名の出席で成立

議題 東海ブロックフェスティバル2024開催について/ユニセフ推進委員会名称及び活動目的の変更/ブロック定例報告/けんあんセミ進捗報告/24 オキタビ報告と今後に向けての協議/25 オキタビ開催について/社会を覗く時間

第1回ブロック運営委員会

日時 25年2月22日（土） 10：00－12：30

場所 大学生協東海会館地下会議室

成立 40名中34名の出席で成立

議題 25年度組織委員（教職員、留学生、院生委員会）について/地域共済推進委員承認/年間スケジュール/TBF総括/オキタビ実行委員進捗報告/みぎはる開催承認/樹恩箸学習会/ブロック方針、分野推進計画/総代会準備提起/インターカレッジユース愛知への業務委託契約の件

第2回ブロック運営委員会

日時 25年5月10日（土） 10：00－13：00

場所 大学生協東海会館地下会議室

成立 40名中32名の出席で成立

議題 ブロック運営委員会とは/みぎはる進捗報告/新学期セミナー進捗報告/専務委員長会議開催承認/みぎなつ開催承認/地域共済推進委員会#1開催報告/社会的課題委員会#2開催報告/2025年度井1GP本選/2025年度東海版保護者セミナー/ろうきん学習会

第3回ブロック運営委員会

日時 25年7月5日（土） 14：00－16：30

場所 ロワジュールホテル豊橋

成立 40名中37名の出席で成立

議題 ブロック運営委員会とは//東海交流会/けんこうあんぜんセミナー/Peace Now!東海/上半期総括/みぎはる総括/地域共済推進委員会#2開催報告/社会的課題委員会#3開催報告/東海版保護者セミナーの進捗について/オキタビ参加者促進の報告及び代表者派遣選考について/みぎなつ進捗報告

### ■ ブロック常任運営委員会

第5回ブロック常任運営委員会

日時 24年11月15日（金） 17：00－19：00

場所：東海会館 地下第1会議室、Zoom 併用

成立 9名中8名の出席で成立

議題 25 事務局自己紹介/大学祭での取り組みについて/けんあんセミ実施報告/TBF 進捗報告/保護者セミナーについて/24 年度総括・25 年度方針 1 次案について/卒業生アンケート活動の取り組みを広めよう/2024 年度東海地区新学期事例集作成の件

第 1 回ブロック常任運営委員会

日時 25 年 1 月 14 日(火) 17:00-19:00

場所: 東海会館 地下第 1 会議室、Zoom 併用

成立 9 名中 8 名の出席で成立

議題 オキタビについて/春セミの開催承認と内容について/2025 年度年間スケジュールについて/地域共済推進委員会について/TBF 実施報告/25 年度組織委員について/25 年度ブロック方針について

第 2 回ブロック常任運営委員会

日時 25 年 3 月 13 日(木) 17:00-19:00

場所: 東海会館 地下第 1 会議室、Zoom

成立 9 名中 9 名の出席で成立

議題 新学期セミナー開催承認/専務委員長合宿開催承認/みぎはる進捗報告/オキナワの旅 2025, 進捗報告/ブ運委、ブ学委フィードバック/東海ブロック SNS リレー投稿企画について/東海地区教職員委員会の呼びかけについて

第 3 回ブロック常任運営委員会

日時 25 年 6 月 13 日(金) 17:00-19:00

場所: 東海会館 地下第 1 会議室

成立 8 名中 7 名の出席で成立

議題 ブロック学生委員会開催報告/みぎはる開催速報/専務理事・学生委員長会議進捗報告/みぎなつ進捗報告/東海交流会について/PN! 東海開催承認/けんこうあんぜんセミ内容協議/オキタビ代表者派遣の選定

第 4 回ブロック常任運営委員会

日時 25 年 9 月 12 日(金) 17:00-19:00

場所: 東海会館 地下第 1 会議室

成立 8 名中の 7 名の出席で成立

議題 新学期について/26 年度ブロック予算について/ブロック方針スケジュール/専務理事・学生委員長合宿総括/みぎなつ進捗報告/けんあんセミ進捗報告/PN! 東海進捗報告/TBF 進捗報告/オキタビ開催速報

## 【関西北陸ブロック】

### 1. 10 月 5 日土曜日 10:04~11:25 場所: ZOOM

#### (1) 【ブロック常任運営委員会】

- ① 全国役員ブロック区分推薦決定の件

#### (2) 【ブロック運営委員会】

- ① 備品購入について
- ② 能登半島地震(豪雨災害) ブロック視察実施について
- ③ ブロック運営委員交代について
- ④ ブロック関係会議について
- ⑤ 共済推進活動報告
- ⑥ たすけあい奨学制度について
- ⑦ 関西北陸ブロック 2024 年秋 教職員委員会「フィールドワーク企画」について
- ⑧ 25 年度学生事務局確定報告

- ⑨ 24 年度年間総括アンケートについて
- ⑩ 第 5 回社会的課題推進委員会
- ⑪ 大山訪問研修開催報告
- ⑫ ブロック大会 2024 開催要項について
- ⑬ 全会員面談について
- ⑭ 各種報告

## **2. 11 月 16 日土曜日 10：00～11：30 場所：ZOOM**

### **(1) 【ブロック運営委員会】**

- ① 25 年度ブロック各種委員について
- ② 2025 年度新学期に向けた共済推進の状況報告
- ③ コープ共済連からの給付実績データ提供間違いへのブロック対応について
- ④ 2025 年度ブロック予算確定について
- ⑤ 新経営支援制度 先行支援実施について
- ⑥ ブロック交通費補助について
- ⑦ 卒業生アンケート実施について
- ⑧ 関西北陸版 保護者のための大学進学ガイド 実施報告
- ⑨ 能登半島地震・豪雨災害 ブロック視察報告
- ⑩ 各種報告

## **3. 11 月 30 日土曜日 10：00～11:16 場所：ZOOM**

### **(1) 【ブロック運営委員会】**

- ① 25 年度ブロック各種委員について
- ② ブロック交通費補助改定について
- ③ ブロック院生委員会報告
- ④ 共済未加入者 DM 発送代行について
- ⑤ みんなの共済 2025 開催報告
- ⑥ 第 5 回ブロック共済推進委員会開催報告
- ⑦ 24 年度共済推進委員会総括
- ⑧ 社会的課題推進委員会報告
- ⑨ 10 月ブロック学生委員会・議案検討会議開催報告
- ⑩ 総会・総代会学習会について
- ⑪ 24 年度関西北陸ブロック年間総括について
- ⑫ 25 年度関西北陸ブロック方針について
- ⑬ 各種報告

## **4. 1 月 25 日土曜日 10：00～11：40 場所：ZOOM**

### **(1) 【ブロック運営委員会】**

- ① 2025 年度新学期に向けた共済推進の状況報告
- ② 2025 年ブロック運営委員会日程について
- ③ ブロック学生事務局体制変更について
- ④ ブロック学生事務局の報酬変更について
- ⑤ 第 8 回・第 9 回 24 年度社会的課題推進委員会 開催報告
- ⑥ 25 年度全国社会的課題推進委員について
- ⑦ 25 年度共済推進委員会体制について
- ⑧ 25 年度年間スケジュール（学生事務局関係）
- ⑨ 25 年度ブロック方針・25 年度ブロック学生事務局行動指針
- ⑩ 25 年度社会的課題推進委員会設置について
- ⑪ 各種報告

**5. 2月22日土曜日 10:00～11:28 場所: ZOOM**

**(1) 【ブロック運営委員会】**

- ① 2025年度新学期に向けた共済推進の状況報告
- ② 2025年度新学期現場見学ツアー追加実施について
- ③ ブロック院生委員会報告
- ④ 2025年度新学期推進委員会について
- ⑤ 新学期スタートダッシュセミナー2026開催要項について
- ⑥ 25年度社会的課題推進委員会設置について
- ⑦ 春のセミナー2025開催要項について
- ⑧ 各種報告

**6. 4月19日土曜日 11:00～12:34 場所: 新大阪丸ビル別館 2-3・ZOOM**

**(1) 【ブロック運営委員会】**

- ① 京都学生祭典 協賛依頼について
- ② 共済推進の状況報告 (2025年度新学期状況含む)
- ③ 25年度新学期教材関係報告
- ④ 大学から見た生協の新学期活動について (ブロック教職員会 委員長からの報告)
- ⑤ 全国院生委員会報告
- ⑥ 理事会学習会の学びの流れについて
- ⑦ 北陸エリア夜会開催要項
- ⑧ 新学期スタートダッシュセミナー2026開催要項 (2次案)
- ⑨ みんなの共済 2025 実行委員会設置について
- ⑩ 春のセミナーについて
- ⑪ 各種報告

**7. 5月10日土曜日 10:00～11:25 場所: ZOOM**

**(1) 【ブロック運営委員会】**

- ① 関西北陸ブロック 25年度新学期総括と 26年度新学期に向けて
- ② 共済推進の状況報告
- ③ 保護者のための大学進学ガイド関西北陸版の実施について
- ④ 新学期スタートダッシュセミナー2026開催案内 (最終)
- ⑤ 26学生事務局選出
- ⑥ 各種報告

**8. 6月7日土曜日 10:00～12:03 場所: ZOOM**

**(1) 【ブロック運営委員会】**

- ① 関西北陸地区 事業概況および事業連合理事会・地区協議会報告
- ② 関西北陸地区 (ブロック) 新学期 25年度総括と 26年度方針
- ③ 共済推進の状況報告
- ④ 2026年度共済ロードマップ・工程表について
- ⑤ ブロック運営委員会日程変更について
- ⑥ ブロック事務局の体制変更について
- ⑦ 理事会学習会開催要項について
- ⑧ 26学生事務局選出について
- ⑨ 新学期スタートダッシュセミナー2026について
- ⑩ 2026年度新学期テーマについて
- ⑪ 各種報告

**9. 6月28日土曜日 10:00～11:33 場所: ZOOM**

**(1) 【ブロック運営委員会】**

- ① 関西北陸地区 事業概況および事業連合理事会・地区協議会報告
- ② 生協・共済加入 25 年度総括と 26 年度方針（案）について
- ③ 26 年度生協・共済加入ガイドひな形について
- ④ ブロック交通費補助基準一覧表（補助額）の改定について
- ⑤ 春のセミナー2025 について
- ⑥ 新学期スタートダッシュセミナー企画書について
- ⑦ 理事会学習会企画書について
- ⑧ 新学期 MVV と新学期テーマについて
- ⑨ 大山訪問研修 2025 開催要項について
- ⑩ みんなの共済 2025 開催要項について
- ⑪ 各種報告

**10. 8月2日土曜日 10:00～11:58 場所: ZOOM**

**(1) 【ブロック運営委員会】**

- ① 関西北陸地区 事業概況および事業連合理事会・地区協議会報告
- ② 2025 年度ブロック決算見通しと 26 年度予算指針について
- ③ 共済推進活動報告
- ④ 大学生協理事長セミナーについて
- ⑤ ブロック教職員セミナーについて
- ⑥ 議案検討会議について
- ⑦ ブロック大会内局より
- ⑧ 26 年度学生事務局選出状況
- ⑨ 新学期スタートダッシュセミナー2026 開催報告
- ⑩ 大兵和交流会について
- ⑪ 2025 年度上半期総括について
- ⑫ 理事会学習会 開催報告
- ⑬ 各種報告

**11. 9月13日土曜日 10:00～12:09 場所: ZOOM**

**(1) 【ブロック運営委員会】**

- ① 関西北陸地区 事業概況および事業連合理事会・地区協議会報告
- ② 学生事務局用パソコンの購入について
- ③ 関西北陸ブロック 25 年度決算見通し・26 年度予算案について
- ④ ブロック常任運営委員・ブロック運営委員・各種委員の交代について
- ⑤ 連合会 新経営支援制度 関西北陸地区支援対象生協について
- ⑥ 2026 年度新学期に向けた共済推進活動報告
- ⑦ 理事長専務理事会議（会員代表者会議）・ブロック教職員セミナー開催について
- ⑧ 教職員委員会 フィールドワーク企画 開催について
- ⑨ 議案検討会議について
- ⑩ 北陸エリア交流会について
- ⑪ 新学期進捗交流会について
- ⑫ ブロック大会開催要項
- ⑬ 大兵和交流会について
- ⑭ みんなの共済 2025 再募集について
- ⑮ 全会員面談について

- ⑯ 26 学生事務局選出状況
- ⑰ 第3回ブロック学生委員会 開催報告
- ⑱ 上半期総括について
- ⑲ 大山訪問研修 2025 について
- ⑳ 各種報告

## 【中国・四国ブロック】

### ■ ブロック運営委員会

#### 第4回運営委員会

- |      |   |
|------|---|
| 日 時  | 2024 年 10 月 19 日（土）13:00～16:45  |
| 会 場  | Web 会議（Zoom 会議）   |
| 主な議題 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2025 年度ブロック区分役員候補者の選出について</li> <li>・ 2025 年度ブロック常任運営委員の選出について</li> <li>・ 2025 年度ブロック地域共済委員会正副委員長の選出について</li> <li>・ 2025 年度学生事務局の委嘱について</li> <li>・ 2024 年度決算と 2025 年度予算について</li> <li>・ 大学生協連合会全国総会議案検討会議開催</li> </ul> |

#### 第5回運営委員会

- |      |  |
|------|--|
| 日 時  | 2024 年 12 月 7 日（土）13:00～17:04  |
| 会 場  | Web 会議（Zoom 会議）  |
| 主な議題 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2025 年度役員・地域共済委員他 事務局長一任事項について</li> <li>・ 2025 年度中四ブロック全国留学生委員の委嘱について</li> <li>・ 2025 年度中四ブロック大学生協奨学制度推進委員の委嘱について</li> <li>・ 2025 年度中四ブロック学生事務局の役割分担について</li> <li>・ 2024 年度ブロック総括と 2025 年度新学期上半期総括について（協議・検討）</li> <li>・ 2024 年度ブロック大会</li> </ul> |

#### 第1回運営委員会

- |      |   |
|------|---|
| 日 時  | 2025 年 2 月 1 日（土）13:00～15:55  |
| 会 場  | ハイブリッド会議（Zoom 会議+岡山第一セントラルビル 3 号館 4 階ローズマリー）  |
| 主な議題 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2025 年度ブロック運営委員会等の開催スケジュールについて</li> <li>・ 2024 年度ブロック総括と 2025 年度新学期上半期総括について</li> <li>・ 2025 年度ブロック活動方針について</li> <li>・ 2024 年度ブロック学生事務局の卒業セレモニー</li> </ul> |

#### 第2回運営委員会

- |      |   |
|------|---|
| 日 時  | 2025 年 4 月 19 日（土）13:00～16:32   |
| 会 場  | Web 会議（Zoom 会議）   |
| 主な議題 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2025 年度ブロック運営委員会等の開催スケジュールの件について（追加）</li> <li>・ 社会を覗く時間について（協議・検討）</li> <li>・ 総代会について（運営参加について協議・検討）</li> <li>・ 国際協同組合年について（今後の活動計画について協議・検討）</li> <li>・ 学生生活実態調査の結果から活動することについて（協議・検討）</li> </ul> |

#### 第3回運営委員会

- |     |                               |
|-----|-------------------------------|
| 日 時 | 2025 年 6 月 28 日（土）13:00～17:02 |
|-----|-------------------------------|

会 場	Web 会議 (Zoom 会議)
主な議題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中国・四国ブロック運営委員の選出について</li> <li>・ 2025 年度中四ブロック上半期総括について</li> <li>・ 2025 年新学期総括、2026 年度方針について</li> <li>・ 社会を覗く時間</li> <li>・ によっさり！まなせーの時間 (学生生活実態調査の分析について協議・検討)</li> <li>・ 共済の意義を自分ごとに～学生×職員で創るこれからの活動 (協議・検討)</li> </ul>

#### ■ ブロック常任運営委員会

##### 第 5 回常任運営委員会

日時 2024 年 10 月 11 日 (金)

会場 Web (Zoom) 開催

議案 第 4 回ブロック運営委員会の議題内容確認、役員推薦委員会の開催

##### 第 6 回常任運営委員会

日時 2024 年 11 月 29 日 (金)

会場 Web (Zoom) 開催

議案 第 5 回ブロック運営委員会の議題内容確認

##### 第 1 回常任運営委員会

日時 2025 年 1 月 24 日 (金)

会場 Web (Zoom) 開催

議案 第 1 回ブロック運営委員会の議題内容確認

##### 第 2 回常任運営委員会

日時 2025 年 4 月 11 日 (金)

会場 Web (Zoom) 開催

議案 第 2 回ブロック運営委員会の議題内容確認

##### 第 3 回常任運営委員会

日時 2025 年 6 月 20 日 (金)

会場 Web (Zoom) 開催

議案 第 3 回ブロック運営委員会の議題内容確認

##### 第 4 回常任運営委員会

日時 2025 年 8 月 20 日 (水)

会場 Web (Zoom) 開催

議案 2025 年度決算見通しと 2026 年度予算案の件、8 月ブロック専務理事会議の議案検討  
(共済学習会、内部統制推進について、教職員交流会&研修会についてなど)

#### ■ 理事長会議(理事長懇談会)

日時 2025 年 5 月 24 日 (土) 13:00～14:20

会場 岡山県岡山市第一セントラルビル 2 号館 6 階プルメリア 対面開催

参加 会員理事長 3 名、会員専務理事 5 名、  
中四国事業連合専務理事、常務理事、ブロック職員 3 名、合計 13 名

日時 2025 年 7 月 22 日 (火) 17:30～18:30

会場 Web (Zoom) 開催

参加 会員理事長 4 名、会員専務理事 3 名、  
中四国事業連合専務理事、常務理事、ブロック職員 4 名、合計 13 名

日時 2025 年 7 月 24 日（木）12:00～13:00

会場 Web（Zoom）開催

参加 会員理事長 4 名、会員専務理事 6 名、  
中四国事業連合専務理事、常務理事、ブロック職員 4 名、合計 14 名

議案 ・協議：①会員の 25 年度活動・事業報告について状況報告と意見交換  
②中四事業連合の中期計画について補足説明と意見交換

③教職員交流会&研修会の内容について説明と意見交換

## ■ 専務理事会議

日時 2025 年 8 月 28 日（木）13:00～15:30

会場 大阪府大阪市の中四事業連合大会議室+ZOOM 会議 ハイブリッド開催

参加 会員専務理事 12 名・中四事業連合専務理事、常務理事、ブロック職員 4 名、合計 18 名

議案 ・協議：①共済学習会（コープ共済連佐藤本部長を迎えて共済活動の基礎学習会）  
②内部統制推進について（状況報告と意見交換）  
③今からでも間に合う卒業生向け企画実施にむけて（高知大生協事例学習会）

## 【九州ブロック】

### ■ ブロック運営委員会

#### 1. 2024 年度第 3 回九州ブロック運営委員会

- (1) 日時 2024 年 10 月 19 日（土）10:30～12:10
- (2) 場所 大学生協事業連合九州地区会議室および WEB
- (3) 出席 46 人中 27 人
- (4) 議案

- 1) 学生組織再建の件
- 2) 2024 年度決算および 2025 年度予算の件
- 3) 2025 年度九州ブロック区分役員候補推薦者などの件
- 4) 2025 年度九州ブロック学生事務局候補者の件
- 5) 2025 年度年間日程の件

#### 2. 2024 年度第 4 回九州ブロック運営委員会

- (1) 日時 2024 年 11 月 30 日（土）10:30～12:30
- (2) 場所 パピヨン 24 ビル会議室および WEB
- (3) 出席 46 人中 28 人
- (4) 議案

- 1) 2024 年度活動総括の件
- 2) 2025 年度九州ブロック学生事務局の担当会員および担当推進課題の件
- 3) 2025 年度九州ブロック執行体制の件
- 4) 2025 年度全国大学生協連理事会委員会委員などの件

#### 3. 2025 年度第 1 回九州ブロック運営委員会

- (1) 日時 2025 年 1 月 25 日（土）13:00～16:00
- (2) 場所 大学生協事業連合九州地区会議室および WEB
- (3) 出席 46 人中 27 人
- (4) 議案

- 1) 2025 年度活動方針の件
- 2) 「社会的課題を考える」の件

- 3) 2025 年度全国大学生協連理事会委員会委員などの件
4. 2025 年度第 2 回九州ブロック運営委員会
- (1) 日時 2024 年 7 月 26 日(土) 11:00～13:00
- (2) 場所 パピヨン 24 ビル会議室および WEB
- (3) 出席 46 人中 33 人
- (4) 議案
- 1) 2025 年度上期活動総括の件
- 2) 新学生委員の件
- 3) 院生生活実態調査結果の活用の件

■ ブロック常任運営委員会

1. 2024 年度第 8 回九州ブロック常任運営委員会
- (1) 日時 2024 年 10 月 10 日(木) 11:00～17:50
- (2) 場所 大学生協事業連合九州地区会議室および WEB
- (3) 出席 10 人中 8 人
- (4) 議案 経営, 内部統制, 組織活動などの件
2. 2024 年度第 9 回九州ブロック常任運営委員会
- (1) 日時 2024 年 11 月 12 日(火) 14:00～16:30
- (2) 場所 大学生協事業連合九州地区会議室および WEB
- (3) 出席 10 人中 8 人
- (4) 議案 経営, 内部統制, 組織活動などの件
3. 2024 年度第 10 回九州ブロック常任運営委員会
- (1) 日時 2024 年 12 月 11 日(水) 13:30～16:40
- (2) 場所 大学生協事業連合九州地区会議室および WEB
- (3) 出席 10 人中 8 人
- (4) 議案 経営, 内部統制, 組織活動などの件
4. 2025 年度第 1 回九州ブロック常任運営委員会
- (1) 日時 2025 年 1 月 20 日(月) 14:00～18:00
- (2) 場所 大学生協事業連合九州地区会議室および WEB
- (3) 出席 10 人中 8 人
- (4) 議案 経営, 内部統制, 組織活動などの件
5. 2025 年度第 2 回九州ブロック常任運営委員会
- (1) 日時 2025 年 2 月 10 日(月) 14:00～17:50
- (2) 場所 大学生協事業連合九州地区会議室および WEB
- (3) 出席 10 人中 8 人
- (4) 議案 経営, 内部統制, 組織活動などの件
6. 2025 年度第 3 回九州ブロック常任運営委員会
- (1) 日時 2025 年 3 月 14 日(金) 14:00～17:30
- (2) 場所 大学生協事業連合九州地区会議室および WEB
- (3) 出席 10 人中 9 人
- (4) 議案 経営, 内部統制, 組織活動などの件
7. 2025 年度第 4 回九州ブロック常任運営委員会
- (1) 日時 2025 年 4 月 11 日(金) 14:00～17:30
- (2) 場所 大学生協事業連合九州地区会議室および WEB
- (3) 出席 10 人中 9 人

- (4) 議案 経営, 内部統制, 組織活動などの件
- 8. 2025 年度第 5 回九州ブロック常任運営委員会
  - (1) 日時 2025 年 5 月 9 日(金) 13:30~18:30
  - (2) 場所 大学生協事業連合九州地区会議室および WEB
  - (3) 出席 10 人中 9 人
  - (4) 議案 経営, 内部統制, 組織活動などの件
- 9. 2025 年度第 6 回九州ブロック常任運営委員会
  - (1) 日時 2025 年 6 月 12 日(木) 14:00~17:30
  - (2) 場所 大学生協事業連合九州地区会議室および WEB
  - (3) 出席 10 人中 9 人
  - (4) 議案 経営, 内部統制, 組織活動などの件
- 10. 2025 年度第 7 回九州ブロック常任運営委員会
  - (1) 日時 2025 年 7 月 11 日(金) 14:00~17:20
  - (2) 場所 大学生協事業連合九州地区会議室および WEB
  - (3) 出席 10 人中 8 人
  - (4) 議案 経営, 内部統制, 組織活動などの件
- 11. 2025 年度第 8 回九州ブロック常任運営委員会
  - (1) 日時 2025 年 9 月 12 日(金) 14:00~18:00
  - (2) 場所 大学生協事業連合九州地区会議室および WEB
  - (3) 出席 10 人中 8 人
  - (4) 議案 経営, 内部統制, 組織活動などの件

#### 4. 大学生協設立支援金の運用状況報告

## 2025 年度 大学生協設立支援金の運用状況報告

「大学生協設立支援積立金活用規則」により 2025 年度の運用状況を次のとおり報告する。  
2024 年 10 月 1 日から 2025 年 9 月 30 日までの間の理事会に報告した大学生協設立支援金の運用状況は以下の通り。

1. 2024 年 11 月 23 日 第 6 回理事会

(1) 福島学院大学

申請期間：2024 年 10 月

支援額：7,120 円

主な支援項目：支援者の訪問交通費

2. 2024 年 12 月 13 日 第 7 回理事会

申請期間：2024 年 11 月

支援額：0 円（申請なし）

3. 2025 年 2 月 15 日 第 2 回理事会

申請期間：2024 年 12 月～2025 年 1 月

支援額：0 円（申請なし）

4. 2025 年 5 月 17 日 第 3 回理事会

(1) 豊橋創造大学生生活協同組合

申請期間：2025 年 2 月～4 月

支援額：2,250,000 円

主な支援項目：豊橋創造大学生生活協同組合と愛知大学生生活協同組合間の「運営業務委託契約書」締結に基づく支援会員生協が設立後の業務支援に要する人件費相当額（規則第 4 条第 3 項）

5. 2025 年 7 月 19 日 第 4 回理事会

申請期間：2025 年 5 月～6 月

支援額：0 円（申請なし）

6. 2025 年 9 月 20 日 第 5 回理事会

申請期間：2025 年 7 月～8 月

支援額：0 円（申請なし）

以上

## 5. 2026 年度 会費一覽

## 大学生協連2026年度会費について

●定款第8条および会員規約の定めにより、2026年度の会費を別紙の通りとします。

213 会員 / 696,266,000 円となります。（前年差 9,195 千円）  
[定款]（会費）

第8条 会員は、この会の事業に必要な経費にあてるため、別に定める会員規約による会費を負担しなければならない。

### ○会費の算定方法（会員規約より）

(1) 会費の積算方法は、次の通常会費Ⅰ+通常会費Ⅱの合計です。

通常会費Ⅰ・・・ 会員の組合員数および供給高に規約に定める係数を各々乗じた合計

通常会費Ⅱ・・・ 会員の組合員数に規約に定める係数を乗じた合計 と

会員の供給高に規模に応じて規約の定める係数を乗じた額の合計

新規加入会員には、加入年度およびその翌年度には、会費の軽減措置があります。

(2) 2026 年度の算定基礎数値

会員の組合員数…… 「会員基本調査」により2024年9月末日現在で報告のあった数

会員の供給高…… 2023年12月31日を含む事業年度末の決算書類より(RGデータ)

(3) 特記事項

- ・ 東京工業大学生協は、大学合併に伴い2024年10月1日付けで名称を変更。東京科学大学つばめ生活協同組合となりました。
- ・ 東京医科歯科大学学生協は、大学合併に伴い、2024年10月1日付けで名称を変更。東京科学大学御茶ノ水生活協同組合となりました。
- ・ 2025年4月大学の名称変更に伴い、昭和大学生協は昭和医科大学生協、清泉女学院大学生協は清泉大学生協、園田学園女子大学は園田学園大学生協になりました。

### ○会費の納付時期

納付月	会費種別	該当月	金額
2026年 1月末	通常会費Ⅰ	2025年10月～2026年2月分	5.0ヶ月分
2026年 3月末	通常会費Ⅰ	2026年3月～2026年6月分	4.5ヶ月分
2026年 6月末	通常会費Ⅱ	2026年度	年間一括
2026年 7月末	通常会費Ⅰ	2026年7月～2026年9月分	3.0ヶ月分

## ○会員規約(1992年施行/2016年一部改正) 抜粋

### (通常会費Ⅰの算定基準)

第7条 通常会費Ⅰは、第8条に定める基礎数値をもとに、別表Ⅰによって算定した額の合計を年額、年額を12.5で割った額を月額と呼び、会員は3月分として月額に1.5を掛けた額を、それ以外の各月の分として月額を支払うものとする。

2 通常会費Ⅰの月額に50円以上の端数がある場合500円に切りあげる。

3 通常会費Ⅰの月額の最低額は500円とする。

4 新規加入会員の当該年度の通常会費Ⅰは月額500円とし、翌年度の会費のうち別表Ⅰ第1号については当年計画供給高の2分の1を基準として算出する。

5 定款第6条第2号及び第3号の会員の通常会費Ⅰの月額は次に定める額とする。

(1) 事業連合500円

(2) 前号以外の会員 理事会で定めた額

(第7条の通常会費Ⅰに関する別表Ⅰ)

次の(1)と(2)との合計に、12分の12.5を掛けた額

(1) 会員の組合員数に5円を掛けた額

(2) 会員の供給高に、1000分の1.50を掛けた額

### (通常会費Ⅱの算定基準)

第7条の2 通常会費Ⅱは、次条に定める基礎数値をもとに、別表Ⅱによって算定した額の合計とする。

2 前条第2項、第3項及び第4項の定めは、通常会費Ⅱにおいて準用する。

3 定款第6条第2号及び第3号の会員には、通常会費Ⅱを課さないものとする。

(第7条の2の通常会費Ⅱに関する別表Ⅱ)

(1) 会員の組合員数に85円を掛けた額

(2) 会員の供給高に、その供給高の区分に応じた次の数を掛けた額

ア 2億円未満の会員 1000分の0.65

イ 2億円以上10億円未満の会員 1000分の0.85

ウ 10億円以上20億円未満の会員 1000分の0.90

エ 20億円以上40億円未満の会員 1000分の0.85

オ 40億円以上の会員 1000分の0.70

### (会費算定基礎数値の報告)

第8条 会員は、会費算定に必要な資料として、毎月10月31日までに当該年9月30日現在の組合員数及び前年12月31日を含む事業年度末日現在の事業報告書及び決算関係書類並びにこれらの附属明細書を、会長理事に提出しなければならない。ただし、会長理事が認めたときは、会員基本調査票及び経営概況調査票を援用することができる。

2 事業年度変更時の会費算定の供給高は、その年度の基点から12ヶ月分の供給高とする。

### (通常会費Ⅰ及び通常会費Ⅱの決定及び通知)

第9条 会長理事は、毎年11月(これと異なる月に算定すべき事情が生じたときはその月)に、通常会費Ⅰ及び通常会費Ⅱの額を算定し、通常総会の議案書に掲載して会員に通知する。

### (通常会費Ⅰ及び通常会費Ⅱの納付方法)

第10条 会員は通常会費Ⅰを年3回に分けて納付するものとし、その支払期限等は次のとおりとする。

(通常会費Ⅰの3分割と納付月についての説明・・・略)

2 会員は通常会費Ⅱを年1回納付するものとし、6月上旬に会より請求し、支払期限は6月末日とする。

全国大学生生活協同組合連合会 2026年度 会費一覧

		年額は月額の12.5ヶ月分				分割納付の明細					合計年額				
連合会 C D	2年 目 *	会 員 名	基礎データ			通常会費Ⅰ	通常会費Ⅱ	10-2月分	3-6月分	通常会費Ⅱ		7-9月分	2026年度	前年度会費	差額
			25組合員数	24純供給高	(加入2年目)	2026年度	2026年度	会費Ⅰ×5.0ヶ月	会費Ⅰ×4.5ヶ月	年額		会費Ⅰ×3.0ヶ月			
			(人)	(千円)	×0.5	月額(円)	年額(円)	納付1月末	納付3月末	納付6月末		納付7月末			
1	1000	北海道大学生生活協同組合	27,539	2,905,919	2,905,919	375,000	4,811,000	1,875,000	1,687,500	4,811,000	1,125,000	9,498,500	9,410,000	88,500	
2	1001	北海学園生活協同組合	11,355	631,710	631,710	84,000	1,502,500	420,000	378,000	1,502,500	252,000	2,552,500	2,443,750	108,750	
3	1002	北星学園生活協同組合	5,637	440,869	440,869	57,500	854,000	287,500	258,750	854,000	172,500	1,572,750	1,552,250	20,500	
4	1003	北海道教育大学生生活協同組合	5,377	570,160	570,160	73,500	942,000	367,500	330,750	942,000	220,500	1,860,750	1,499,000	361,750	
5	1004	札幌大学生生活協同組合	3,688	187,256	187,256	25,000	435,500	125,000	112,500	435,500	75,000	748,000	774,750	-26,750	
6	1030	酪農学園生活協同組合	5,113	475,916	475,916	62,000	839,500	310,000	279,000	839,500	186,000	1,614,500	1,546,000	68,500	
7	1031	札幌学院大学生生活協同組合	3,507	264,615	264,615	34,500	523,000	172,500	155,250	523,000	103,500	954,250	1,008,750	-54,500	
8	1032	小樽商科大学生生活協同組合	2,443	214,041	214,041	28,000	390,000	140,000	126,000	390,000	84,000	740,000	722,500	17,500	
9	1033	室蘭工業大学生生活協同組合	5,512	522,797	522,797	68,000	913,000	340,000	306,000	913,000	204,000	1,763,000	2,050,500	-287,500	
10	1040	帯広畜産大学生生活協同組合	2,254	274,583	274,583	35,500	425,000	177,500	159,750	425,000	106,500	868,750	887,750	-19,000	
11	1041	北見工業大学生生活協同組合	2,468	370,334	370,334	47,500	525,000	237,500	213,750	525,000	142,500	1,118,750	1,058,750	60,000	
12	1042	釧路公立大学生生活協同組合	1,696	167,640	167,640	22,000	253,500	110,000	99,000	253,500	66,000	528,500	481,500	47,000	
13	1051	公立はこだて未来大学生生活協同組合	1,416	199,367	199,367	25,500	250,000	127,500	114,750	250,000	76,500	568,750	529,500	39,250	
14	1060	旭川市立大学生生活協同組合	1,112	107,717	107,717	14,000	164,500	70,000	63,000	164,500	42,000	339,500	297,000	42,500	
15	2000	弘前大学生生活協同組合	8,817	1,697,348	1,697,348	216,000	2,277,500	1,080,000	972,000	2,277,500	648,000	4,977,500	5,069,500	-92,000	
16	2001	弘前学院生活協同組合	948	56,847	56,847	7,500	117,500	37,500	33,750	117,500	22,500	211,250	203,750	7,500	
17	2010	岩手大学生生活協同組合	7,160	966,193	966,193	124,000	1,430,000	620,000	558,000	1,430,000	372,000	2,980,000	2,914,250	65,750	
18	2011	盛岡大学生生活協同組合	2,448	158,611	158,611	21,000	311,500	105,000	94,500	311,500	63,000	574,000	619,250	-45,250	
19	2012	岩手県立大学生生活協同組合	3,170	321,982	321,982	42,000	543,500	210,000	189,000	543,500	126,000	1,068,500	1,146,000	-77,500	
20	2020	秋田大学生生活協同組合	6,096	1,020,066	1,020,066	130,000	1,436,500	650,000	585,000	1,436,500	390,000	3,061,500	2,928,500	133,000	
21	2030	山形大学生生活協同組合	10,943	1,404,630	1,404,630	180,500	2,194,500	902,500	812,250	2,194,500	541,500	4,450,750	4,183,250	267,500	
22	2040	大学生協みやぎインターカレッジコープ	3,993	301,643	301,643	39,500	596,000	197,500	177,750	596,000	118,500	1,089,750	1,190,250	-100,500	
23	2041	東北大学生生活協同組合	24,849	4,316,806	4,316,806	550,000	5,134,000	2,750,000	2,475,000	5,134,000	1,650,000	12,009,000	11,578,500	430,500	
24	2042	東北学院大学生生活協同組合	11,702	771,762	771,762	101,500	1,651,000	507,500	456,750	1,651,000	304,500	2,919,750	2,732,500	187,250	
25	2043	東北工業大学生生活協同組合	2,842	206,825	206,825	27,000	417,500	135,000	121,500	417,500	81,000	755,000	805,000	-50,000	
26	2044	宮城大学生生活協同組合	2,186	202,539	202,539	26,500	358,000	132,500	119,250	358,000	79,500	689,250	722,750	-33,500	
27	2045	宮城教育大学生生活協同組合	1,598	207,869	207,869	27,000	312,500	135,000	121,500	312,500	81,000	650,000	574,000	76,000	
28	2046	宮城学院生活協同組合	3,348	388,331	388,331	50,000	615,000	250,000	225,000	615,000	150,000	1,240,000	1,274,750	-34,750	
29	2060	尚絅学院大学生生活協同組合	1,635	141,583	141,583	18,500	231,000	92,500	83,250	231,000	55,500	462,250	510,000	-47,750	
30	2070	福島大学生生活協同組合	5,932	742,059	742,059	95,500	1,135,000	477,500	429,750	1,135,000	286,500	2,328,750	2,365,250	-36,500	
31	3100	慶應義塾生活協同組合	37,906	3,355,344	3,355,344	435,500	6,074,500	2,177,500	1,959,750	6,074,500	1,306,500	11,518,250	11,135,750	382,500	
32	3101	東京海洋大学生生活協同組合	2,804	264,572	264,572	34,500	463,500	172,500	155,250	463,500	103,500	894,750	840,000	54,750	
33	3102	東京農業大学生生活協同組合	16,061	1,242,855	1,242,855	162,000	2,484,000	810,000	729,000	2,484,000	486,000	4,509,000	4,049,500	459,500	
34	3103	東京科学大学つばめ生活協同組合	11,258	1,277,188	1,277,188	164,500	2,106,500	822,500	740,250	2,106,500	493,500	4,162,750	3,890,000	272,750	
35	3104	明治学院消費生活協同組合	11,240	708,760	708,760	93,500	1,558,000	467,500	420,750	1,558,000	280,500	2,726,750	2,520,750	206,000	
36	3105	東京都立大学生生活協同組合	12,440	952,263	952,263	124,500	1,867,000	622,500	560,250	1,867,000	373,500	3,423,250	3,278,000	145,250	
37	3106	和光学園生活協同組合	3,020	190,906	190,906	25,500	381,000	127,500	114,750	381,000	76,500	699,750	710,000	-10,250	
38	3107	桜美林学園消費生活協同組合	5,081	233,309	233,309	31,500	630,500	157,500	141,750	630,500	94,500	1,024,250	1,156,000	-131,750	
39	3108	麻布大学生生活協同組合	2,238	202,760	202,760	26,500	363,000	132,500	119,250	363,000	79,500	694,250	663,250	31,000	
40	3109	宇宙科学研究所生活協同組合	331	251,258	251,258	31,500	242,000	157,500	141,750	242,000	94,500	635,750	547,000	88,750	
41	3110	横浜国立大学生生活協同組合	11,122	854,566	854,566	111,500	1,672,000	557,500	501,750	1,672,000	334,500	3,065,750	3,080,500	-14,750	
42	3111	横浜市立大学生生活協同組合	7,183	547,290	547,290	71,500	1,076,000	357,500	321,750	1,076,000	214,500	1,969,750	1,903,250	66,500	
43	3112	星薬科大学生活協同組合	1,909	169,753	169,753	22,000	273,000	110,000	99,000	273,000	66,000	548,000	532,000	16,000	

44	3113	東京工芸大学生生活協同組合	4,289	374,552	374,552	49,000	683,000	245,000	220,500	683,000	147,000	1,295,500	1,325,750	-30,250
45	3114	芝浦工業大学消費生活協同組合	8,311	965,303	965,303	124,500	1,527,000	622,500	560,250	1,527,000	373,500	3,083,250	2,922,750	160,500
46	3115	日本赤十字看護大学生生活協同組合	1,223	93,287	93,287	12,500	165,000	62,500	56,250	165,000	37,500	321,250	318,250	3,000
47	3116	神奈川大学生生活協同組合	19,730	1,325,995	1,325,995	174,000	2,870,500	870,000	783,000	2,870,500	522,000	5,045,500	5,000,250	45,250
48	3117	昭和医科大学生活協同組合	4,616	356,931	356,931	46,500	696,000	232,500	209,250	696,000	139,500	1,277,250	1,193,250	84,000
49	3200	東京大学消費生活協同組合	51,615	6,142,685	6,142,685	789,500	8,687,500	3,947,500	3,552,750	8,687,500	2,368,500	18,556,250	17,848,000	708,250
50	3201	東京理科大学消費生活協同組合	18,449	1,045,040	1,045,040	138,500	2,509,000	692,500	623,250	2,509,000	415,500	4,240,250	4,168,500	71,750
51	3202	東京電機大学生生活協同組合	7,346	576,667	576,667	75,500	1,115,000	377,500	339,750	1,115,000	226,500	2,058,750	1,942,250	116,500
52	3203	千葉商科大学生活協同組合	4,836	177,653	177,653	24,500	526,500	122,500	110,250	526,500	73,500	832,750	903,500	-70,750
53	3204	千葉大学生生活協同組合	13,360	1,390,220	1,390,220	179,500	2,387,000	897,500	807,750	2,387,000	538,500	4,630,750	4,447,750	183,000
54	3205	東邦大学消費生活協同組合	4,152	316,854	316,854	41,500	622,500	207,500	186,750	622,500	124,500	1,141,250	1,092,000	49,250
55	3206	お茶の水女子大学消費生活協同組合	3,190	323,736	323,736	42,000	546,500	210,000	189,000	546,500	126,000	1,071,500	1,068,500	3,000
56	3207	東京科学大学御茶ノ水生活協同組合	7,020	402,926	402,926	53,500	939,500	267,500	240,750	939,500	160,500	1,608,250	1,633,750	-25,500
57	3208	武蔵学園生活協同組合	5,623	196,515	196,515	27,000	606,000	135,000	121,500	606,000	81,000	943,500	978,000	-34,500
58	3209	日本女子大学生生活協同組合	6,166	452,003	452,003	59,500	908,500	297,500	267,750	908,500	178,500	1,652,250	1,621,000	31,250
59	3210	東洋大学生生活協同組合	28,534	1,412,067	1,412,067	188,500	3,696,500	942,500	848,250	3,696,500	565,500	6,052,750	5,833,000	219,750
60	3211	東京芸術大学生生活協同組合	2,421	95,978	95,978	13,000	268,500	65,000	58,500	268,500	39,000	431,000	455,250	-24,250
61	3212	大東文化学園生活協同組合	8,724	456,696	456,696	61,000	1,130,000	305,000	274,500	1,130,000	183,000	1,892,500	1,842,250	50,250
62	3213	埼玉大学生生活協同組合	9,776	780,956	780,956	102,000	1,495,000	510,000	459,000	1,495,000	306,000	2,770,000	2,552,000	218,000
63	3214	跡見学園女子大学生生活協同組合	3,000	133,197	133,197	18,000	342,000	90,000	81,000	342,000	54,000	567,000	696,000	-129,000
64	3215	十文字学園生活協同組合	1,986	90,103	90,103	12,500	227,500	62,500	56,250	227,500	37,500	383,750	447,500	-63,750
65	3216	淑徳大学みずほ台生活協同組合	659	61,978	61,978	8,000	96,500	40,000	36,000	96,500	24,000	196,500	228,000	-31,500
66	3300	早稲田大学生生活協同組合	49,054	3,909,413	3,909,413	509,500	7,493,000	2,547,500	2,292,750	7,493,000	1,528,500	13,861,750	13,862,750	-1,000
67	3301	東京インターカレッジコープ	12,036	391,945	391,945	54,000	1,356,500	270,000	243,000	1,356,500	162,000	2,031,500	2,162,000	-130,500
68	3302	法政大学生生活協同組合	29,287	1,487,051	1,487,051	198,500	3,828,000	992,500	893,250	3,828,000	595,500	6,309,250	6,314,750	-5,500
69	3303	工学院大学学園生活協同組合	8,612	693,399	693,399	90,500	1,321,500	452,500	407,250	1,321,500	271,500	2,452,750	2,252,000	200,750
70	3304	東京外国語大学生生活協同組合	3,688	333,725	333,725	43,500	597,500	217,500	195,750	597,500	130,500	1,141,250	1,225,500	-84,250
71	3305	東京工業高等専門学校生活協同組合	1,140	82,192	82,192	11,000	150,500	55,000	49,500	150,500	33,000	288,000	267,750	20,250
72	3306	東京経済大学生生活協同組合	6,062	460,671	460,671	60,500	907,000	302,500	272,250	907,000	181,500	1,663,250	1,500,250	163,000
73	3307	一橋大学消費生活協同組合	5,682	500,970	500,970	65,000	909,000	325,000	292,500	909,000	195,000	1,721,500	1,777,250	-55,750
74	3308	東京学芸大学生生活協同組合	5,120	525,378	525,378	68,000	882,000	340,000	306,000	882,000	204,000	1,732,000	1,688,500	43,500
75	3309	電気通信大学生生活協同組合	4,874	396,924	396,924	52,000	752,000	260,000	234,000	752,000	156,000	1,402,000	1,345,000	57,000
76	3310	東京農工大学消費生活協同組合	6,807	602,468	602,468	78,500	1,091,000	392,500	353,250	1,091,000	235,500	2,072,250	1,937,500	134,750
77	3311	津田塾大学生生活協同組合	3,202	283,080	283,080	37,000	513,000	185,000	166,500	513,000	111,000	975,500	938,750	36,750
78	3312	東京薬科大学生活協同組合	3,996	603,980	603,980	77,500	853,000	387,500	348,750	853,000	232,500	1,821,750	1,808,750	13,000
79	3313	白梅学園生活協同組合	900	94,065	94,065	12,500	138,000	62,500	56,250	138,000	37,500	294,250	333,500	-39,250
80	3315	日本獣医生命科学大学生生活協同組合	1,769	136,718	136,718	18,000	239,500	90,000	81,000	239,500	54,000	464,500	473,750	-9,250
81	3316	明治薬科大学生活協同組合	2,621	268,393	268,393	35,000	451,000	175,000	157,500	451,000	105,000	888,500	852,750	35,750
82	3400	前橋工科大学生活協同組合	1,618	128,209	128,209	17,000	221,000	85,000	76,500	221,000	51,000	433,500	438,000	-4,500
83	3401	清泉大学生生活協同組合	814	62,581	62,581	8,500	110,000	42,500	38,250	110,000	25,500	216,250	216,750	-500
84	3402	山梨県立大学生生活協同組合	1,109	104,991	104,991	14,000	162,500	70,000	63,000	162,500	42,000	337,500	307,000	30,500
85	3403	新潟青陵大学・短期大学生生活協同組合	1,698	189,740	189,740	24,500	268,000	122,500	110,250	268,000	73,500	574,250	612,250	-38,000
86	3404	長野県立大学生生活協同組合	1,102	122,520	122,520	16,000	173,500	80,000	72,000	173,500	48,000	373,500	338,500	35,000
87	3405	新潟大学生生活協同組合	14,441	1,382,424	1,382,424	179,000	2,472,000	895,000	805,500	2,472,000	537,000	4,709,500	4,532,000	177,500
88	3406	信州大学生生活協同組合	15,259	1,750,765	1,750,765	225,500	2,873,000	1,127,500	1,014,750	2,873,000	676,500	5,691,750	5,462,000	229,750
89	3407	長野大学生生活協同組合	1,516	129,334	129,334	17,000	213,000	85,000	76,500	213,000	51,000	425,500	410,250	15,250
90	3408	山梨大学生生活協同組合	5,332	400,179	400,179	52,500	793,500	262,500	236,250	793,500	157,500	1,449,750	1,266,000	183,750
91	3409	群馬大学生生活協同組合	10,000	715,854	715,854	94,000	1,458,500	470,000	423,000	1,458,500	282,000	2,633,500	2,524,750	108,750
92	3410	足利大学生生活協同組合	1,193	89,926	89,926	12,000	160,000	60,000	54,000	160,000	36,000	310,000	339,500	-29,500

93	3411	宇都宮大学消費生活協同組合	6,213	600,443	600,443	78,000	1,038,500	390,000	351,000	1,038,500	234,000	2,013,500	1,942,750	70,750
94	3412	茨城大学生生活協同組合	8,273	797,169	797,169	103,500	1,381,000	517,500	465,750	1,381,000	310,500	2,674,750	2,535,750	139,000
95	3413	高崎経済大学生生活協同組合	4,170	416,653	416,653	54,000	709,000	270,000	243,000	709,000	162,000	1,384,000	1,321,750	62,250
96	3414	茨城キリスト教学園生活協同組合	2,443	242,897	242,897	31,500	414,500	157,500	141,750	414,500	94,500	808,250	800,500	7,750
97	3415	松本大学生生活協同組合	2,455	147,556	147,556	19,500	305,000	97,500	87,750	305,000	58,500	548,750	532,750	16,000
98	3416	新潟県立大学生生活協同組合	1,815	134,050	134,050	17,500	241,500	87,500	78,750	241,500	52,500	460,250	470,250	-10,000
99	3417	長野県看護大学生生活協同組合	458	80,835	80,835	10,500	91,500	52,500	47,250	91,500	31,500	222,750	232,500	-9,750
100	3418	太田情報・医療・自動車専門学校生活協同組合	1,789	96,780	96,780	13,000	215,000	65,000	58,500	215,000	39,000	377,500	404,000	-26,500
101	4000	生活協同組合インターカレッジコープ愛知	4,385	385,549	385,549	50,000	700,500	250,000	225,000	700,500	150,000	1,325,500	1,197,250	128,250
102	4001	名古屋大学消費生活協同組合	20,133	3,525,891	3,525,891	449,500	4,708,500	2,247,500	2,022,750	4,708,500	1,348,500	10,327,250	10,449,500	-122,250
103	4002	名古屋工業大学生生活協同組合	6,834	860,310	860,310	110,500	1,312,500	552,500	497,250	1,312,500	331,500	2,693,750	2,599,000	94,750
104	4003	名古屋市立大学生生活協同組合	6,962	920,009	920,009	118,000	1,374,000	590,000	531,000	1,374,000	354,000	2,849,000	2,697,500	151,500
105	4004	愛知県公立大学生生活協同組合	4,777	518,118	518,118	67,000	846,500	335,000	301,500	846,500	201,000	1,684,000	1,650,000	34,000
106	4005	中京大学生生活協同組合	13,923	762,583	762,583	101,500	1,832,000	507,500	456,750	1,832,000	304,500	3,100,750	2,961,250	139,500
107	4006	名城大学生生活協同組合	12,264	829,249	829,249	109,000	1,747,500	545,000	490,500	1,747,500	327,000	3,110,000	3,262,250	-152,250
108	4007	金城学院大学生生活協同組合	4,849	480,855	480,855	62,500	821,000	312,500	281,250	821,000	187,500	1,602,250	1,574,000	28,250
109	4020	愛知大学生生活協同組合	9,946	684,058	684,058	90,000	1,427,000	450,000	405,000	1,427,000	270,000	2,552,000	2,395,250	156,750
110	4021	愛知教育大学生生活協同組合	5,032	670,769	670,769	86,000	998,000	430,000	387,000	998,000	258,000	2,073,000	2,040,250	32,750
111	4022	日本福祉大学生生活協同組合	6,080	478,038	478,038	62,500	923,500	312,500	281,250	923,500	187,500	1,704,750	1,671,000	33,750
112	4023	自然科学研究機構岡崎生活協同組合	409	140,812	140,812	18,000	126,500	90,000	81,000	126,500	54,000	351,500	375,750	-24,250
113	4024	豊橋創造大学生生活協同組合	865	107,041	107,041	14,000	143,500	70,000	63,000	143,500	42,000	318,500	175,250	143,250
114	4025	日本赤十字豊田看護大学生生活協同組合	604	84,618	84,618	11,000	106,500	55,000	49,500	106,500	33,000	244,000	209,000	35,000
115	4050	静岡大学生生活協同組合	11,026	1,570,417	1,570,417	201,000	2,351,000	1,005,000	904,500	2,351,000	603,000	4,863,500	4,947,250	-83,750
116	4051	静岡文化芸術大学生生活協同組合	1,654	154,246	154,246	20,000	241,000	100,000	90,000	241,000	60,000	491,000	485,250	5,750
117	4060	岐阜大学消費生活協同組合	9,347	1,146,895	1,146,895	147,500	1,827,000	737,500	663,750	1,827,000	442,500	3,670,750	3,746,000	-75,250
118	4061	岐阜市立女子短期大学生生活協同組合	377	55,545	55,545	7,500	68,500	37,500	33,750	68,500	22,500	162,250	170,500	-8,250
119	4070	三重大学生生活協同組合	9,121	1,125,628	1,125,628	144,500	1,788,500	722,500	650,250	1,788,500	433,500	3,594,750	3,428,250	166,500
120	4071	三重短期大学生生活協同組合	609	81,478	81,478	10,500	105,000	52,500	47,250	105,000	31,500	236,250	228,000	8,250
121	4072	三重県立看護大学生生活協同組合	527	87,169	87,169	11,500	101,500	57,500	51,750	101,500	34,500	245,250	218,000	27,250
122	5100	富山大学生生活協同組合	10,006	1,345,716	1,345,716	172,500	2,062,000	862,500	776,250	2,062,000	517,500	4,218,250	4,047,000	171,250
123	5101	富山県立大学生生活協同組合	2,821	386,275	386,275	49,500	568,500	247,500	222,750	568,500	148,500	1,187,250	1,095,750	91,500
124	5102	富山高専専門学校生活協同組合	1,408	188,073	188,073	24,500	242,000	122,500	110,250	242,000	73,500	548,250	546,500	1,750
125	5110	金沢大学生生活協同組合	11,854	1,111,975	1,111,975	144,000	2,008,500	720,000	648,000	2,008,500	432,000	3,808,500	3,625,250	183,250
126	5111	石川工業高等専門学校生活協同組合	1,199	115,761	115,761	15,000	177,500	75,000	67,500	177,500	45,000	365,000	364,500	500
127	5120	福井大学生生活協同組合	5,714	619,593	619,593	80,000	1,012,500	400,000	360,000	1,012,500	240,000	2,012,500	1,915,750	96,750
128	5200	京都大学生生活協同組合	36,114	4,935,315	4,935,315	632,000	6,524,500	3,160,000	2,844,000	6,524,500	1,896,000	14,424,500	13,688,750	735,750
129	5201	同志社生活協同組合	40,347	3,450,130	3,450,130	448,500	6,362,500	2,242,500	2,018,250	6,362,500	1,345,500	11,968,750	11,867,000	101,750
130	5202	立命館生活協同組合	49,262	4,732,037	4,732,037	612,000	7,500,000	3,060,000	2,754,000	7,500,000	1,836,000	15,150,000	15,877,000	-727,000
131	5203	京都府立医科大学・府立大学生生活協同組合	6,152	574,729	574,729	74,500	1,011,500	372,500	335,250	1,011,500	223,500	1,942,750	2,023,000	-80,250
132	5204	龍谷大学生生活協同組合	23,932	1,687,204	1,687,204	221,000	3,553,000	1,105,000	994,500	3,553,000	663,000	6,315,500	6,553,250	-237,750
133	5205	京都教育大学生生活協同組合	1,690	166,053	166,053	21,500	252,000	107,500	96,750	252,000	64,500	520,750	524,000	-3,250
134	5206	京都工芸繊維大学生生活協同組合	3,821	421,059	421,059	54,500	683,000	272,500	245,250	683,000	163,500	1,364,250	1,366,750	-2,500
135	5207	京都橘学園生活協同組合	9,125	614,616	614,616	81,000	1,298,000	405,000	364,500	1,298,000	243,000	2,310,500	2,192,750	117,750
136	5209	京都経済短期大学生生活協同組合	420	34,729	34,729	4,500	58,500	22,500	20,250	58,500	13,500	114,750	126,000	-11,250
137	5240	奈良女子大学生生活協同組合	3,745	361,535	361,535	47,000	626,000	235,000	211,500	626,000	141,000	1,213,500	1,193,500	20,000
138	5241	奈良教育大学生生活協同組合	1,230	122,274	122,274	16,000	184,000	80,000	72,000	184,000	48,000	384,000	378,750	5,250
139	5242	奈良県立大学生生活協同組合	738	41,190	41,190	5,500	89,500	27,500	24,750	89,500	16,500	158,250	160,000	-1,750
140	5243	奈良工業高等専門学校生活協同組合	1,172	96,512	96,512	13,000	162,500	65,000	58,500	162,500	39,000	325,000	329,000	-4,000
141	5250	滋賀県立大学生生活協同組合	3,274	421,489	421,489	54,500	637,000	272,500	245,250	637,000	163,500	1,318,250	1,252,750	65,500

142	5251	滋賀大学生生活協同組合	4,150	376,943	376,943	49,000	673,500	245,000	220,500	673,500	147,000	1,286,000	1,177,750	108,250
143	5253	滋賀医科大学大学生生活協同組合	1,719	154,333	154,333	20,000	246,500	100,000	90,000	246,500	60,000	496,500	584,250	-87,750
144	5300	大阪インターカレッジユース	2,820	120,091	120,091	16,500	318,000	82,500	74,250	318,000	49,500	524,250	418,000	106,250
145	5301	大阪経済大学生生活協同組合	7,062	226,909	226,909	31,500	793,500	157,500	141,750	793,500	94,500	1,187,250	1,172,250	15,000
146	5302	大阪教育大学生生活協同組合	5,119	496,085	496,085	64,500	857,000	322,500	290,250	857,000	193,500	1,663,250	1,530,500	132,750
147	5303	大阪公立大学生生活協同組合	18,738	1,463,848	1,463,848	191,000	2,910,500	955,000	859,500	2,910,500	573,000	5,298,000	5,328,750	-30,750
148	5320	近畿大学生生活協同組合	28,963	1,506,820	1,506,820	200,500	3,818,000	1,002,500	902,250	3,818,000	601,500	6,324,250	5,879,000	445,250
149	5322	阪南大学生生活協同組合	4,174	230,548	230,548	31,000	551,000	155,000	139,500	551,000	93,000	938,500	901,000	37,500
150	5323	大阪大学生生活協同組合	35,090	3,512,412	3,512,412	454,000	5,968,500	2,270,000	2,043,000	5,968,500	1,362,000	11,643,500	11,491,750	151,750
151	5324	大阪電気通信大学生生活協同組合	5,722	393,314	393,314	51,500	821,000	257,500	231,750	821,000	154,500	1,464,750	1,454,000	10,750
152	5325	大阪千代田短期大学生生活協同組合	270	17,988	17,988	2,500	35,000	12,500	11,250	35,000	7,500	66,250	74,000	-7,750
153	5326	千里金蘭大学生生活協同組合	2,004	77,274	77,274	10,500	221,000	52,500	47,250	221,000	31,500	352,250	354,750	-2,500
154	5327	大阪樟蔭女子大学生生活協同組合	1,814	126,922	126,922	17,000	237,000	85,000	76,500	237,000	51,000	449,500	488,750	-39,250
155	5340	和歌山大学消費生活協同組合	4,141	393,744	393,744	51,000	687,000	255,000	229,500	687,000	153,000	1,324,500	1,353,000	-28,500
156	5341	和歌山県立医科大学大学生生活協同組合	1,787	208,618	208,618	27,000	329,500	135,000	121,500	329,500	81,000	667,000	667,250	-250
157	5350	神戸大学生生活協同組合	22,560	2,056,699	2,056,699	266,500	3,666,000	1,332,500	1,199,250	3,666,000	799,500	6,997,250	6,852,750	144,500
158	5351	神戸市外国語大学消費生活協同組合	2,646	265,845	265,845	34,500	451,000	172,500	155,250	451,000	103,500	882,250	925,500	-43,250
159	5352	甲南大学生生活協同組合	10,191	871,677	871,677	113,500	1,607,500	567,500	510,750	1,607,500	340,500	3,026,250	2,982,500	43,750
160	5353	神戸薬科大学生活協同組合	2,050	252,534	252,534	32,500	389,000	162,500	146,250	389,000	97,500	795,250	697,500	97,750
161	5354	神戸親和大学生生活協同組合	1,376	81,581	81,581	11,000	170,000	55,000	49,500	170,000	33,000	307,500	259,000	48,500
162	5355	甲南女子大学生生活協同組合	3,636	198,638	198,638	26,500	438,500	132,500	119,250	438,500	79,500	769,750	769,250	500
163	5356	神戸市立工業高等専門学校生活協同組合	1,285	126,161	126,161	16,500	191,500	82,500	74,250	191,500	49,500	397,750	397,750	0
164	5370	関西学院大学生生活協同組合	33,905	2,583,912	2,583,912	337,500	5,078,500	1,687,500	1,518,750	5,078,500	1,012,500	9,297,250	9,370,500	-73,250
165	5371	兵庫県立大学生生活協同組合	7,895	753,272	753,272	97,500	1,311,500	487,500	438,750	1,311,500	292,500	2,530,250	2,479,750	50,500
166	5372	大手前大学生生活協同組合	2,681	106,842	106,842	14,500	297,500	72,500	65,250	297,500	43,500	478,750	475,750	3,000
167	5373	園田学園大学生生活協同組合	2,324	152,940	152,940	20,500	297,000	102,500	92,250	297,000	61,500	553,250	536,250	17,000
168	6000	岡山大学生生活協同組合	14,742	1,945,160	1,945,160	249,500	3,004,000	1,247,500	1,122,750	3,004,000	748,500	6,122,750	5,878,750	244,000
169	6001	就実生活協同組合	2,508	179,675	179,675	23,500	330,000	117,500	105,750	330,000	70,500	623,750	579,750	44,000
170	6010	広島大学消費生活協同組合	17,317	2,962,890	2,962,890	378,000	3,990,500	1,890,000	1,701,000	3,990,500	1,134,000	8,715,500	8,224,500	491,000
171	6011	広島修道大学生生活協同組合	6,630	486,711	486,711	64,000	977,500	320,000	288,000	977,500	192,000	1,777,500	1,728,250	49,250
172	6012	福山市立大学生生活協同組合	1,008	88,304	88,304	11,500	143,500	57,500	51,750	143,500	34,500	287,250	307,250	-20,000
173	6020	下関市立大学生生活協同組合	3,110	432,116	432,116	55,500	632,000	277,500	249,750	632,000	166,500	1,325,750	1,109,250	216,500
174	6021	山口大学生生活協同組合	11,389	1,461,984	1,461,984	187,500	2,284,000	937,500	843,750	2,284,000	562,500	4,627,750	4,495,250	132,500
175	6022	水産大学校生活協同組合	1,103	97,352	97,352	13,000	157,000	65,000	58,500	157,000	39,000	319,500	320,750	-1,250
176	6023	梅光学院大学生生活協同組合	1,520	130,110	130,110	17,000	214,000	85,000	76,500	214,000	51,000	426,500	430,750	-4,250
177	6024	山口県立大学生生活協同組合	1,511	126,917	126,917	16,500	211,000	82,500	74,250	211,000	49,500	417,250	378,500	38,750
178	6030	鳥取大学生生活協同組合	6,752	1,057,424	1,057,424	135,000	1,526,000	675,000	607,500	1,526,000	405,000	3,213,500	2,925,250	288,250
179	6040	島根大学生生活協同組合	7,377	922,894	922,894	118,500	1,411,500	592,500	533,250	1,411,500	355,500	2,892,750	2,776,750	116,000
180	6050	香川大学生生活協同組合	7,422	984,721	984,721	126,500	1,468,000	632,500	569,250	1,468,000	379,500	3,049,250	3,117,500	-68,250
181	6051	四国学院生活協同組合	1,002	52,711	52,711	7,000	119,500	35,000	31,500	119,500	21,000	207,000	216,250	-9,250
182	6060	松山大学生生活協同組合	6,509	873,911	873,911	112,000	1,296,500	560,000	504,000	1,296,500	336,000	2,696,500	2,826,750	-130,250
183	6061	愛媛大学生生活協同組合	10,745	1,829,704	1,829,704	233,500	2,560,500	1,167,500	1,050,750	2,560,500	700,500	5,479,250	5,383,750	95,500
184	6062	松山東雲女子大学・松山東雲短期大学生生活協同組合	725	59,361	59,361	8,000	100,500	40,000	36,000	100,500	24,000	200,500	206,500	-6,000
185	6070	徳島大学生生活協同組合	10,120	1,174,545	1,174,545	151,000	1,917,500	755,000	679,500	1,917,500	453,000	3,805,000	3,665,500	139,500
186	6080	高知大学生生活協同組合	6,812	698,131	698,131	90,500	1,172,500	452,500	407,250	1,172,500	271,500	2,303,750	2,325,750	-22,000
187	6081	高知県公立大学生生活協同組合	4,187	390,315	390,315	50,500	688,000	252,500	227,250	688,000	151,500	1,319,250	1,302,750	16,500
188	7001	福岡教育大学生生活協同組合	2,815	315,462	315,462	41,000	507,500	205,000	184,500	507,500	123,000	1,020,000	993,250	26,750
189	7002	九州工業大学生生活協同組合	6,482	812,127	812,127	104,500	1,241,500	522,500	470,250	1,241,500	313,500	2,547,750	2,571,750	-24,000
190	7003	北九州市立大学生生活協同組合	8,209	738,101	738,101	96,000	1,325,500	480,000	432,000	1,325,500	288,000	2,525,500	2,656,500	-131,000

191	7004	福岡女子大学生生活協同組合	959	97,668	97,668	13,000	145,000	65,000	58,500	145,000	39,000	307,500	282,750	24,750
192	7005	九州大学生生活協同組合	25,504	2,619,796	2,619,796	338,500	4,395,000	1,692,500	1,523,250	4,395,000	1,015,500	8,626,250	8,918,750	-292,500
193	7006	西南学院大学生生活協同組合	9,445	833,231	833,231	108,500	1,511,500	542,500	488,250	1,511,500	325,500	2,867,750	2,763,250	104,500
194	7007	福岡県立大学生生活協同組合	1,323	140,765	140,765	18,500	204,000	92,500	83,250	204,000	55,500	435,250	384,000	51,250
195	7008	九州国際大学生生活協同組合	2,001	63,167	63,167	9,000	211,500	45,000	40,500	211,500	27,000	324,000	323,000	1,000
196	7009	西南女学院大学生生活協同組合	1,663	140,341	140,341	18,500	233,000	92,500	83,250	233,000	55,500	464,250	447,250	17,000
197	7020	佐賀大学生生活協同組合	7,604	704,637	704,637	91,500	1,245,500	457,500	411,750	1,245,500	274,500	2,389,250	2,329,000	60,250
198	7030	長崎大学生生活協同組合	16,992	1,623,148	1,623,148	210,000	2,905,500	1,050,000	945,000	2,905,500	630,000	5,530,500	5,491,000	39,500
199	7031	長崎県立大学佐世保校生活協同組合	2,517	265,780	265,780	34,500	440,000	172,500	155,250	440,000	103,500	871,250	915,750	-44,500
200	7032	純心大学生生活協同組合	818	80,233	80,233	10,500	122,000	52,500	47,250	122,000	31,500	253,250	281,250	-28,000
201	7033	長崎県立大学シーボルト校生活協同組合	1,430	147,004	147,004	19,000	217,500	95,000	85,500	217,500	57,000	455,000	485,500	-30,500
202	7040	熊本大学生生活協同組合	12,655	982,274	982,274	128,500	1,911,000	642,500	578,250	1,911,000	385,500	3,517,250	3,747,750	-230,500
203	7041	熊本インターカレッジコープアカデミア	1,868	66,446	66,446	9,500	202,000	47,500	42,750	202,000	28,500	320,750	318,250	2,500
204	7050	大分大学生生活協同組合	6,163	673,153	673,153	87,000	1,096,000	435,000	391,500	1,096,000	261,000	2,183,500	2,106,250	77,250
205	7060	宮崎大学生生活協同組合	6,742	820,313	820,313	105,500	1,270,500	527,500	474,750	1,270,500	316,500	2,589,250	2,692,000	-102,750
206	7061	南九州学園生活協同組合	1,039	53,827	53,827	7,500	123,500	37,500	33,750	123,500	22,500	217,250	215,500	1,750
207	7070	鹿児島大学生生活協同組合	14,771	1,359,679	1,359,679	176,500	2,479,500	882,500	794,250	2,479,500	529,500	4,685,750	4,432,250	253,500
208	7071	鹿児島県立短期大学生生活協同組合	578	62,740	62,740	8,500	90,000	42,500	38,250	90,000	25,500	196,250	189,500	6,750
209	7080	琉球大学生生活協同組合	9,669	562,752	562,752	74,500	1,300,500	372,500	335,250	1,300,500	223,500	2,231,750	2,311,000	-79,250
210	7081	沖縄大学生生活協同組合	2,947	70,584	70,584	10,500	296,500	52,500	47,250	296,500	31,500	427,750	443,250	-15,500
211	8000	大学生協事業連合				500	0	2,500	2,250	0	1,500	6,250	6,250	0
212	6999	中国四国事業連合				500	0	2,500	2,250	0	1,500	6,250	6,250	0
213	9100	日本コープ共済生活協同組合連合会				16,000,000	0	80,000,000	72,000,000	0	48,000,000	200,000,000	200,000,000	0
		合 計	1,565,504	148,063,122	148,063,122	35,204,000	256,216,000	176,020,000	158,418,000	256,216,000	105,612,000	696,266,000	687,071,250	9,194,750
								納付1月末	納付3月末	納付6月末	納付7月末			

496,253,500 会員のみ

- ・ 東京工業大学生協は、大学合併に伴い、2024年10月1日付けで名称を変更。東京科学大学つばめ生活協同組合となりました。
- ・ 東京医科歯科大学生協は、大学合併に伴い、2024年10月1日付けで名称を変更。東京科学大学御茶ノ水生活協同組合となりました。
- ・ 2025年4月大学の名称変更に伴い、昭和大学生協は昭和医科大学生協、清泉女学院大学生協は清泉大学生協、園田学園女子大学は園田学園大学生協になりました。

## 6. 2026 年度 大学生協連への出資金増資要請、および減資

(会員別出資金一覧表 2025 年度 9 月 30 日現在出資額)

## 2026 年度 大学生協連への出資金増資要請

●出資は、「定款」「会員規約」および「出資要請基準」(2005年改定)の定めによります。

●第49回総会(2005年)で決定した「全国大学生協連の会員生協への出資(増資)要請基準」に基づき、要請未達残額の増資を要請します。

2026 年度の増資要請は、14 会員、 合計 2,381 千円です。

### ○出資要請額の算定方法

(1) 「出資要請額」と、要請基準の“経過措置”に基づく「年度の増資要請額」があります。

#### ①「出資要請額」

基準による算定額(基準額)と現在の出資額との差額を増資要請する

#### ②経過措置に基づく「年度の増資要請額」

①の基準額×50%まで増資を要請する当年度の増資要請額

(2) 基準額の算定方法と経過措置

- ・会員の事業高(供給高)・会員の組合員出資金額・会員の組合員数の各々に、基準の定める係数を乗じた額の合計が基準額となります。
- ・新基準に対し現行の出資金額が50%以下の会員生協は、新基準の50%に達するまで差額を増資することを毎年度要請しています。
- ・新規加入会員には、2か年度基準額を下げています。

(3) 2026 年度の算定基礎数値

会員の供給高……2024年12月31日を含む事業年度末の決算書類より(RGデータ)

会員の組合員出資金額… 同上

会員の組合員数……「会員基本調査」により2025年9月末日現在で報告のあった数

大学生協連への出資金残額…… 2025年9月末時点の連合会出資金額

(4) 軽減適用

- ・新規加入から2か年度以内で基準額を減免する会員は、ありません。

(5) 特記事項

- ・2025年11月理事会において、2026年度の出資要請について以下の決定を行いました。

①「出資金基準」に定められた算出と運用を行います。

②2026年度は減資は行わないことにします。(2021年度に実施)

③2026年度の増資要請額は、基準に定められた経過措置を適用します。

## ○全国大学生協連「定款」より出資関連条文

第7条 この会の会員になろうとする者は、この会の定める加入申込書に引き受けようとする出資口数に相当する出資金額及び次の書類を添付してこの会に提出しなければならない。(以下略)

(出資1口の金額及びその払込み方法)

第14条 会員は、出資1口以上を有しなければならない。

2 1会員の有することのできる出資口数の限度は、会員の総出資口数の4分の1とする。

3 会員は、出資金額の払込みについて、相殺をもってこの会に対抗することができない。

4 会員の責任は、その出資金額を限度とする。

(出資1口の金額及びその払込み方法)

第15条 出資1口の金額は、金千円とし、全額一時払込みとする。

(出資口数の増加)

第16条 会員は、その出資口数を増加することができる。

2 出資口数を増加しようとする会員は、この会の定める出資口数増加申込書に、増加しようとする出資口数に相当する出資金額を添え、これをこの会に提出しなければならない。

(出資口数の減少)

第17条 会員は、やむを得ない理由があるときは、事業年度の末日の90日前までに減少しようとする出資口数をこの会に予告し、当該事業年度の終りにおいて出資口数を減少することができる。

2 会員は、その出資口数が会員の総出資口数の4分の1を超えたときは4分の1以下に達するまで、その出資口数を減少しなければならない。

3 出資口数を減少した会員は、減少した出資口数に応ずる払込済出資額の払戻しをこの会に請求することができる。

4 第13条第3項の規定は、出資口数を減少する場合について準用する。

## ○会員規約より

第5条 会員は、総会が定めた出資要請基準による出資金額を満たすよう努力しなければならない。

2 会員は、総会が特別事業のための特別出資要請を行ったときは、その要請を満たすよう努めるものとする。

## ○第49回総会(2005年)で決定した「全国大学生協連の会員生協への出資(増資)要請基準」

(第29回総会:1986年で決定した連合会出資基準を改定しました。)

### 1)既存会員

連合会への出資金総額=A+B+C

A=基準年度会員事業高×0.15%

B=基準年度組合員出資金全国平均額×組合員数×0.75%

C=基準年度会員生協組合員出資金×2.5%

(注) 1)基準年度会員事業高は会員の事業年度事業高

2)基準年度組合員出資金は会員の事業年度末残高

3)基準年度組合員出資金全国平均額は、基準年度末組合員出資金÷大学生協連  
当事業年度末会員生協組合員数

### 2)新規加入会員の出資金要請基準

新規加入会員の出資金基準は、加入時の加入出資金を1口1,000円とし、

1年度は出資基準の3分の1、2年度は出資基準の2分の1、3年度は出資基準の全額に達するまで増資をする。係数に乗ずる各数値はそれぞれの前年度の額を対象とする。

### 2. 出資金の改訂にともなう経過措置

(1)新基準に対し現行の出資金額が上回っている会員生協は、差額を減資する。

(2)新基準に対し現行の出資金額が50%以下の会員生協は、新基準の50%に達するまでの差額を増資する。

(3)経過措置にかかる減資および増資要請の取扱いは理事会で決定する。

### 3. 出資(増資)要請基準の今後の取扱いについて

(1)会員間の連合会出資金の格差是正のために、今後は5年毎に基準の見直しを行い、格差が減少するよう調整をはかる。

全国大学生生活協同組合連合会 2026年度 出資金要請額 算出明細

要請会員のみ

出資金要請基準額100%との差額↓ 出資金要請基準額50%との差額↓

		組合員出資金全国平均B1				16,629		100超 減資対象数		基準不足対象数		要請会員数						
加入年翌年度=1、その次年度=2、次々年度=3→		基準[A]の算出		基準[B]の算出		基準[C]の算出		出資金要請	経加減入率	出資金要請	連合会出資金	充足	基準額と	基準不足額	経過措置	左記基準額と	2026年度	2025年度
連合会 C D	会 員 名	会員事業高	基準A	組合員数	基準B	組合員出資金	基準C	基準額		基準額	残 高	足	残高の差額		基準額×50%	残高との差額	増資要請額	増資要請額
		2024年度	(円)	2025年9月	(円)	2024年度末	(円)	(円)		(円)	#REF!	率	(円)	(円)	(円)	(円)	(円)	(円)
		A (千円)	A×0.15%	B2(人)	B1×B2×0.75%	C (円)	C×2.5%	[A]+[B]+[C]	[A]+[B]+[C]×軽減率	E	E/基準	[A]+[B]+[C]-E	千円単位切上げ	X	E-X			
1060	旭川市立大学生生活協同組合	107,717	161,576	1,112	143,171	14,910,000	372,750	677,497		677,497	124,000	18%	-553,497	554,000	338,749	-214,749	215,000	181,000
3404	長野県立大学生生活協同組合	122,520	183,780	1,102	141,884	15,186,000	379,650	705,314		705,314	287,000	41%	-418,314	419,000	352,657	-65,657	66,000	43,000
4024	豊橋創造大学生生活協同組合	107,041	160,562	865	111,370	14,615,000	365,375	637,307		637,307	1,000	0%	-636,307	637,000	318,654	-317,654	318,000	97,000
5101	富山県立大学生生活協同組合	386,275	579,413	2,821	363,206	50,890,000	1,272,250	2,214,869		2,214,869	877,000	40%	-1,337,869	1,338,000	1,107,435	-230,435	231,000	162,000
5207	京都橘学園生活協同組合	614,616	921,925	9,125	1,174,849	110,793,000	2,769,825	4,866,599		4,866,599	2,126,000	44%	-2,740,599	2,741,000	2,433,300	-307,300	308,000	125,000
5250	滋賀県立大学生生活協同組合	421,489	632,234	3,274	421,530	64,886,000	1,622,150	2,675,914		2,675,914	1,301,000	49%	-1,374,914	1,375,000	1,337,957	-36,957	37,000	35,000
5300	大阪インターカレッジコープ	120,091	180,137	2,820	363,077	15,800,000	395,000	938,214		938,214	434,000	46%	-504,214	505,000	469,107	-35,107	36,000	0
5320	近畿大学生生活協同組合	1,506,820	2,260,231	28,963	3,729,001	631,228,000	15,780,700	21,769,932		21,769,932	10,352,000	48%	-11,417,932	11,418,000	10,884,966	-532,966	533,000	1,191,000
5324	大阪電気通信大学生生活協同組合	393,314	589,971	5,722	736,711	172,936,000	4,323,400	5,650,082		5,650,082	2,670,000	47%	-2,980,082	2,981,000	2,825,041	-155,041	156,000	101,000
6020	下関市立大学生生活協同組合	432,116	648,174	3,110	400,415	47,442,000	1,186,050	2,234,639		2,234,639	1,038,000	46%	-1,196,639	1,197,000	1,117,320	-79,320	80,000	0
6021	山口大学生生活協同組合	1,461,984	2,192,977	11,389	1,466,340	200,872,000	5,021,800	8,681,117		8,681,117	4,224,000	49%	-4,457,117	4,458,000	4,340,559	-116,559	117,000	0
6040	島根大学生生活協同組合	922,894	1,384,341	7,377	949,793	137,532,000	3,438,300	5,772,434		5,772,434	2,629,000	46%	-3,143,434	3,144,000	2,886,217	-257,217	258,000	150,000
7004	福岡女子大学生生活協同組合	97,668	146,503	959	123,472	19,434,000	485,850	755,825		755,825	358,000	47%	-397,825	398,000	377,913	-19,913	20,000	14,000
7031	長崎県立大学佐世保校生活協同組合	265,780	398,671	2,517	324,065	45,097,000	1,127,425	1,850,161		1,850,161	920,000	50%	-930,161	931,000	925,081	-5,081	6,000	62,000

全国大学生生活協同組合連合会 2026年度 出資金要請額 算出明細

出資金要請基準額100%との差額↓

出資金要請基準額50%との差額↓

100超 減資対象数 基準不足対象数

要請会員数

50%以下 67 123

14

		組合員出資金全国平均B1										17,167		50%以下		87		123									
加入年翌年度=1、その次年度=2、次々年度=3→		基準[A]の算出		基準[B]の算出		基準[C]の算出		出資金要請基準額		経加減入率経過		出資金要請基準額		連合会出資金残高		充足率		基準額と残高の差額		基準不足額		経過措置		左記基準額と残高との差額		2026年度増資要請額	
連合会C D	会 員 名	会員事業高	基準A	組合員数	基準B	組合員出資金	基準C	基準額	基準額	経加減入率経過	基準額	残高	充足率	基準額と残高の差額	基準不足額	経過措置	左記基準額と残高との差額	2026年度増資要請額									
		2024年度	(円)	2025年9月	(円)	2024年度末	(円)	2025年9月末	(円)		(円)	2025/9/末	率	(円)	(円)	(円)	(円)	(円)									
		A (千円)	A×0.15%	B2(人)	B1×B2×0.75%	C (円)	C×2.5%	[A]+[B]+[C]	[A]+[B]+[C]×経減率		E	E/基準	[A]+[B]+[C]-E	千円単位切上げ		X	E-X										
1	1000	北海道大学生生活協同組合	2,905,919	4,358,880	27,539	3,545,660	402,451,901	10,061,298	17,965,838		17,965,838	24,351,000	136%	6,385,162	0	8,982,919	15,368,081	0									
2	1001	北海学園大学生生活協同組合	631,710	947,565	11,355	1,461,962	132,700,500	3,317,513	5,727,040		5,727,040	5,962,000	104%	234,960	0	2,863,520	3,098,480	0									
3	1002	酪農学園大学生生活協同組合	475,916	713,874	5,113	658,302	72,736,000	1,818,400	3,190,576		3,190,576	3,849,000	121%	658,424	0	1,595,288	2,253,712	0									
4	1003	札幌学院大学生生活協同組合	264,615	396,923	3,507	451,528	60,255,000	1,506,375	2,354,826		2,354,826	4,233,000	180%	1,878,174	0	1,177,413	3,055,587	0									
5	1004	北星学園大学生生活協同組合	440,869	661,304	5,637	725,767	67,735,000	1,693,375	3,080,446		3,080,446	2,944,000	96%	-136,446	137,000	1,540,223	1,403,777	0									
6	1030	北海道教育大学生生活協同組合	570,160	855,240	5,377	692,292	102,869,000	2,571,725	4,119,257		4,119,257	4,127,000	104%	151,743	0	2,059,629	2,211,372	0									
7	1031	小樽商科大学生生活協同組合	214,041	321,062	2,443	314,538	46,443,500	1,161,088	1,796,688		1,796,688	1,544,000	86%	-252,688	253,000	898,344	645,656	0									
8	1032	札幌大学生生活協同組合	187,256	280,884	3,688	474,832	65,226,290	1,630,658	2,386,374		2,386,374	1,657,000	69%	-729,374	730,000	1,193,187	463,813	0									
9	1033	室蘭工業大学生生活協同組合	522,797	784,196	5,512	709,673	121,871,000	3,046,775	4,540,644		4,540,644	5,157,000	114%	616,356	0	2,270,322	2,886,678	0									
10	1040	帯広畜産大学生生活協同組合	274,583	411,875	2,254	290,204	31,136,000	778,400	1,480,479		1,480,479	1,608,000	109%	127,521	0	740,240	867,761	0									
11	1041	北見工業大学生生活協同組合	370,334	555,501	2,468	317,757	41,204,000	1,030,100	1,903,358		1,903,358	1,818,000	96%	-85,358	86,000	951,679	866,321	0									
12	1042	釧路公立大学生生活協同組合	167,640	251,461	1,696	218,361	28,710,000	717,750	1,187,572		1,187,572	701,000	59%	-486,572	487,000	593,786	107,214	0									
13	1051	公立はこだて未来大学生生活協同組合	199,367	299,051	1,416	182,311	25,260,000	631,500	1,112,862		1,112,862	899,000	81%	-213,862	214,000	556,431	342,569	0									
14	1060	旭川市立大学生生活協同組合	107,717	161,576	1,112	143,171	14,910,000	372,750	677,497		677,497	124,000	18.3%	-553,497	554,000	338,749	-214,749	215,000									
15	2000	弘前大学生生活協同組合	1,697,348	2,546,022	8,817	1,135,194	257,907,500	6,447,688	10,128,904		10,128,904	8,306,000	82%	-1,822,904	1,823,000	5,064,452	3,241,548	0									
16	2001	弘前学院生活協同組合	56,847	85,271	948	122,056	8,750,000	218,750	426,077		426,077	474,000	111%	47,923	0	213,039	260,962	0									
17	2010	岩手大学生生活協同組合	966,193	1,449,290	7,160	921,854	123,462,500	3,086,563	5,457,707		5,457,707	5,679,000	104%	221,293	0	2,728,854	2,950,147	0									
18	2011	盛岡大学生生活協同組合	158,611	237,917	2,448	315,182	22,650,000	566,250	1,119,349		1,119,349	1,135,000	101%	15,651	0	559,675	575,326	0									
19	2012	岩手県立大学生生活協同組合	321,982	482,973	3,170	408,140	32,225,000	805,625	1,696,738		1,696,738	1,324,000	78%	-372,738	373,000	848,369	475,631	0									
20	2020	秋田大学生生活協同組合	1,020,066	1,530,099	6,096	784,864	153,928,500	3,848,213	6,163,176		6,163,176	5,043,000	82%	-1,120,176	1,121,000	3,081,588	1,961,412	0									
21	2030	山形大学生生活協同組合	1,404,630	2,106,946	10,943	1,408,917	212,309,700	5,307,743	8,823,608		8,823,608	9,899,000	112%	1,075,394	0	4,411,803	5,487,197	0									
22	2040	大学生協みやぎインターカレッジユース	301,643	452,464	3,993	514,101	39,330,000	983,250	1,949,815		1,949,815	2,170,000	111%	220,185	0	974,908	1,195,093	0									
23	2041	東北大学生生活協同組合	4,316,806	6,475,210	24,849	3,199,321	571,440,800	14,286,020	23,960,551		23,960,551	24,938,000	104%	977,449	0	11,980,276	12,957,723	0									
24	2042	東北学院大学生生活協同組合	771,762	1,157,644	11,702	1,506,639	206,699,000	5,167,475	7,831,758		7,831,758	8,858,000	113%	1,026,242	0	3,915,879	4,942,121	0									
25	2043	東北工業大学生生活協同組合	206,825	310,237	2,842	365,909	45,666,000	1,141,650	1,817,796		1,817,796	2,493,000	137%	675,204	0	908,898	1,584,102	0									
26	2044	宮城教育大学生生活協同組合	207,869	311,804	1,598	205,744	36,461,000	911,525	1,429,073		1,429,073	1,207,000	84%	-222,073	223,000	714,537	492,464	0									
27	2045	宮城大学生生活協同組合	202,539	303,808	2,186	281,449	21,945,000	548,625	1,133,882		1,133,882	1,356,000	120%	222,118	0	566,941	789,059	0									
28	2046	宮城学院生活協同組合	388,331	582,497	3,348	431,057	28,945,000	723,625	1,737,179		1,737,179	2,232,000	128%	494,821	0	868,590	1,363,411	0									
29	2060	尚綱学院大学生生活協同組合	141,583	212,374	1,635	210,508	29,290,000	732,250	1,155,132		1,155,132	1,208,000	105%	52,868	0	577,566	630,434	0									
30	2070	福島大学生生活協同組合	742,059	1,113,090	5,932	763,748	139,323,200	3,483,080	5,359,918		5,359,918	5,154,000	96%	-205,918	206,000	2,679,959	2,474,041	0									
31	3100	慶應義塾生活協同組合	3,355,344	5,033,016	37,906	4,880,417	676,767,000	16,919,175	26,832,608		26,832,608	25,120,000	94%	-1,712,608	1,713,000	13,416,304	11,703,696	0									
32	3101	東京海洋大学生生活協同組合	264,572	396,859	2,804	361,017	45,029,500	1,125,738	1,883,614		1,883,614	1,448,000	77%	-435,614	436,000	941,807	506,193	0									
33	3102	東京農薬大学生生活協同組合	1,242,855	1,864,283	16,061	2,067,882	224,660,000	5,616,500	9,548,645		9,548,645	8,430,000	88%	-1,118,645	1,119,000	4,774,323	3,655,678	0									
34	3103	東京科学大学つばめ生活協同組合	1,277,188	1,915,783	11,258	1,449,474	148,145,000	3,703,625	7,068,882		7,068,882	8,488,000	120%	1,419,118	0	3,534,441	4,953,559	0									
35	3104	明治学院消費生活協同組合	708,760	1,063,141	11,240	1,447,156	203,544,800	5,088,620	7,598,917		7,598,917	8,159,000	107%	560,083	0	3,799,459	4,359,542	0									
36	3105	東京都立大学生生活協同組合	952,263	1,428,395	12,440	1,601,657	140,761,500	3,519,038	6,549,090		6,549,090	6,149,000	94%	-400,090	401,000	3,274,545	2,874,455	0									
37	3106	和光学園生活協同組合	190,906	286,359	3,020	388,827	64,476,000	1,611,900	2,287,086		2,287,086	2,887,000	126%	599,914	0	1,143,543	1,743,457	0									
38	3107	桜美林学園消費生活協同組合	233,309	349,963	5,081	654,182	96,671,000	2,416,775	3,420,920		3,420,920	3,348,000	98%	-72,920	73,000	1,710,460	1,637,540	0									
39	3108	麻布大学生生活協同組合	202,760	304,141	2,238	288,144	45,357,000	1,133,925	1,726,210		1,726,210	1,617,000	94%	-109,210	110,000	863,105	753,895	0									
40	3109	宇宙科学研究所生活協同組合	251,258	376,887	331	42,617	3,270,000	81,750	501,254		501,254	510,000	102%	8,746	0	250,627	259,373	0									
41	3110	横浜国立大学生生活協同組合	854,566	1,281,849	11,122	1,431,963	141,146,500	3,528,663	6,242,475		6,242,475	7,944,000	127%	1,701,525	0	3,121,238	4,822,763	0									
42	3111	横浜市立大学生生活協同組合	547,290	820,935	7,183	924,815	160,621,200	4,015,530	5,761,280		5,761,280	3,644,000	63%	-2,117,280	2,118,000	2,880,640	763,360	0									
43	3112	星薬科大学生活協同組合	169,753	254,630	1,909	245,785	28,230,000	705,750	1,206,165		1,206,165	848,000	70%	-358,165	359,000	603,083	244,918	0									
44	3113	東京工芸大学生生活協同組合	374,552	561,828	4,289	552,211	75,205,000	1,880,125	2,994,164		2,994,164	2,950,000	99%	-44,164	45,000	1,497,082	1,452,918	0									
45	3114	芝浦工業大学消費生活協同組合	965,303	1,447,956	8,311	1,070,046	248,049,500	6,201,238	8,719,240		8,719,240	6,488,000	74%	-2,231,240	2,232,000	4,359,620	2,128,380	0									
46	3115	日本赤十字看護大学生生活協同組合	93,287	139,931	1,223	157,462	20,065,000	501,625	799,018		799,018	512,000	64%	-287,018	288,000	399,509	112,491	0									
47	3116	神奈川大学生活協同組合	1,325,995	1,988,993	19,730	2,540,248	249,378,000	6,234,450	10,763,691		10,763,691	7,123,000	66%	-3,640,691	3,641,000	5,381,846	1,741,155	0									

出資金要請基準額50%との差額↓

2025年度  
増資要請額  
(円)

出資金要請基準額50%との差額↓

2025年度  
増資要請額  
(円)

全国大学生生活協同組合連合会 2026年度 出資金要請額 算出明細

出資金要請基準額100%との差額↓

出資金要請基準額50%との差額↓

組合員出資金全国平均B1															17,167	100超 減資対象数 基準不足対象数										要請会員数						
加入翌年度=1、その次年度=2、次々年度=3→															加入経過年度	基準[A]の算出		基準[B]の算出		基準[C]の算出		出資金要請基準額	経加減入率経過	出資金要請基準額	連合会出資金残高	充足率	基準額と残高の差額	基準不足額	経過措置基準額×50%	左記基準額と残高との差額	2026年度増資要請額	2025年度増資要請額
連合会CD	会 員 名														2024年度A (千円)	A×0.15% (円)	2025年9月B2 (人)	B1×B2×0.75% (円)	C (円)	C×2.5% (円)	[A]+[B]+[C] (円)	[A]+[B]+[C]×軽減率 (円)	E (円)	E/基準率	[A]+[B]+[C]-E (円)	千円単位切上げ (円)	(円)	(円)	(円)	(円)		
142	5252	滋賀大学生生活協同組合														376,943	565,415	4,150	534,315	55,556,000	1,388,900	2,488,630	2,488,630	2,422,000	97%	-66,630	67,000	1,244,315	1,177,685	0	0	
143	5253	滋賀医科大学生活協同組合														154,333	231,500	1,719	221,323	21,185,000	529,625	982,448	982,448	752,000	77%	-230,448	231,000	491,224	260,776	0	0	
144	5300	大阪インターカレッジコープ														120,091	180,137	2,820	363,077	15,800,000	395,000	938,214	938,214	434,000	46%	-504,214	505,000	469,107	-35,107	36,000	0	
145	5301	大阪経済大学生生活協同組合														226,909	340,364	7,062	909,236	152,224,000	3,805,600	5,055,200	5,055,200	4,438,000	88%	-617,200	618,000	2,527,600	1,910,400	0	0	
146	5302	大阪教育大学生生活協同組合														496,085	744,128	5,119	659,074	130,765,000	3,269,125	4,672,327	4,672,327	2,726,000	58%	-1,946,327	1,947,000	2,336,164	389,837	0	0	
147	5303	大阪公立大学生生活協同組合														1,463,848	2,195,773	18,738	2,412,527	495,372,800	12,384,320	16,992,620	16,992,620	11,305,000	67%	-5,687,620	5,688,000	8,496,310	2,808,690	0	0	
148	5320	近畿大学生生活協同組合														1,506,820	2,260,231	28,963	3,729,001	631,228,000	15,780,700	21,769,932	21,769,932	10,352,000	48%	-11,417,932	11,418,000	10,884,966	-532,966	533,000	1,191,000	
149	5322	阪南大学生生活協同組合														230,548	345,823	4,174	537,405	100,516,000	2,512,900	3,396,128	3,396,128	2,335,000	69%	-1,061,128	1,062,000	1,698,064	636,936	0	0	
150	5323	大阪大学生生活協同組合														3,512,412	5,268,618	35,090	4,517,855	583,784,400	14,594,610	24,381,083	24,381,083	18,996,000	78%	-5,385,083	5,386,000	12,190,542	6,805,459	0	0	
151	5324	大阪電気通信大学生生活協同組合														393,314	589,971	5,722	736,711	172,936,000	4,323,400	5,650,082	5,650,082	2,670,000	47%	-2,980,082	2,981,000	2,825,041	-155,041	156,000	101,000	
152	5325	大阪千代田短期大学生生活協同組合														17,988	26,982	270	34,763	3,320,000	83,000	144,745	144,745	307,000	212%	162,255	0	72,373	234,628	0	0	
153	5326	千里金蘭大学生生活協同組合														77,274	115,911	2,004	258,016	24,115,000	602,875	976,802	976,802	987,000	101%	10,198	0	488,401	498,599	0	0	
154	5327	大阪樟蔭女子大学生生活協同組合														126,922	190,383	1,814	233,554	42,965,000	1,074,125	1,498,062	1,498,062	1,233,000	82%	-265,062	266,000	749,031	483,969	0	0	
155	5340	和歌山大学消費生活協同組合														393,744	590,617	4,141	533,156	86,601,000	2,165,025	3,288,798	3,288,798	3,264,000	99%	-24,798	25,000	1,644,399	1,619,601	0	15,000	
156	5341	和歌山県立医科大学生生活協同組合														208,618	312,927	1,787	230,078	36,580,000	914,500	1,457,505	1,457,505	1,396,000	96%	-61,505	62,000	728,753	667,248	0	46,000	
157	5350	神戸大学生生活協同組合														2,056,699	3,085,049	22,560	2,904,612	377,148,000	9,428,700	15,418,361	15,418,361	15,840,000	103%	421,639	0	7,709,181	8,130,820	0	0	
158	5351	神戸市外国語大学消費生活協同組合														265,845	398,767	2,646	340,674	55,176,000	1,379,400	2,118,841	2,118,841	1,941,000	92%	-177,841	178,000	1,059,421	881,580	0	0	
159	5352	甲南大学生生活協同組合														871,677	1,307,516	10,191	1,312,097	297,835,000	7,445,875	10,065,488	10,065,488	9,871,000	98%	-194,488	195,000	5,032,744	4,838,256	0	0	
160	5353	神戸薬科大学生生活協同組合														252,534	378,801	2,050	263,939	62,835,000	1,570,875	2,213,615	2,213,615	1,495,000	68%	-718,615	719,000	1,106,808	388,193	0	0	
161	5354	神戸親和大学生生活協同組合														81,581	122,372	1,376	177,161	26,750,000	668,750	968,283	968,283	1,089,000	112%	120,717	0	484,142	604,859	0	0	
162	5355	甲南女子大学生生活協同組合														198,638	297,958	3,636	468,137	93,680,000	2,342,000	3,108,095	3,108,095	2,584,000	83%	-524,095	525,000	1,554,048	1,029,953	0	0	
163	5356	神戸市立工業高等専門学校生活協同組合														126,161	189,242	1,285	165,445	12,850,000	321,250	675,937	675,937	350,000	52%	-325,937	326,000	337,969	12,032	0	0	
164	5370	関西学院大学生生活協同組合														2,583,912	3,875,869	33,905	4,365,286	504,654,000	12,616,350	20,857,505	20,857,505	14,345,000	69%	-6,512,505	6,513,000	10,428,753	3,916,248	0	0	
165	5371	兵庫県立大学生生活協同組合														753,272	1,129,908	7,895	1,016,486	154,645,000	3,866,125	6,012,519	6,012,519	5,515,000	92%	-497,519	498,000	3,006,260	2,508,741	0	0	
166	5372	大手前大学生生活協同組合														106,842	160,264	2,681	345,181	52,355,000	1,308,875	1,814,320	1,814,320	2,719,000	150%	904,680	0	907,160	1,811,840	0	0	
167	5373	園田学園大学生生活協同組合														152,940	229,411	2,324	299,217	43,805,000	1,095,125	1,623,753	1,623,753	1,453,000	89%	-170,753	171,000	811,877	641,124	0	0	
168	6000	岡山大学生生活協同組合														1,945,160	2,917,741	14,742	1,898,040	272,510,000	6,812,750	11,628,531	11,628,531	9,132,000	79%	-2,496,531	2,497,000	5,814,266	3,317,735	0	0	
169	6001	就実生活協同組合														179,675	269,513	2,508	322,907	52,315,000	1,307,875	1,900,295	1,900,295	1,573,000	83%	-327,295	328,000	950,148	622,853	0	0	
170	6010	広島大学消費生活協同組合														2,962,890	4,444,336	17,317	2,229,573	281,401,000	7,035,025	13,708,934	13,708,934	10,453,000	76%	-3,255,934	3,256,000	6,854,467	3,598,533	0	0	
171	6011	広島修道大学生生活協同組合														486,711	730,067	6,630	853,616	127,741,000	3,193,525	4,777,208	4,777,208	3,255,000	68%	-1,522,208	1,523,000	2,388,604	866,396	0	0	
172	6012	福山市立大学生生活協同組合														88,304	132,457	1,008	129,781	21,540,000	538,500	800,738	800,738	747,000	93.3%	-53,738	54,000	400,369	346,631	0	0	
173	6020	下関市立大学生生活協同組合														432,116	648,174	3,110	400,415	47,442,000	1,186,050	2,234,639	2,234,639	1,038,000	46%	-1,196,639	1,197,000	1,117,320	-79,320	80,000	0	
174	6021	山口大学生生活協同組合														1,461,984	2,192,977	11,389	1,466,340	200,872,000	5,021,800	8,681,117	8,681,117	4,224,000	49%	-4,457,117	4,458,000	4,340,559	-116,559	117,000	0	
175	6022	水産大学校生活協同組合														97,352	146,029	1,103	142,012	19,536,000	488,400	776,441	776,441	667,000	86%	-109,441	110,000	388,221	278,780	0	0	
176	6023	梅光学院大学生生活協同組合														130,110	195,165	1,520	195,701	33,258,000	831,450	1,222,316	1,222,316	1,411,000	115%	188,684	0	611,158	799,842	0	0	
177	6024	山口県立大学生生活協同組合														126,917	190,376	1,511	194,542	27,645,000	691,125	1,076,043	1,076,043	914,000	85%	-162,043	163,000	538,022	375,979	0	276,000	
178	6030	鳥取大学生生活協同組合														1,057,424	1,586,136	6,752	869,324	117,177,000	2,929,425	5,384,885	5,384,885	4,440,000	82%	-944,885	945,000	2,692,443	1,747,558	0	0	
179	6040	島根大学生生活協同組合														922,894	1,384,341	7,377	949,793	137,532,000	3,438,300	5,772,434	5,772,434	2,629,000	46%	-3,143,434	3,144,000	2,886,217	-257,217	258,000	150,000	
180	6050	香川大学生生活協同組合														984,721	1,477,082	7,422	955,587	127,483,500	3,187,088	5,619,757	5,619,757	4,219,000	75%	-1,400,757	1,401,000	2,809,879	1,409,122	0	0	
181	6051	四国学院生活協同組合														52,711	79,067	1,002	129,008	19,744,000	493,600	701,675	701,675	1,038,000	148%	336,325	0	350,838	687,163	0	0	
182	6060	松山大学生生活協同組合														873,911	1,310,866	6,509	838,037	115,359,000	2,883,975	5,032,878	5,032,878	5,509,000	109%	476,122	0	2,516,439	2,992,561	0	0	
183	6061	愛媛大学生生活協同組合														1,829,704	2,744,557	10,745	1,383,425	226,996,000	5,674,900	9,802,882	9,802,882	8,796,000	90%	-1,006,882	1,007,000	4,901,441	3,894,559	0	0	
184	6062	松山東雲女子大学・松山東雲短期大学生生活協同組合														59,361	89,041	725	93,345	21,885,000	547,125	729,511	729,511	797,000	109%	67,489	0	364,756	432,245	0	0	
185	6070	徳島大学生生活協同組合														1,174,545	1,761,818	10,120	1,302,955	132,985,000	3,324,625	6,389,398	6,389,398	4,676,000	73%	-1,713,398	1,714,000	3,194,699	1,481,301	0	0	
186	6080	高知大学生生活協同組合														698,131	1,047,196	6,812	877,049	117,205,000	2,930,125	4,854,370	4,854,370	3,335,000	69%	-1,519,370	1,520,000	2,427,185	907,815	0	0	
187	6081	高知県公立大学生生活協同組合														390,315	585,472	4,187	539,079	59,826,000	1,495,650	2,620,201	2,620,201	1,692,000	65%	-928,201	929,000	1,310,101	381,900	0	0	
188	7001	福岡教育大学生生活協同組合														315,462	473,194	2,815	362,433	53,685,000	1,342,125	2,177,752	2,177,752	1,853,000	85%	-324,752	325,000	1,088,876	764,124	0	0	

出資金要請基準額50%との差額↓

2025年度  
増資要請額  
(円)

- 2025年度  
増資要請額  
(円)